

# 2021 年度

## 教育学部 講義計画と内容

[目次]

基礎教育学専修 基礎教育学コース  
教育社会科学専修  
教育社会科学専修 比較教育社会学コース  
教育社会科学専修 教育実践・政策学コース  
心身発達科学専修  
心身発達科学専修 教育心理学コース  
心身発達科学専修 身体教育学コース  
教養学部 第2学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目  
教職課程科目 (I) 本郷キャンパス  
教職課程科目 (II) 駒場キャンパス  
特設科目

※この資料は UTAS の簡易版です。

※UTAS と情報が食い違う場合は、UTAS を是としてください。

2021 年度は UTAS のシラバス情報が随時更新される予定のため、注意してください。

時間割コード	09211101	担当教員	山名 淳		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 4
講義題目	西洋教育史概説 Introduction to Western Educational History				

授業の目的・概要	本授業では、西洋の教育(思想)史に関する基礎知識を学ぶと同時に、今日において「西洋教育史」を学ぶことの意義を考える。授業を通して、受講生は西洋教育史の基礎知識を習得し、同時に、社会史と思想史の両次元において教育の歴史を相対化する方法を学ぶことができる。
授業計画	<p>第1回 「西洋教育(思想)史」とは何か——本授業の概要</p> <p>第2回 古代ギリシャ・ローマ——修辞学・哲学・教育</p> <p>第3回 中世——ルネサンスと教育</p> <p>第4回 コメニウス</p> <p>第5回 ロック</p> <p>第6回 ルソー</p> <p>第7回 シラー</p> <p>第8回 ペスタロッチ</p> <p>第9回 ヘルバルト</p> <p>第10回 新教育運動の人びと</p> <p>第11回 マルクス、ニーチェ、ジンメル</p> <p>第12回 デューイと精神科学的教育学</p> <p>第13回 フーコー、アリエス、エリアス</p> <p>第14回 ルーマン、ランシエール、ビースタ</p> <p>第15回 総括——「西洋教育(思想)史」の行方</p>
授業の方法	基本的には講義形式で授業を行う。授業に関する感想を書く時間を設け、その内容を受けて次回授業へとつなげていく。受講生数によっては、ディスカッションやグループワークも取り入れる可能性もある。
成績評価方法	平常点(60パーセント)と期末レポート(40パーセント)の総合的評価を行う。
教科書	とくに指定しない。授業時に関連資料を配付する。
参考書	<p>今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年</p> <p>眞壁宏幹編『西洋教育思想史』慶應義塾大学出版会、2016年</p> <p>教育思想史学会編『教育思想事典(増補改訂版)』勁草書房、2017年</p>
履修上の注意・備考	教育や人間形成に対する関心をもって積極的に参加してください。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)外国史 (地)外国史

時間割コード	09211102	担当教員	田中 智志		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 4
講義題目	教育臨床学概説 Introduction to Clinical Approach to Education				

授業の目的・概要	この講義では、教育臨床学の基本的な考え方、基礎概念を説明する。教育臨床学(ないし臨床教育学)は、1980年代に誕生した新しい教育学の領域である。その基本的な考え方は、論者によって異なるが、大まかにいえば、教育という営みを、客体化された「子どもたち」にかんする事象、「教室」における事象と見なすのではなく、この社会に生きている私たちの生の現実を、とりわけ社会構造・社会思潮の反映、それらとの矛盾、葛藤と見なすことであり、そのなかでよりよく生きるための方途を探る営みと考えることである。教育臨床学はまた、教育という営みを、人が人として生きるうえで編み出した知恵をのちの世代に伝える営みであると見なし、その伝えるべき知恵とは何か、なぜその伝承がうまくいかないのか、問う。
授業計画	第1講 教育臨床学とは何か 第2講 文化をつうじて哲学してみよう 第3講 音楽を考える 1 第4講 音楽を考える 2 第5講 映画を考える 1 第6講 映画を考える 2 第7講 文学を考える 1 第8講 文学を考える 2 第9講 現代の教育の特徴 1 第10講 現代の教育の特徴 2 第12講 現代の教育の特徴 3 第13講 存在と超越について 第14講 ハイデガーにふれつつ 第15講 まとめと最終レポート
授業の方法	講義とともに、毎回、授業の後半に、受講者との質疑応答の時間を設ける。
成績評価方法	毎回の授業における質疑応答の内容と、最終週に提出を求めるレポートによって、行う。出席を重視する。
教科書	田中智志『教育臨床学』高陵社書店、2012年。 田中智志『教育の理念を象る』東信堂、2019年。
参考書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	出席を重視する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09211301	担当教員	山名 淳		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 4
講義題目	教育と人間形成の哲学 Seminar in Philosophy of Education and Bildung				

授業の目的・概要	<p>人生を自己形成(人間形成)の連続と捉えるとき、教育とはそのような自己形成への介入の営みとして位置づけることができる。そのような営みの特徴を捉え、その課題を検討するために、あるテーマを設定して関連するテキストを読み、解釈し、議論を展開することを、本講義では試みる。今回のテーマは、「カタストロフィの想起を促すメディアと教育」である。想起文化、集合的記憶(コミュニケーション的記憶/文化的記憶)、リプレゼンテーション、表現、想起/想像、過去/現在/未来、心的外傷、暴力に抗する教育/教育という暴力など、いくつかのトピックをめぐって、テキストの読解と検討を行う。受講によって、教育および人間形成に関する考察を行う際に重要となる概念、問題構成、テーマ領域を理解すると同時に、それらを用いて具体的な教育現象について解釈を行うことができる。</p>
授業計画	<p>毎回、一トピックを取り上げる。そのトピックに関連するテキストを授業者が選定して、受講生で担当を割り振る。各授業では、各担当受講生が報告を行った後、グループディスカッションを行い、それを全体討議に繋ぎ、最後に授業者が解説を試みる。</p>
授業の方法	<p>授業者が関連テキストを選定して、受講生による報告、グループディスカッション、全体討議、授業担当者による解説、受講生のコメントおよびそのフィードバックを重ねていく。</p>
成績評価方法	<p>平常点(60パーセント)と期末レポート(40パーセント)の総合的評価を行う。</p>
教科書	<p>授業時に指示する。なお、関連資料を授業時に配付する。</p>
参考書	<p>山名淳・矢野智司編『災害と厄災の教育を伝える——教育学は何ができるか』勁草書房、2017年 山名淳「記憶の制度としての教育 ——メモリー・ペダゴジーの方へ——」森田尚人・松浦良充編『現代教育学論集:教育哲学の視座から』東信堂、2019年 アン・ホワイトヘッド『記憶をめぐる人文学』彩流社、2017年 その他、授業時に指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>教育や人間形成に対する関心をもって積極的に参加していただきたい。教育哲学および教育思想史に関する教科書や基本文献を読んでおくことが望ましいが、必須の条件ではない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09211302	担当教員	小国 喜弘		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 2
講義題目	近現代日本教育史演習 Seminar in History of Modern Japanese education				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>日本教育史研究に必要な研究能力、基礎的教養を獲得することを目指している。</p> <p>具体的には、日本の戦後教育の基本構造が定着した 1960 年代に主に焦点をしぼり、歴史的検討を通じて、現代の問題に対する再検討を試みたい。具体的には、以下のようなテーマを受講者の関心に応じて取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育と貧困格差はどのように論じられたかー地域間格差を含めて</li> <li>・「障害」は教育を通してどのように生み出されたか</li> <li>・「受験地獄」はどのように形成されたのか</li> <li>・「学力」はどう論じられたのか</li> <li>・「不登校問題」はどのように形成されたか</li> </ul> <p>などなど</p>
<b>授業計画</b>	<p>第 1 回:オリエンテーション:ゼミの参加の仕方、教育史研究の意義</p> <p>第 2 回:ゼミでの文献の調べ方について、取り上げてみたいテーマを考える</p> <p>第 3 回:&lt;全員発表&gt;「高度経済成長と教育」について</p> <p>第 4 回:「流行性感冒」と、学校はどのように闘ってきたのか</p> <p>第 5 回:「障害」は、いかにして教育の中で取り上げられてきたのか</p> <p>第 6 回:&lt;個人テーマ&gt;の絞り込み</p> <p>第 7 回:「貧困」からみた学校教育史</p> <p>第 8 回:「不登校」からみた学校教育史</p> <p>第 9 回 中間発表の相互交流 1、論文の書き方 1</p> <p>第 10 回 中間発表の相互交流 2、論文の書き方 2</p> <p>第 11 回 個人発表 1</p> <p>第 12 回 個人発表 2</p> <p>第 13 回 個人発表 3</p>
<b>授業の方法</b>	<p>まず、うまくウェブ授業に参加する環境がない方、当日通信障害などで参加できなかった方などはご相談ください。皆さんの学習の権利が損なわれないよう、最大の配慮をします。</p> <p>今回のウェブ授業でできることは限られているかもしれませんが、敢えて、ウェブ授業だからできることに目を向けてみたいと思っています。また、ウェブであっても、ブレイクアウト機能を用い、集団での討議により教育を多面的に見て考える力、議論する力、論点を整理し仮説を構築する力の形成を目指したいと思います。</p> <p>緊急事態宣言の解除によって、教場授業が可能になったときは、途中でシラバスを変更することもあります。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>基本的に発表の質によって評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1文献を十分に読み込み論点を整理できているか</li> <li>2周辺の文献、先行研究を踏まえているか</li> <li>3発表回までのゼミの流れを踏まえた発表になっているか</li> <li>4新たな視点の提示をなし得ているか</li> </ol> <p>* 単位の取り方:講義の毎回終わりに、google フォームでアンケートをとります。それが出席代わりとなり、原則として 2 / 3 以上の出席を単位の基礎資格とします。ただし、通信環境、体調などで欠席する場合は、配慮しますので、おっしゃってください。</p>

	* 第 11~13 回目に発表する小レポートで成績を付けます。
教科書	共通文献については、前週までに原則として PDF ファイルにて共有する。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	対面とオンラインのハイブリッドで行います。対面での参加を希望する人は、基礎きょういくがくコース(学部棟 2 階)の 208 か 261 に集まってください。感染対策に留意して開講します。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09211303	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 4
講義題目	価値と教育Ⅱ Seminar in Values and Education II				

授業の目的・概要	<p>2020年度の「価値と教育Ⅰ」に引き続き、「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、英語文献と日本語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、現代社会における人格教育に関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. A Framework for Character Education in Schools: Which virtues constitute good character 精読</li> <li>3. A Framework for Character Education in Schools: The components of virtues 精読</li> <li>4. アリストテレス「第1巻 人生の目的」講読</li> <li>5. アリストテレス「第2巻 &lt;性格の徳&gt;と中庸説」講読</li> <li>6. A Framework for Character Education in Schools: Virtue literacy 精読</li> <li>7. アリストテレス「第3巻 &lt;性格の徳&gt;の構造分析、および勇気と節制」講読</li> <li>8. アリストテレス「第4巻 その他の&lt;性格の徳&gt;および悪徳」講読</li> <li>9. A Framework for Character Education in Schools: The goals of character education 精読</li> <li>10. アリストテレス「第5巻 正義と不正」講読</li> <li>11. A Framework for Character Education in Schools: School ethos based on character 精読</li> <li>12. アリストテレス「第6巻 思考の徳と正しい道理」講読</li> <li>13. A Framework for Character Education in Schools: Teachers as character educators 精読</li> <li>14. アリストテレス「第7巻 抑制のなさや快楽の本性」講読</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
授業の方法	<p>文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読と内容についてのディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。</p>
成績評価方法	<p>試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシートと期末レポート、ゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。期末レポートは「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに2,000字程度で論じたものとする予定である。</p>
教科書	<p>Jubilee Centre for Character and Virtues (2017) A Framework for Character Education in Schools (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues).          アリストテレス(2002)『ニコマコス倫理学』 朴一功訳(京都大学学術出版会)。</p>
参考書	<p>クリスチャン・クリスチャンソン(2018)『子どもを開花させるモラル教育—21世紀のアリストテレス的人格教育』中山理監訳(麗澤大学出版会)。          片山勝茂(2017)「イギリスの道德教育改革からみる日本の道德『教科化』」明治図書「教育 ZINE」  <a href="https://www.meijitoshu.co.jp/eduzine/opinion/?id=20170108">https://www.meijitoshu.co.jp/eduzine/opinion/?id=20170108</a>          酒井喜八郎(2019)「イギリス・ジュリービーセンターにおけるキャラクター教育の特質—わが国の社会科と道徳科の関連に示唆するもの」『南九州大学人間発達研究』第9巻。          その他、授業中に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>2020年度の「価値と教育Ⅰ」を受講していない人も、受講を歓迎する。また、正当な理由があって欠席する人は配慮する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09211304	担当教員	田中 智志		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	教育と交感性を考える Seminar in Education and Sympathy				

授業の目的・概要	この演習では、「教育臨床学概説」を踏まえつつ、もっとも基礎的な心情・感情であると考えられる交感性を踏まえつつ、自律性、関係性、固有性(かけがえのなさ)、無条件の愛、弱さの力、共鳴共振などの教育臨床学の基礎概念について、現代の社会状況を踏まえつつ、具体的な教育問題・生育問題を取りあげながら、その理解を深めることをめざす。
授業計画	第1回 授業の概要 第2回 教育臨床学のスコープ 第3回 発表のグループ編成・テーマ設定 第4回 何が自律性と呼ばれるのか 第5回 何が個性と呼ばれるのか 第6回 有用性・機能とは何か 第7回 強さだけが力なのか 第8回 良心の呼び声とは何か 第9回 現代の教育論について 1 第10回 現代の教育論について 2 第11回 現代の教育論について 3 第12回 交感性とは何か 第13回 交感性を覆うもの 第14回 現代教育の課題 第15回 演習のまとめと最終レポート
授業の方法	授業は、基本的に毎回、報告者を定めて、報告、討議を行う。とりあげる事例や文献については、参加者(報告者)の意向を最大限に尊重する。基本的に制限をもうけない。 内容のうえで報告者に求められることは、その分析ないし考察によって、人(子ども)がよりよく生きるための知恵(思考活動)が暗示ないし示唆されていることである。
成績評価方法	毎回の各グループの発表の内容、議論における各人の発言内容から、総合的に評価する。出席を重視する。
教科書	テキストはとくに定めないが、必要な文献は授業の開始時にリストにして配布する。
参考書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	出席を重視する。
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09211305	担当教員	小玉 重夫		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	教育の公共性を考える Seminar in Publicness of Education				

授業の目的・概要	<p>教育思想の重要文献を購読するゼミである。内容としては、教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ(市民性)をめぐる最近の研究動向に留意する。</p> <p>本年度は特に、コロナ後の政治、社会と教育の関係を根本から問い直す課題に取り組むために、人新世(アントロポセン)の時代のポストヒューマンの思想を検討する。まず、映画『天気の子』(新海誠)とそれをめぐる批評を取り上げ、検討する。その後、『ポストヒューマン—新しい人文学に向けて』(ロージ・ブライドッティ著、門林岳史=監訳、2019年、フィルムアート社)を取り上げる。同書は、人新世の時代において、人間たちはかつてと同じ「人間性」を保持しているとみなしうるのかについて、アレントやベンヤミンらの議論をふまえつつあつあつかつたもので、著者は、ニュー・マテリアリズムの代表的論者のひとりであり、ジュディス・バトラー以降のフェミニズム理論を牽引する研究者である。</p> <p>原則、オンラインでの授業を考えているが、状況を見ながら、ハイブリッド(対面とオンラインの併用)も考えている。詳細は初回の授業の時に説明をし、受講者と相談しながら進めていきたい。</p>
授業計画	<p>詳細は、初回の授業時(10月8日)に決めるが、大まかには、以下のような流れを考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介とガイダンス</li> <li>2 映画『天気の子』とその批評 1</li> <li>3 映画『天気の子』とその批評 2</li> <li>4、5 『ポストヒューマン—新しい人文学に向けて』 序 第一章 ポスト人文主義——自己を越える生</li> <li>6、7 同書 第二章 ポスト人間中心主義——種を越える生</li> <li>8、</li> <li>9 同書 第三章 非人間的なもの——死を越える生</li> <li>10、11 同書 第四章 ポストヒューマン人文学——理論を越える生</li> <li>12、13 同書 結論 全体のまとめ</li> </ol>
授業の方法	報告と討論を中心とする。
成績評価方法	ゼミでの報告等による平常点。
教科書	こちらで用意して参加者に配布の予定。
参考書	小玉重夫『教育政治学を拓く』(勁草書房)
履修上の注意・備考	初回の授業時に分担等を行う予定。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09211306	担当教員	大塚 類		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 5
講義題目	教育臨床問題について考える Seminar in Clinical Phenomenology of Education				

授業の目的・概要	<p>臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。</p> <p>本講義ではまず、講義者の自己紹介も兼ねて、臨床現象学的事例研究の論文を数本読み、その形式を学びます。そのうえで、若者・家族・教育にまつわる個別具体的なトピックを取り上げている『さらにあたりまえを疑え！』を教科書として、皆で対話を重ねます。</p> <p>人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋げられるはずで、受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 臨床現象学に関する論文講読①</li> <li>3 臨床現象学に関する論文講読②</li> <li>4 序章:みんなと普通に生きられること+第一章:家族の形</li> <li>5 第二章:児童虐待</li> <li>6 第三章:発達障害</li> <li>7 第四章:生きられる時空間</li> <li>8 第五章:いじめ</li> <li>9 第六章:自閉症スペクトラム障害</li> <li>10 第七章:カウンセリング</li> <li>11 第八章:不登校</li> <li>12 第九章:非行</li> <li>13 第十章:キャリア教育</li> <li>14 終章:みんなと普通に生き続けること</li> <li>15 本ゼミのまとめ</li> </ol>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のゼミ形式で行う。オンライン授業で教育効果が高かったので、オンライン授業で実施する予定。</li> <li>・受講者は事前に教科書の該当章を読み、質問(任意)とグループワークで話したいテーマ(必須)を、LMSにて提出</li> <li>・授業冒頭は、前回のリアクションペーパーへの回答、事前質問への回答を講義者より行う。(約 30 分)</li> <li>・ブレイクアウトセッションを介して、メンバーを変えて 2 回グループワークを行う(25 分×2 回)</li> <li>・残りの時間は全体討論(任意)。発言、チャットなどを駆使してテーマへの考察を深める。(約 20 分)</li> </ul>
成績評価方法	平常点(毎回の出席状況と予習課題・オンラインリアクションペーパーの提出状況)
教科書	遠藤野ゆり・大塚類 2020『さらにあたりまえを疑え！』新曜社
参考書	授業中に適宜指示します
履修上の注意・備考	<p>特になし。</p> <p>当事者意識をもった積極的な受講を期待します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09211401	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 4
講義題目	道徳と教育 Morality and Education				

授業の目的・概要	<p>「道徳と教育」をテーマに、道徳教育に関する近年の動向及び理論・歴史・実践についての知識・理解や、人間の道徳性についての近年の研究への知識・理解を得るとともに、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の視点から多様な道徳教育の授業を実践し、批評する能力を身につけ、現代の道徳と教育に関わる問題について(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、道徳科の学習指導案の実例と作成のポイント</li> <li>2. 道徳の原義と本質、道徳と道徳を教えることへの疑い</li> <li>3. 日常生活における道徳、道徳教育の目的—道徳教育及び道徳科の目標としての道徳性</li> <li>4. 道徳教育の基本とよくある指導法の問題点、「考え合うことができる」発問</li> <li>5. 道徳授業の経験のふりかえり、オリジナルな道徳授業の作成—教材の開発と活用</li> <li>6. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」①学習指導要領改訂の経緯と道徳科の主な内容</li> <li>7. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」②指導計画の作成と道徳科の評価</li> <li>8. いじめについて—いじめの定義の変遷とその背景、いじめの理解</li> <li>9. いじめの未然防止、ケアの共同体としての学校</li> <li>10. 道徳(性)はいかにして変化するのか、情報モラル</li> <li>11. 戦前のモラルと道徳教育の歴史①戦前・戦後 20 年のモラル、修身科、教育二関スル勅語</li> <li>12. 戦前のモラルと道徳教育の歴史①国定修身教科書、国民学校と太平洋戦争下の教育</li> <li>13. モラルジレンマ授業と道徳的判断の理由づけの発達(模擬授業の実施)</li> <li>14. 問題解決型の道徳授業、モラルスキルを育成する道徳授業(模擬授業の実施)</li> <li>15. エンカウンターと価値の明確化による道徳教育(模擬授業の実施)、まとめと解説</li> </ol>
授業の方法	<p>講義による。ただし、できる限りワークショップ形式を取り入れ、(アイスブレイクなどを活用した)参加体験型学習を体験してもらう予定である。また、模擬授業を実施し、相互批評を行うことも予定している。</p>
成績評価方法	<p>試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシート、期末レポート及び授業中の発表を合わせて総合的に評価する。期末レポートは二つをまとめた形での提出を求める予定である。一つは授業で扱った事柄をテーマに 4,000 字程度で論じたものとする。もう一つは、道徳の学習指導案を提出してもらう予定である。</p>
教科書	<p>文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編』教育出版(文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。</p>
参考書	<p>荒木紀幸編(2017)『考える道徳を創る 中学校 新モラルジレンマ教材と授業展開』明治図書。          尾高正浩(2006)『「価値の明確化」の授業実践』明治図書。          永田繁雄編(2017)『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所。          中戸義雄・岡部美香編著(2005)『道徳教育の可能性—その理論と実践』ナカニシヤ出版。          ジョナサン・ハイト(2014)『社会はなぜ左と右にわかれるのか—対立を超えるための道徳心理学』紀伊国屋書店。          林泰成編(2011)『中学校 道徳授業で仲間づくり・クラスづくり モラルスキルトレーニングプログラム』明治図書。          ポール・ブルーム(2015)『ジャスト・ベイビー—赤ちゃんが教えてくれる善悪の起源』NTT 出版。          桃崎剛寿(2008)『「中学生を変えた」奇跡の道徳授業づくり』日本標準。          桃崎剛寿(2016)『スペシャリスト直伝 中学校道徳授業成功の極意』明治図書。          諸富祥彦編(2014)『ほんもののエンカウンターで道徳授業 中学校編』明治図書。          柳沼良太編(2017)『子どもが考え、議論する問題解決型の道徳授業 事例集 中学校』明治図書。          ヨーロッパ評議会(2006)『人権教育のためのコンパス[羅針盤]—学校教育・生涯学習で使える総合マニュアル』明石</p>

書店。  
ヨーロッパ評議会(2009)『コンパシット[羅針盤]—子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』人権教育啓発推進センター。  
渡邊満他編(2016)『シリーズ「特別の教科 道徳」を考える 1 「特別の教科 道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育』北大路書房。  
その他、講義において指示する。

**履修上の注意・備考**  
正当な理由があって欠席する人や通信環境の問題でオンライン授業を受けられなかった人は配慮するので、ITC-LMS で通知する欠席連絡フォームに記入すること。あわせて、ITC-LMS から教材をダウンロードし、別途メールで通知する URL を用いてワークシート(課題)を提出すること。  
また、教科書の文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編』については、事前に冊子体を購入するか、文部科学省のウェブサイトからダウンロードしておくこと。

**教育職員免許法上の認定科目**  
教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照  
※G 参照  
教科又は教職に関する科目(旧)  
大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09211402	担当教員	大塚 類		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	臨床教育現象学概論 Introduction to Clinical Phenomenology of Education				

授業の目的・概要	<p>臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。</p> <p>本講義では毎回、若者・家族・教育にまつわる個別具体的な事例を取り上げます。講義者が体験したり見聞きしたりした出来事だけではなく、マンガ、エッセイなども事例として取り上げる予定です(参考資料参照)。人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋げられるはずです。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 私たちが囚われている「あたりまえ」の枠組み:フッサール「間主観性」とハイデガー「世間」</li> <li>3 自分の可能性を選びほぐす:ハイデガー「可能性」</li> <li>4 covid-19 は子どもたちから何を奪い続けているのか:妥当性の雰囲気からの観点から</li> <li>5 現代家族と過保護:「毒親」と「心の穴」</li> <li>6 虐待親が語る虐待:ナラティブ・アプローチ</li> <li>7 他者は理解できるのか①:フッサール「感情移入」</li> <li>8 他者は理解できるのか②:空気を読む・雰囲気に基づく他者理解</li> <li>9 つながり地獄:現象学における「他者」</li> <li>10 愛するとはどういうことか:模図かずおから学ぶ</li> <li>11 教育／ケアがはらむ独善性と暴力性:認識の変容をめぐる</li> <li>12 語ることの功罪①:癒しとしての語り</li> <li>13 語ることの功罪②:自殺企図者の語り</li> <li>14 語ることの功罪③:語りを強要すること</li> <li>15 総括</li> </ol>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の人数にもよるが、講義形式で行なう。</li> <li>・毎授業の導入では、前回の授業における受講者からのリアクションペーパーへの回答を行う。</li> <li>・そのうえで、当該授業のテーマと具体的事例ならびに考察を提示する。</li> <li>・テーマによっては、授業中に受講者同士のディスカッションの時間を設ける</li> <li>・授業後受講者はオンラインリアクションペーパーを提出する。</li> </ul>
成績評価方法	平常点(登録人数が100名を超えた場合毎授業後のリアクションペーパーで出席を管理する)と期末レポート
教科書	特に指定しない。
参考書	<p>W.ブランケンブルク 1978『自明性の喪失』みすず書房</p> <p>遠藤野ゆり・大塚類 2014『あたりまえを疑え!』新曜社</p> <p>M.ハイデガー 2003『存在と時間』中央公論新社</p> <p>穂村弘 2009『世界音痴』小学館</p> <p>E.フッサール 2001『デカルト的省察』岩波書店</p> <p>村上春樹 2007『東京奇譚集』新潮社</p> <p>村上靖彦 2017『母親の孤独を回復する』講談社</p> <p>野口裕二 2002『物語としてのケア』医学書院</p>

模図かずお 1995『おろち』秋田書店

**履修上の注意・備考**

当事者意識をもった積極的な受講を期待します。  
おそらくオンライン授業になると思われます。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09211403	担当教員	河野桃子		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育思想特論Ⅱ Special Topics in Educational Thought Ⅱ				

授業の目的・概要	<p>R.シュタイナー(Rudolf Steiner 1861-1925)によって生み出されたシュタイナー教育(Waldorfpädagogik)を巡っては、長く、「その学校は歓迎され、その思想は敬遠される」(西平直)という状況が続いていました。しかし近年、その思想を学術的に吟味する試みは国内外ともに充実してきています。</p> <p>本授業ではまず、シュタイナー教育の実践を、動画視聴や体験活動を多く取り入れながら紹介し、その実践と後期思想(人智学)の関係について、どのような解釈がなされてきたのかを確認します。その上で、人智学を、その土台をなす哲学的な前期思想の枠組みを用いて再検討し、「自由と倫理の両立」に向けた〈教育〉のための〈神話〉として捉え直します。この取り組みのなかで、シュタイナー教育に限定されない教育一般について、「ホリスティック(全体論的、包括的)な知」という観点から得られる示唆を探求していきます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 シュタイナー教育の実践と思想(1) 幼児期の教育</li> <li>3 シュタイナー教育の実践と思想(2) 児童期の教育</li> <li>4 シュタイナー教育の実践と思想(3) 思春期の教育</li> <li>5 気質論、十二感覚論について</li> <li>6 シュタイナー教育の実践と人智学の関係を巡る議論: 批判、不問、評価</li> <li>7 シュタイナー前期思想と後期思想の連続／非連続</li> <li>8 通底する「エゴイズムの克服」という課題</li> <li>9 『自由の哲学』における「自由と倫理の両立」: 「世界自己」と「倫理的個人主義」</li> <li>10 〈教育〉のための〈神話〉としての人智学</li> <li>11 知性の成果を担った「ハートの思考」の実現</li> <li>12 〈神話〉の役割(1) 「この自分」の枠をゆるめる「一体となって知ること」</li> <li>13 〈神話〉の役割(2) 「認識の外部」についての語りと「想像力」の誘発</li> <li>14 「ホリスティックな知」による〈教育〉と教育</li> <li>15 まとめ</li> </ol>
授業の方法	<p>授業は講義形式を基本とするが、受講生や授業者が気になった点については適宜時間を取り、意見交換を行う。また、必要に応じて、実践の様子を映した動画を視聴したり、シュタイナー幼稚園やシュタイナー学校で行われている水彩画や線描等を体験したりする。資料・教材等は、授業時に配布する。</p>
成績評価方法	<p>最終レポート、授業内で課すリアクションペーパー、授業への参加度に基づき、総合的に評価する。</p>
教科書	<p>指定しない。</p>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シュタイナー(高橋巖訳)1989『教育の基礎としての一般人間学』筑摩書房</li> <li>・シュタイナー(松浦賢訳)1999『完全版 霊学の観点からの子どもの教育』イザラ書房</li> <li>・シュタイナー(森章吾訳)2017『自由の哲学』イザラ書房</li> <li>・今井重孝 2012『“シュタイナー”『自由の哲学』入門』イザラ書房</li> <li>・衛藤吉則 2018『シュタイナー教育思想の再構築—その学問としての妥当性を問う』ナカニシヤ出版</li> <li>・西平直 1999『シュタイナー入門』講談社</li> <li>・広瀬俊雄ほか編 2020『シュタイナー教育 100年—80カ国の人々を魅了する教育の宝庫』昭和堂</li> <li>・吉田敦彦 1999『ホリスティック教育論—日本の動向と思想の地平』日本評論社</li> </ul>

その他、授業内で指示する。

**履修上の注意・備考**

シュタイナー教育は、しばしばその実践や思想の特殊性にのみ焦点化され、内容を深く知る手前で拒絶されてしまうことも少なくありません。授業時に説明を聞くなかで違和感をもつ場面もあるかもしれませんが、そうした違和感もオープンに共有しながら、「異文化理解」の姿勢で、そこからどのような新しい視点が得られるのかを一緒に探求してほしいと思います。

※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

**教育職員免許法上の認定科目**



時間割コード	09211404	担当教員	小国 喜弘 野崎 大地 熊谷 晋一郎 近藤 武夫 東郷 史治 仁平 典宏 能智 正博 星加 良司		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	<p>人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自身が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。</p>
授業計画	<p>(以下は現時点での予定である。順番が入れ替わることがある)</p> <p>第一回 オリエンテーション          &lt;教育における「バリア」&gt;</p> <p>第二回 教育のバリアフリーとICT 利用(近藤先生)4月16日</p> <p>第三回 学校というバリア(小国)4月23日</p> <p>第四回 学校組織における包摂と排除(二羽先生)4月30日          &lt;身体機能を通してみる「バリア」&gt;</p> <p>第五回 現代の暮らしを支える社会環境と心身の健康(東郷先生)5月7日</p> <p>第六回 脳の障害によって生じるバリア(野崎先生)5月21日          &lt;ゲスト講義&gt;</p> <p>第七回 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合先生(野崎先生))5月28日          &lt;語り／言葉をめぐる「バリア」&gt;</p> <p>第八回 当事者研究の可能性(熊谷先生)6月4日</p> <p>第九回 障害者の語り(能智先生)6月11日</p> <p>第十回 「見えない障害」とカミングアウト(飯野先生)6月18日          &lt;社会のひずみとしての「バリア」&gt;</p> <p>第十一回 移民の子どもから考える日本社会のバリア(額賀先生)6月25日</p> <p>第十二回 社会現象としての「障害」(星加先生)7月2日</p> <p>第十三回 「バリア」の認識論(星加先生)7月9日</p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。</p> <p>zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の 10 分に、google classroom を用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば 30 字以内)は、0 点とすることがあります。およそ 200 字前後を目安とし</p>

	て、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内にお願いします。
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoom の参加 URL については、現在のところ、この講義に固定された URL となっておりますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。</p> <p>インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。その場合は、下記のアドレスにご連絡ください。また通信環境が整わない方は、整った段階でお知らせください。</p> <p>バリアフリー教育開発研究センター バリア・スタディーズ担当 utbarrier.studies@gmail.com</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09211501	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年	時限	月 1
講義題目	基礎教育学研究指導 Tutorial in Basic Theories of Education				

授業の目的・概要	基礎教育学コースの卒業論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。山名が教育哲学、小玉と片山が教育人間学・教育思想、小国が日本教育史、田中・大塚が教育臨床学・教育実践論を担当し、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授業計画	<p>この授業は集中形態の授業である。履修者は複数回にわたり、自分の卒業論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に自分の研究テーマに関連する教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての体系的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員全員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。</p> <p>第1回 基礎教育学研究指導 オリエンテーション 第2回 卒業論文作成における留意点 第3回 卒業論文作成のためのガイドライン 第4回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 卒業論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告1 第13回 中間報告2 第14回 中間報告3 第15回 中間報告4 第16回 秋季報告1 第17回 秋季報告2 第18回 秋季報告3 第19回 秋季報告4 第20回 最終報告1 第21回 最終報告2 第22回 最終報告3 第23回 最終報告4 第24回 直前指導1 第25回 直前指導2 第26回 直前指導3 第27回 直前指導4 第28回 概要作成1 第29回 概要作成2 第30回 研究指導のまとめ</p>
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
参考書	必要な文献について、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	基礎教育学コースで卒業論文を執筆する者は必ず登録すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212301	担当教員	福留 東土 両角 亜希子		
単位数	2	学期	S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育社会科学演習 Seminar in the Education and Social Science				

授業の目的・概要	<p>本授業では大学の教育に焦点を当てる。大学を含めた高等教育段階の教育研究は、伝統的な教育学において主要な研究対象ではなかったが、ここ 30 年ほどで大きく研究が進展した分野である。本授業の担当教員は、普段、大学院の「大学経営・政策コース」の教育を担当しているが、その知見を学部教育に反映させ、学部生向けに編成した授業を行う。本授業の主要な目標は、受講生各自の大学生活の経験に立脚しながら、各自が自分の視点から、大学での学習や大学生活の意義を捉えることができるようになることである。各自の学習や学生生活を考える材料として、それらを支える教育とカリキュラム、学生支援、政策動向について取り上げる。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学教育を巡る論点と政策動向</li> <li>2. 大学教育のカリキュラム</li> <li>3. 国際比較の視野から見た大学教育</li> <li>4. 学生生活と大学生の経験</li> <li>5. 大学教員からみた大学教育</li> <li>6. 授業料・奨学金と学生生活</li> <li>7. 大学教育の効用・効果</li> </ol>
授業の方法	講義、学生間のグループディスカッション、学生の発表と意見交換を中心に行う。
成績評価方法	授業への参加と貢献、期末レポートによる。
教科書	授業時に配布する。
参考書	<p>大学経営・政策コース編『大学経営・政策入門』東信堂、2018 年。</p> <p>小方直幸編『大学マネジメント論』放送大学、2020 年。</p> <p>他、授業時に提示する。</p>
履修上の注意・備考	できるだけ学生参加型の授業編成とするので、授業に積極的に参加すること。また、要望があれば担当教員に伝えること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212302	担当教員	日下田 岳史		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 5
講義題目	教育経済学 Seminar in Economics of Education				

授業の目的・概要	教育に関する社会的な問題について経済という視点から考えるための理論を習得し、その理論に裏付けられた実証分析(多変量解析を含む)ができるようになることが、本講義のねらいです。実証分析にはパソコンを使います。エクセルの基本的な操作は理解しているという前提で、講義を行います。なお本講義は、社会調査士カリキュラム上の E 科目(多変量解析の方法に関する科目)に対応しています。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育と財市場</li> <li>2 教育と労働市場</li> <li>3 投資としての教育(大学教育の内部収益率の計測)</li> <li>4 人的資本投資量に影響を与える諸要因</li> <li>5 大学教育の内部収益率の計測結果の発表と討論</li> <li>6 教育収益率の計測のための回帰モデルの導出</li> <li>7 相関と回帰</li> <li>8 回帰係数の性質と仮説検定</li> <li>9 重回帰分析によるミンサー型収益率の推計</li> <li>10 大学教育の大衆化と経済的価値についての実証分析(時系列データを用いる回帰分析における系列相関への対処)</li> <li>11 進学機会を規定する様々な経路(パス解析)</li> <li>12 進学/非進学の選択の規定要因に焦点を当てた分析手法(線形確率モデルとロジスティック回帰分析)</li> <li>13 多変量解析に基づく実証分析結果の発表と討論</li> </ol>
授業の方法	主な授業方法は講義形式ですが、授業計画にありますように第 5 回・第 13 回の授業は演習形式とします。なお、第 1～4 回の授業においては、講義内容を踏まえたディカッションを、時間の許す範囲で取り入れたいと考えています。
成績評価方法	提出課題の内容に基づいて成績を評価します。
教科書	指定しません。
参考書	授業各回の配付資料に記載します。
履修上の注意・備考	ノートパソコンを教室に持参するようお願いする場合があります。エクセルの基本的な操作は理解しているという前提で、講義と演習を行います。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212303	担当教員	本田 由紀		
単位数	2	学期	S1	時限	火 4, 金 4
講義題目	日本社会の変容と課題 Change and Problems of Japanese Society				

授業の目的・概要	<p>日本社会の変容と課題について、様々な文献やデータを読み取ることを通じて、現在の日本社会の特徴と求められる対策について認識を深める。</p> <p>一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。</p>
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーションと講義(日本のクラスサイズ)</p> <p>第2回:講義(メリトクラシーと社会的包摂)</p> <p>第3回:社会階層と進路選択</p> <p>第4回:日本の教育の制度的特徴</p> <p>第5回:学校の変化と権力</p> <p>第6回:大学教育の職業的レリバンズ</p> <p>第7回:大学教育と価値意識</p> <p>第8回:就職活動</p> <p>第9回:ジェンダーと家事分担</p> <p>第10回:働き方</p> <p>第11回:社会保障</p> <p>第12回:メディアと差別</p> <p>第13回:教育の不平等</p>
授業の方法	<p>文献を講読し、履修者間で議論することにより、現代日本社会の現実と問題点について知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるかについての認識を形成する。</p> <p>授業で得た知識をふまえ、中間課題・期末課題を課す。</p>
成績評価方法	<p>授業時に提出する講読票、中間課題、期末課題を5:2:3の比率で評価する。</p>
教科書	<p>文献等は本授業の初回で提示する。</p>
参考書	<p>本田由紀『教育は何を評価してきたのか』岩波新書、2020年</p> <p>本田由紀『社会を結びなおす』岩波ブックレット、2014年</p> <p>本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書、2009年</p>
履修上の注意・備考	<p>現代の親子関係、若年労働市場、教育政策、社会福祉などについて社会的課題と研究上の課題を幅広く押さえる内容の授業であるため、それらに関する実証的研究に取り組もうとする者にとって直接的に役立つことはもちろん、社会学の方法論・理論についての基礎教養を得ることができる。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212304	担当教員	本田 由紀		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	教育社会学理論演習 Seminar on Theories of the Sociology of Education				

授業の目的・概要	この授業では、古典から最新のものまで(教育)社会学に関わる主な社会学理論についての基本文献を講読することを通じて、(教育)社会的な「ものの考え方」とは何か、それは時代や社会によってどのような拘束性を帯びているか、理論と現実を照らし合わせることによってどのように双方に対して示唆が得られるかを学ぶことを目的とする。
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:社会学とは何か 第3回・第4回:デュルケム 第5回・第6回:ジンメル 第7回・第8回:ウェーバー 第9回・第10回:パーソンズ 第11回・第12回:マートン 第13回・第14回:ルーマン 第15回:全体の振り返りとまとめ
授業の方法	各回の指定文献について出席者はあらかじめ講読票を書いて提出する。それに加えて各回の担当者が詳細なレジメを作って発表し、その内容について全員で議論を行う。学期末には特定の理論や概念を取り上げて検討するレポートを執筆する。
成績評価方法	各回の講読票およびレジメと期末レポートを 7:3 の比で評価する。
教科書	佐藤俊樹『社会学の方法—その歴史と構造』ミネルヴァ書房 奥村隆『社会学の歴史 I』有斐閣アルマ
参考書	各回に関する参考文献を前回までに提示する。
履修上の注意・備考	事前に「教育社会学概論」を履修していることが望ましい。 社会学史の幹となる「巨人」たちの思考方法をたどることにより、社会学という学問の固有の特性を理解することができる内容であるため、社会学系の大学院への進学を考えている者はもちろん、幅広い社会科学系の学問分野および仕事分野の基礎教養として役立つ。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09212305	担当教員	勝野 正章 村上 祐介 橋野 晶寛		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 4
講義題目	教育行政調査演習 I Seminar in Field Research on Educational Administration I				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとした調査および実証分析の方法の基礎を学び、教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定し、演習Ⅱ(AA1・A2)での調査に向けて計画を立てる。教育行政調査演習Ⅱと併せて履修することが望ましい。
授業計画	質的・量的な調査および分析手法の基礎を学んだ上で、演習Ⅱでの調査に向けてテーマ設定・調査の企画を行う。 第1回 オリエンテーション 第2回 政策リサーチの方法 第3回～第11回 調査・分析法の基礎 第12回 研究・調査計画の設計1 第13回 研究・調査計画の設計2
授業の方法	文献輪読・発表、討議を組み合わせで行う。
成績評価方法	平常点との期末レポートによる。
教科書	特に指定しない。文献は都度配布する。
参考書	・伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門』東京大学出版会。 ・佐藤郁哉(2015)『社会調査の考え方(上)(下)』東京大学出版会。 ・畑農鋭矢・水落 正明(2017)『データ分析をマスターする12のレッスン』有斐閣。 ・藤原文雄・露口健司・武井敦史(2010)『学校組織調査法』学事出版。
履修上の注意・備考	・時間割上に設定された時間以外に作業を行う場合も生じることもありうるので留意すること。 <4/2 追記> 初回(4/9)の授業は教員・受講者の顔合わせとして教育学部 158 教室にて対面(オンライン併用)にて実施する。 体調、通学に不安がある場合は無理に登校せずに、オンラインで参加すること。 登校する場合は、マスク着用の上、入室の際に検温を受けること。 感染症への対応のため、紙の資料を配布することはしない。事前に LMS の「教材」から各自ダウンロードすること。 <4/9 追記> 第2回(4/16)は休講にする。
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09212306	担当教員	勝野 正章 村上 祐介 橋野 晶寛		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 4
講義題目	教育行政調査演習Ⅱ Seminar in Field Research on Educational Administration Ⅱ				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとして実際の調査を通じて教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定する。調査結果を報告書にまとめる。
授業計画	テーマの設定、先行研究の検討、調査、小グループ並びに全体での討議、報告書の作成。
授業の方法	グループで計画を立て、調査・分析を行う。時間割上に設定された時間以外に調査を行う場合も生じることに留意してほしい。
成績評価方法	出席と報告書の執筆による。
教科書	特に指定しない。
参考書	設定したテーマにあわせて授業で指示する。
履修上の注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割上に設定された時間以外に作業を行う場合も生じることもありうるので留意すること。</li> <li>・原則オンラインで実施するが、一部の回で対面で実施する可能性がある。</li> </ul>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212307	担当教員	村上 祐介		
単位数	2	学期	S2	時限	火 3, 火 4
講義題目	<b>教育行政・学校経営演習Ⅱ</b> Seminar in Educational Administration and School Management Ⅱ				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>この授業では、(1)教育行政・学校経営研究における計量分析の方法論的基礎を習得したうえで、それを用いて、(2)基本的な計量分析の手法を用いた学術論文を理解できるようにすることをその目的とする。</p> <p>教育行政・学校経営研究には様々なアプローチがありうるが、実証的な研究手法を用いて因果関係やそれが生じるプロセスを明らかにすることは有力な方法の一つである。その際、方法論的に適切な研究デザインに基づいた分析を行うことが重要である。</p> <p>この授業ではこうした研究を行うための基本的な考え方と手法を学ぶ。並行して、フリーの統計ソフト R を用いて基本的な分析の演習を行う。</p>
<b>授業計画</b>	<p>※内容は初学者向けであるが、受講生の予備知識の水準に応じて、予定を変更する可能性もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業で何をどこまで学ぶのか(ガイダンス)</li> <li>2. リサーチデザイン</li> <li>3. R の導入とデータ・ハンドリング</li> <li>4. 記述統計とデータの可視化・視覚化</li> <li>5. 重回帰分析(多変量解析)</li> <li>6. 統計的推定</li> <li>7. 統計的仮説検定</li> <li>8. 変数間の関連性</li> <li>9. 回帰分析の基礎と統計的推計</li> <li>10. 回帰分析の前提と妥当性の診断</li> <li>11. 回帰分析の応用</li> <li>12. ロジスティック回帰分析</li> <li>13. まとめと復習</li> </ol>
<b>授業の方法</b>	指定された文献をあらかじめ読んでおくことを前提として、講義と実習を組み合わせながら授業を進める。
<b>成績評価方法</b>	授業への参加度(課題提出などを含む)と、受講者個人で作成する期末レポートにより評価を行う。
<b>教科書</b>	浅野正彦・矢内勇生『Rによる計量政治学』オーム社
<b>参考書</b>	<p>伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門』東京大学出版会</p> <p>川崎剛(2010)『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房</p> <p>森田果(2014)『実証分析入門』日本評論社</p> <p>Imai, Kosuke (2017=2018) Quantitative Social Science: An Introduction, Princeton University Press (粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳『社会科学のためのデータ分析入門(上)(下)』岩波書店</p> <p>その他の参考書は初回の授業時に指示する。</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	文献をあらかじめ講読するとともに、PC を用いて実際に操作を行うことが求められる。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09212308	担当教員	李 正連		
単位数	2	学 期	A1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	社会教育学演習Ⅱ Seminar in Adult and Lifelong Education II				

授業の目的・概要	本授業のテーマは、「教育福祉と社会教育・生涯学習」とする。近年拡大しつつある社会格差やさまざまな社会的排除の問題を受け、それらの問題を教育の側面からとらえ、生涯学習を基盤とした教育福祉による社会的包摂の可能性を考える。
授業計画	第1回 オリエンテーション＆「学び」とは何か、教育福祉について考える。 第2回 問題の所在(第1章～第4章) 第3回 実践の諸相(第5章～第8章) 第4回 実践から学ぶ①実践現場の見学 第5回 課題と展望(第9章～第12章) 第6回 実践から学ぶ②ゲストスピーカーによる特別講義 第7回 全体のまとめ(第13章)
授業の方法	指定文献の輪読(発表と討論)を基本とするが、演習内でゲストスピーカーにも適宜参加していただく。また、実践現場にも出向き、見学する予定である。 なお、履修者は発表以外にも、各回の指定文献についてあらかじめ講読票を書いて提出する。
成績評価方法	演習への参加度、課題(発表と講読表、ワーキングペーパー等)への取組状況を総合的に評価する。
教科書	岩槻知也編著『社会的困難を生きる若者と学習支援—リテラシーを育む基礎教育の保障に向けて』明石書店、2016年 その他、授業で随時提示する。
参考書	授業で随時紹介する。
履修上の注意・備考	初回の授業では発表の順番や履修方法について説明するので、履修希望者は必ず出席すること。 授業での積極的な発言・参加を求める。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212309	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2	学期	A2	時限	月 3, 月 4
講義題目	<b>社会教育学演習Ⅲ</b> Seminar in Adult and Lifelong Education III				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>都市における市民の学習・文化活動の実態はどのようなものか。それが都市の形成とどのように作用しあいながら営まれてきたか。行政はそうした活動をどう支えているか。基本文献の講読、東京都もしくは近郊の自治体のケーススタディ(教育行政職員へのインタビュー、社会教育施設への訪問調査等)をつうじて探る。</p> <p>このようなフィールド調査を主体にした授業を想定しているが、感染症の動向により困難な場合は、社会教育の基本文献を購読するゼミに切り替える。</p>
<b>授業計画</b>	(1)オリエンテーション、(2)基本文献購読、(3)近郊都市への訪問調査、(4)調査のまとめ作業 からなる。
<b>授業の方法</b>	文献講読とフィールドワークによる。
<b>成績評価方法</b>	出席および授業への参加状況により判断する。
<b>教科書</b>	初回に提示する。
<b>参考書</b>	適宜指示する。
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>フィールドワークを交えた授業のため、無断遅刻欠席は避けること。</p> <p>フィールド調査を主体にした授業を想定しているが、感染症の動向により困難な場合は、社会教育の基本文献を購読するゼミに切り替える。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09212310	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	1	学期	通年	時限	金 6
講義題目	博物館学特別研究 Special Studies in Museum Activities				

授業の目的・概要	博物館実習について、事前および事後の指導を行う。
授業計画	実習は、事前のガイダンス、博物館現場での実習および実習記録の作成と実習報告の執筆、発表によって行われる。 学事歴に従っての授業初回の時限にガイダンスを行うので(オンラインを予定)、履修希望者は必ず参加すること。その日の参加が難しければ、ICT-LMS上にアップロードするガイダンス資料を熟読し、履修登録期間内に担当教員(新藤)までメールを送ること。
授業の方法	実習先については、「関連ホームページ」に掲載された館については紹介可能だが、それ以外は自身で探すものとする。実習期間だけではなく、学内で行う事前事後の指導も合わせて出席することが求められる。
成績評価方法	実習、事後指導への出席、実習後の報告、レポートをもとに総合的に評価する。
教科書	使用しないが、以下の「博物館実習ガイドライン」を参照。 <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/06/15/1270180_01_1.pdf">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/06/15/1270180_01_1.pdf</a>
参考書	使用しない
履修上の注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修するには、原則として前年に、博物館概論(教育学部)、文化施設経営論(文学部)、博物館資料論(文学部)、博物館資料保存論(理学部)、博物館教育論(教育学部)、博物館展示論(文学部)、博物館情報・メディア論(教育学部)のうち最低二つを受講していることが必要である。詳細は相談に応じるので、これらの科目未履修者は個別に問い合わせること。</li> <li>・不明点等はメールにて問い合わせること。</li> <li>・感染症の状況により、実習先を見つけることや実習の遂行が例年よりも困難になっている。実習が確定したあと中止になる場合も出ているため、実習先探しは早めに行うこと。</li> <li>・実習の際は、感染症対策に十分留意し、実習先の指示に従うこと。</li> </ul>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212311	担当教員	影浦 峽		
単位数	2	学 期	S1	時 限	木 3, 木 4
講義題目	情報サービス演習 Seminar in Information Service				

授業の目的・概要	<p>授業の目標: 人が担う情報サービスの実践に求められる下記のコンピテンス(専門的技能)を, 演習を通して修得することが, この授業の到達目標となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報源を評価し, 使い分けられるようになること</li> <li>・情報源を作成できるようになること</li> <li>・情報ニーズを把握するための対話ができるようになること</li> <li>・情報ニーズに基づいて, 情報源を的確に使い分け, 資料と情報の検索ができるようになること</li> </ul> <p>授業の概要: 図書館が提供する「情報サービス」は, レファレンスサービスという名前で実践されています。このサービスを提供するためのコンピテンス(専門的技能: 知識, 技術, 態度)は, 図書館員にとって高度かつ専門的なものと位置づけられています。この授業では, レファレンスサービスを効果的に提供するための実践的なコンピテンスを, 情報源の評価、情報源の作成、情報ニーズの把握、について、実習を通して身に付けることを目指します。</p>
授業計画	<p>おおむむね次の内容を, 扱う予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報サービスに求められるコンピテンス(知識, 技術, 態度)の概要</li> <li>・情報源の評価</li> <li>・情報源の作成</li> <li>・情報ニーズの把握</li> <li>・質問ニーズに応じた情報源の活用</li> <li>・それは何か?</li> </ul>
授業の方法	演習形式で進めます。授業は, 受講生からの報告が中心となります。
成績評価方法	授業中の報告によって成績評価を行います。出席回数が3分の2以上の方のみ成績評価の対象となります。
教科書	使用しません。
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。
履修上の注意・備考	オンラインで行います。途中、情報源の評価のところで英語論文を読むステップが入ります。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212312	担当教員			
単位数	2	学期	S1	時限	火 1, 火 2
講義題目	<b>教育方法学演習Ⅲ</b> Seminar of Research on Teaching and Curriculum III				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>[授業の目標]</p> <p>この授業では、教育実践の研究課題や実践上の課題の概要を理解するとともに、教育方法学領域の研究方法の基礎のなかでも主に観察法を身につける。具体的には、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業、カリキュラム、教育内容(リテラシー)、教育評価、教師に関する、研究上、実践上の今日的課題について概要を理解する。</li> <li>2. 授業、カリキュラム、教育内容(リテラシー)、教育評価、教師に関して、研究課題を設定し、探究する。</li> <li>3. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方、文献収集の方法等を身につける。</li> <li>4. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。</li> <li>5. 教育方法学とはどのような学問か、自分なりの説明ができるようになる。</li> </ol> <p>[授業の概要]</p> <p>教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教育内容研究、教育評価研究、教師研究、である。この授業では、授業、カリキュラム、教育内容(リテラシー)、評価、教師などのトピックごとに、近年の課題状況を概観したうえで、授業観察を中心としたフィールドワークや、文献調査、インタビュー調査等を行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。</p>
<b>授業計画</b>	第1回 教育実践の課題 授業・教師・カリキュラム・教育内容・教育評価 第2回 教育実践の研究手法(1) フィールドワークと質的研究法(観察法、面接法) 第3回 教育実践の研究(1)フィールドワーク 第4回 教育実践の研究(2)報告会① 第5回 教育実践の研究手法(2) 歴史研究・ナラティブ研究 第6回 教育実践の研究(3)文献調査 第7回 教育実践の研究(4)報告会②
<b>授業の方法</b>	第1回は、主として講義と文献購読による情報の共有を行う。 第2回～第7回は、主として教育研究の方法を学び、調査とその報告を行う。 授業形態については、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて検討する。
<b>成績評価方法</b>	授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。
<b>教科書</b>	指定しない。
<b>参考書</b>	秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法:15の事例にみる学校教育実践研究』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学(共編)『教育研究のメソドロジー:学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会 佐藤学『教育方法学』岩波書店 秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 このほか、授業中に紹介する。
<b>履修上の注意・備考</b>	本授業は、S1タームに開講される2時間連続の授業である。 情報収集やフィールドワークは受け入れ機関の事情により、必ずしも授業時間内に実施できるとは限らない。授業時間外でも活動することになるので、注意されたい。

フィールドワーク等活動は、新型コロナウイルス感染症の状況によって中止や変更となる場合がある。

教育職員免許法上の認定科目



時間割コード	09212401	担当教員	藤原 翔		
単位数	2	学期	S1S2	時限	水 3
講義題目	教育調査分析法 Quantitative Educational Research Methodology				

授業の目的・概要	<p>教育の社会科学的研究に用いられる社会調査データを分析する際に、必要となる統計学に関して入門的な講義を行う。具体的には、分布と統計量、相関係数、確率論の基礎、サンプリング、推定と検定、クロス集計、回帰分析について概説する。それによって、既存の分析結果の意味を正確に理解し、自分で新たに意味のある計量分析を行うための初歩的な知識を獲得することを目標とする。「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イントロダクション</li> <li>・度数分布表</li> <li>・基本統計量</li> <li>・相関係数</li> <li>・確率モデルと統計的推定</li> <li>・統計的検定</li> <li>・平均値の差の検定</li> <li>・クロス集計と独立性の検定</li> <li>・多重クロス集計とエラボレーション</li> <li>・回帰分析</li> <li>・偏相関と重回帰分析</li> <li>・回帰モデルの説明力と検定</li> <li>・回帰分析の応用</li> </ul> <p>(以上はあくまで予定のため、変更になる場合がある。)</p>
授業の方法	教科書の主要部分を用いて講義を行う。また SSJ データ・アーカイブで公開されているデータ(あるいは教員が独自に収集したパネルデータ)を用いた R による実習も行う。毎回、R を用いた課題を提出することが必要となる。
成績評価方法	課題レポート 60%、期末レポート 40%
教科書	杉野勇『入門・社会統計学——2 ステップで基礎から[R で]学ぶ』(法律文化社、2017 年)
参考書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第 3 版]——2 ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社、2017 年)
履修上の注意・備考	<p>「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。</p> <p>「教育社会学調査実習」を履修しない学生が多数、この講義を履修すると見込まれる場合は、受講者数の調整を行う場合がある(詳細は初回の授業で説明する)。</p> <p>この授業科目は、社会調査士資格取得のための「D. 社会調査に必要な統計学に関する科目」、教職課程の「教科に関する科目(社会学)」にそれぞれ該当する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09212402	担当教員	額賀 美紗子		
単位数	2	学期	S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	フィールドワークの 理論と実践 Theory and Practice of Fieldwork				

授業の目的・概要	<p>エスノグラフィーとは、ある出来事が起こっている現場に入り込み、そこに参加している人々と関わりあいながら、かれらの日常世界の成り立ちを、かれらの視点に立って内側から理解する調査方法のことを指す。参与観察(フィールドワーク)やインタビューが中心となり、質的調査法ともいわれる。この授業ではエスノグラフィーの理論とプロセスについて学び、実際にインタビューや現場のフィールドワークを演習形式で行いながら、さまざまな質的調査の方法論を習得することをめざす。</p>
授業計画	<p>第一回</p> <p>①質的調査とはなにか: 目的、意義、プロセス</p> <p>②参与観察を行う: 現場のメモからフィールドノートへ</p> <p>第二回</p> <p>①フィールドノートを書く: 何をどう描写するか</p> <p>②フィールドにアクセスする: 研究者のポジショナリティと研究倫理</p> <p>第三回</p> <p>①質的テキストを分析する: コーディングとグラウンデッド・セオリー・アプローチ実践</p> <p>②研究計画をたてる: 先行研究・リサーチ・クエスションの設定・フィールド/対象の選定</p> <p>第四回</p> <p>①話を聴く: インタビュー、生活史調査、ライフストーリー研究</p> <p>②《グループ・プロジェクト》テーマを設定し、インタビュー・ガイドラインの検討</p> <p>第五回</p> <p>① インタビューの技法と授業内ミニ実践</p> <p>②《グループ・プロジェクト》データ収集の進捗状況確認、コーディングの検討</p> <p>第六回</p> <p>①質的研究法を使って論文を書く: 良い質的研究論文の条件</p> <p>②《グループ・プロジェクト》次週の発表準備: コードから仮説生成へ</p> <p>第七回</p> <p>プロジェクトのグループ発表</p>
授業の方法	講義と演習を組み合わせる
成績評価方法	出席 20%、課題 80%
教科書	<p>小田博志 2010 『エスノグラフィー入門—〈現場〉を質的研究する』春秋社.</p> <p>佐藤郁也 2007 『フィールドワーク増訂版—書を持って街へ出よう』新曜社.</p>
参考書	<p>エマーソン,</p> <p>R. 1998. 『方法としてのフィールドノート—現地取材から物語作成まで』新曜社.</p> <p>佐藤郁也 2002『フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社.</p> <p>藤田結子・北村文編 2013 『現代エスノグラフィー: 新しいフィールドワークの理論と実践』新曜社.</p>
履修上の注意・備考	フィールドノートの作成やインタビューによるデータ収集と分析など、授業の課題が多いのでそのつもりで履修すること

と。積極的にディスカッションに参加することを期待する。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む)  
(公)社会学

時間割コード	09212403	担当教員	元森 絵里子		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 2
講義題目	子どもの歴史社会学 A Historical Sociology of Childhood				

授業の目的・概要	<p>「子どもは社会の鍵」「もっと子どもを尊重せよ」「子どもでも厳罰を与えよ」「子どもと大人の境は何か」「子どもらしくない子どもが増えた」「多様な子どもを認めよ」…。このような矛盾含みの現代の子どもをめぐる議論の錯綜を読み解く視角を歴史に探る。</p> <p>フィリップ・アリエス『&lt;子供&gt;の誕生』以降、子どもを保護し教育するという子ども観は近代的なものだという理解は定説となっているが、その大まかすぎるテーゼを現代に向けてどう応用できるのか。、また、家庭、学校教育、児童福祉等にまたがり、生物学的な身体とも結びついて直感的に運用されている「子ども」という社会的カテゴリーをどう捉えるのか。ヨーロッパの子ども史を参照しながら、子ども観の近代を概観したのち、明治期以降の近代日本の子どもと子ども観の歴史を紹介しつつ、その分析のための歴史社会学的視座とともに検討していく。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イン트로ダクション——受講生の子ども観</li> <li>2 子ども観の歴史性——アリエステーゼをめぐって</li> <li>3 子ども観の近代①——欧米の子ども史から</li> <li>4 子ども観の近代②——欧米の子ども史から</li> <li>5 子ども観の近代③——子ども史・子ども社会学から</li> <li>6 子ども観の近代④——近代日本へ</li> <li>7 教育における「児童」——尊重か統制か</li> <li>8 司法における「少年」——保護・教育か責任か</li> <li>9 児童保護と多様な論理①——児童労働をめぐるポリティクス</li> <li>10 児童保護と多様な論理②——あからさまな別の論理</li> <li>11 多様な子どもの潜在化——戦後福祉国家と子ども期の画一化</li> <li>12 子ども観の問い直しの時代——近代批判・学校化批判の構図</li> <li>13 現代日本の子ども観——多様性の再発見の時代の中で</li> <li>14 子ども観の社会学的視座 ——まとめにかえて</li> </ol>
授業の方法	講義(ただし、コメント課題を通しての参加を要求する。また、受講時のアンケートへの応答やコメント課題へのフィードバックなどを通して教員と受講生の間の双方向性を確保する。)
成績評価方法	毎回のコメント課題 10% + 期末レポート 90%
教科書	指定しない
参考書	元森絵里子 2014 『語られない「子ども」の近代:年少者保護制度の歴史社会学』勁草書房 元森絵里子・南出和余・高橋靖幸編 2020 『子どもへの視角:新しい子ども社会研究』新曜社 プラウト, A. 2005=2017 『これからの子ども社会学:生物・技術・社会のネットワークとしての「子ども」』新曜社 その他、授業時に紹介する
履修上の注意・備考	予備知識は必要としない。 授業内でアンケート回答などを要求することがある。 授業終了後のコメントを 14 回中 10 回以上提出することをレポート提出の条件とする予定。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212404	担当教員	小川 義和		
単位数	2	学期	A1A2	時限	月 6
講義題目	博物館教育論 Museum Education				

授業の目的・概要	<p>博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得させ、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。</p> <p>博物館教育について、博物館を利用する人々、博物館、それを取り巻く社会との関係性から考察する。博物館教育の発達とその社会的背景を紹介し、博物館教育の現代的意義を論じていく。特に従来の教育普及にとどまらない博物館教育の範囲、その独自性と学習理論、生涯学習の観点から人材養成の必要性等を概説する。これらの基礎的な知識と理論を踏まえ、変化する社会における博物館教育のあり方について実際に即して考察を深める。さらに具体的な目標論を持って博物館教育活動を企画し、評価するスキルについて演習を通じて身につけさせる。</p>
授業計画	<p>第1回 博物館教育の意義と理念(1) 学びの意義</p> <p>第2回 博物館教育の意義と理念(2) 博物館教育の範囲</p> <p>第3回 博物館教育の意義と理念(3) 博物館教育の特徴</p> <p>第4回 博物館教育の意義と理念(4) 博物館教育の歴史</p> <p>第5回 博物館教育の意義と理念(5) 生涯学習の場としての博物館</p> <p>第6回 博物館教育の意義と理念(6) 人材養成の場としての博物館</p> <p>第7回 博物館教育の意義と理念(7) 博物館における学びの特性と学習理論</p> <p>第8回 博物館教育の意義と理念(8) ミュージアムリテラシーの理念と構成</p> <p>第9回 変化する社会における博物館教育(1) コミュニケーションとしての博物館教育</p> <p>第10回 変化する社会における博物館教育(2) 博物館の利用実態と利用者の博物館体験</p> <p>第11回 変化する社会における博物館教育(3) 博物館教育の方針と評価</p> <p>第12回 博物館教育の実践(1) 博物館教育活動の企画と実際</p> <p>第13回 博物館教育の実践(2) 博物館教育と学校教育</p>
授業の方法	<p>各回、前半は適宜資料を提示しつつ、テーマに基づく概説を行う。後半は受講生からのテーマに関する質問と議論を行い、教員がまとめる。受講生は問題を整理してテーマに関する報告を提出する。</p> <p>受講生は最終回に課題を提出する。</p>
成績評価方法	講義の出席・各回の提出報告書(6割)及び最終課題(4割)で判断する。
教科書	使用しない。
参考書	<p>ジョージハイン著、鷹野光行監訳「博物館で学ぶ」(同成社、2010)</p> <p>全国大学博物館学講座協議会西日本部会編「新時代の博物館学」(芙蓉書房出版、2012)</p> <p>小川義和・五月女賢司編著「挑戦する博物館 今、博物館がオモシロイ!!」(ジダイ社、2018)</p> <p>小川義和編著「協働する博物館 博学連携の充実に向けて」(ジダイ社、2019)</p>
履修上の注意・備考	受講生が主体的に、自主的に博物館を見学し、多様な博物館の様子を把握することをすすめる。また見学した博物館の現状や課題について講義中に共有するように心がける。なお博物館の見学料金や交通費な自己負担とする。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212405	担当教員	前原 健二		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	比較教育行政論 —現代ドイツの学校改革を中心に— Comparative Study of Educational Administration: Focusing on Education Reform in Contemporary Germany				

授業の目的・概要	<p>この講義は、教育という大きな社会システムの維持や改革の動き方を具体的に知り、なぜシステムが変わったり変わらなかったりするののかというメカニズムの一端についての理解を獲得すること、及びそうした分析のための方法論についての理解を獲得することである。</p> <p>第 2 次大戦後のドイツの学校制度改革の動向を、教員・学校・学校制度という三つの位相において、順を追って整理、検討する。ドイツの学校制度は 20 世紀初めからあまり変わっていない。つまり「かなり時代遅れ」に見える部分が多い。しかし特にこの 20 年間ほど、ドイツの学校制度は大きく変転を繰り返している。これらの事情は、あまりよく知られていない。停滞と変転の概要、なぜそういう状況になっているのかという動因を考察する。また教育制度論にとってそれが意味するところについても考察する。</p> <p>以上は予定であり、受講者の状況や必要に即した変更がありうる。</p>
授業計画	第1回 講義の概要の説明、日本とドイツの教育制度について、いくつかの方法論的限定 第2回 ドイツの学校制度の歴史と概要 第3回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(1)学校監督論争 第4回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(2)教員評価 第5回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(3)教員研修 第6回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(1)「学校の自律性」への注目 第7回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(2)「自律化」の文脈の転換:規範から効率へ 第8回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(1)学校制度改革の提起と破綻 第9回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(2)1990年代:二分岐型の原型の提起 第10回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(3)PISA ショック:学校制度改革の再燃 第11回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(4)学校制度改革の迷走 第12回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(5)ギムナジウム神話の解体と再建 第13回 まとめ:学校制度改革の理論について
授業の方法	<p>各回、講師による講義を行う。</p> <p>講義内容についての質疑・議論を行う。</p> <p>毎回の講義後に、持ち帰り課題としてミニレポートを提出してもらう予定である。</p> <p>=====</p> <p>オンラインによる実施の場合、「事前の予習用動画ファイルの視聴」「リアルタイムの質疑とディスカッション」を組み合わせる。この場合も毎回の講義後にミニレポートを提出してもらう予定である。</p>
成績評価方法	<p>期末レポートによる。</p> <p>毎回講義時のコメントを若干加味する。</p>
教科書	使用しない。
参考書	<p>ドイツの学校制度法制について、ヘルマン・アベナリウス『ドイツの学校と教育法制』結城忠ほか訳、教育開発研究所、2007年。</p> <p>担当講師の近刊予定著書が間に合えば、参考書として紹介する。</p>
履修上の注意・備考	ドイツ語及びドイツの教育についての基礎知識は必要としない。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212406	担当教員	池田 貴城		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 6
講義題目	教育法 Educational Law				

授業の目的・概要	<p>我が国の教育関係法令の体系を理解しつつ、教育基本法・学校教育法をはじめとする主要な法律の構造や内容、最近の改正の動向などを学ぶことによって、今後の教育政策のあり方や教育現場が直面する重要課題への対応策について考察する上での基礎を培うことを目標とします。</p> <p>なお、授業では初等中等教育に関する法令を中心に学びますが、高等教育や文化・スポーツ振興に関する法令も取り上げます。</p>
授業計画	<p>※ 以下の授業計画は、全面オンライン授業で実施する場合を想定しています。</p> <p>対面授業になる場合は、変更があり得ます。</p> <p>第1回 ガイダンス(法令を学ぶ上での基礎、教育関係法令の体系)</p> <p>第2回 教育基本法</p> <p>第3回 学校教育法</p> <p>第4回 地方教育行政制度</p> <p>第5回 義務教育諸学校における教職員定数・給与</p> <p>第6回 地方教育行政のあり方(グループ・ワークによる議論)</p> <p>第7回 スポーツ・文化の振興</p> <p>第8回 教育公務員制度</p> <p>第9回 教員の資質能力の向上</p> <p>第10回 教員の資質能力の向上(グループ・ワークによる議論)</p> <p>第11回 生涯学習、社会教育</p> <p>第12回 高等教育(1)</p> <p>第13回 高等教育(2)</p> <p>(第14回 試験(対面授業の場合))</p>
授業の方法	講義形式
成績評価方法	<p>※ 全面オンライン授業の場合</p> <p>①課題(授業中の課題1回、最終試験に代わる課題1回:60%)、②授業への積極性・出席状況(40%)に基づいて評価します。</p> <p>※ 対面授業の場合</p> <p>①筆記試験(60%)、②授業における議論への貢献度・出席状況、レポート(40%)に基づいて評価します。</p>
教科書	講師が最新の情報も含めた資料を用意します。
参考書	<p>授業では直接使用しませんが、授業内容の理解を深める上での参考図書として、以下の文献を挙げておきます。</p> <p>「教育法講義 ― 教育制度の解説と主要論点の整理」(尾崎春樹、悠光堂)</p> <p>「新訂第5版 やさしい教育法規の読み方」(菱村幸彦、教育開発研究所)</p>
履修上の注意・備考	<p>授業は、原則として講義形式を中心に行いますが、それまでに学んだことを前提としてグループ・ワークによる議論を2回程度行う予定です。</p> <p>講師は現役の国家公務員(文部科学省職員)であるため、受講生の中に公務員志望者がいる場合は、必要に応じ、中央官庁における行政実務や勤務の様子などについても触れたり、文部科学省の若手職員を授業に招いて懇談する機会を設けたりする予定です。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)法律学</p> <p>(公)法律学(国際法を含む)</p>

時間割コード	09212407	担当教員	山内 祐平		
単位数	2	学期	S1S2	時限	水 2
講義題目	学習環境のデザイン Design of Learning Environment				

授業の目的・概要	<p>学習環境のデザインについてデジタル教材、オンライン学習、ワークショップなどの事例研究を通じて検討する。</p> <p>知識目標:「理解や問題解決の支援」を教材として実装する方法を知る</p> <p>技能目標:教材のポイントを発表し、本質を議論する技能を身につける</p>
授業計画	<p>2021/04/07 オリエンテーション 授業の概説</p> <p>2021/04/21 デジタル教材概論 領域の概論</p> <p>2021/04/28 ゲストトーク(宇治橋祐之)放送とデジタル教材</p> <p>2021/05/12 初等中等教育での展開 Khan Adademy</p> <p>2021/05/19 高等教育での展開 Minerva Schools</p> <p>2021/05/26 幼児教育での展開 Kits</p> <p>2021/06/02 アダプティブラーニング Classi</p> <p>2021/06/09 オープンエデュケーション Coursera</p> <p>2021/06/16 シリアスゲーム Minecraft</p> <p>2021/06/23 ICT を用いたプロジェクト学習 Google for Education</p> <p>2021/06/30 ゲストトーク</p> <p>2021/07/07 STEAM 教育 MakeBlock</p> <p>2021/07/14 ワークショップ CAMP</p>
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)担当グループが事例研究を行い発表する</li> <li>2)事例についてグループで議論し、デザインの特徴と課題について検討する</li> <li>3)議論から出た疑問を報告グループに投げかけ、問いを深める</li> <li>4)教育・学習研究の概念との接続について教員が解説する</li> </ol>
成績評価方法	<p>毎回の小レポート評価(50%)</p> <p>グループの事例研究報告の評価(25%)</p> <p>グループ議論における貢献と発見(25%)</p>
教科書	山内祐平「学習環境のイノベーション」東京大学出版会、2020
参考書	<p>山内祐平編「デジタル教材の教育学」東京大学出版会、2010</p> <p>山内祐平編「学びの空間が大学を変える」ポイックス出版、2010</p> <p>山内祐平・森玲奈・安斎勇樹「ワークショップデザイン論」慶応大学出版会、2013</p>
履修上の注意・備考	<p>グループワークのため履修人数制限あり(50名)</p> <p>オリエンテーション時に50名を超えた場合には授業後に抽選を行い、落選者に連絡する。</p> <p>抽選を行った場合公平性を担保するため2回目からの履修はできないので注意すること。</p> <p>新型コロナウイルス対策のため、本授業はハイブリッド形式で行う。</p> <p>発表グループおよび発表準備指示グループは教室から参加、残りのグループはZoomで参加する。</p> <p>各種資料の提供およびレポート提出はICT-LMSで行うため、そちらも履修登録を行うこと。</p> <p>4月7日(水)10:30よりZoomでオリエンテーションを行いません。</p> <p>参加するには以下のアドレスにアクセスしてください。</p> <p>Zoom ミーティングに参加する</p>



<https://zoom.us/j/95678227853?pwd=OU4UEI2VWMybXE5Q>

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09212408	担当教員	高橋 和子		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	英語教授法・学習法概論 An Introduction to Methodologies for Teaching and Learning English				

授業の目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育者として必要な基礎知識(母語・第二言語習得, 外国語教授法, 4技能5領域、学習者理論等)を概観し、これらの理解を深める</li> <li>・各自の外国語教育・学習歴を振り返り、英語教育・英語学習に対する認識を深める</li> <li>・効果的な英語教授法・学習法について歴史を踏まえて考察し、これからの英語教授法・学習法を展望する</li> </ul> <p>以上の目標達成を目指して、状況に応じながら、双方向的な授業を行います。</p>
授業計画	<p>第1回: イントロダクション</p> <p>第2回: 学習者(各自の英語教育歴・学習歴を踏まえて)</p> <p>第3回: 外国語教授法1(文字中心)</p> <p>第4回: 外国語教授法2(音声中心)</p> <p>第5回: 外国語教授法3(コミュニケーション中心)</p> <p>第6回: 聞くことの指導と学習</p> <p>第7回: 読むことの指導と学習1(アナログ時代)</p> <p>第8回: 読むことの指導と学習2(デジタル時代)</p> <p>第9回: 話すことの指導と学習</p> <p>第10回: 書くことの指導と学習</p> <p>第11回: これからの英語教授法</p> <p>第12回: これからの英語学習法</p> <p>第13回: 授業のまとめ</p> <p>※注意: 上記計画は、非常時対応及び受講者の状況に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じてLMSで行います。</p>
授業の方法	<p>本授業は、オンラインで行います。LMSでの教材配布、ZOOMでの授業を組み合わせる予定です。</p> <p>※非常時対応及び受講者の状況に伴って、上記は変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じてLMSで行います。</p>
成績評価方法	<p>課題 30%、最終レポート 70%</p> <p>LMSへのログイン状況、ZOOMの参加度(ZOOMを実施する場合)も踏まえて、総合的に評価します。</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を配布します</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Jack C. Richards and Theodore S. Rogers. Approaches and Methods in Language Teaching. Second edition. Cambridge University Press.</li> <li>・伊村元道『日本の英語教育 200年』大修館書店</li> <li>・田崎清忠編『現代英語教授法総覧』大修館書店</li> <li>・今井むつみ『英語独習法』岩波新書</li> <li>・小学校・中学校・高等学校『学習指導要領』、および『学習指導要領解説』</li> </ul> <p>以下の文部科学省ホームページより入手可能です:</p> <p><a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</a></p>

	その他は授業中に紹介します
<b>履修上の注意・備考</b>	※教材配布の時期や方法は、LMS のお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見るようにしてください。 ・配布教材に基づいて予習し、問題意識を持って授業に臨んでください。 ・本講義は、集中講義で行います。日程等は、関連部署にお尋ねください。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09212409	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	博物館概論 Introduction to Museum Studies				

授業の目的・概要	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。また、博物館以外の文化・教育施設(公共ホール、公民館、図書館等)、文化的な活動が生起する空間も視野に入れる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 博物館学の目的・方法・構成</li> <li>3. 博物館学史</li> <li>4. 博物館の定義(類縁機関との違いを含む)</li> <li>5. 博物館の種類(館種、設置者別、法的区分等)</li> <li>6. 博物館の目的</li> <li>7. 博物館の機能</li> <li>8. 日本および諸外国の博物館の歴史 ①</li> <li>9. 日本および諸外国の博物館の歴史 ②</li> <li>10. 日本および諸外国の博物館の現状 ①</li> <li>11. 日本および諸外国の博物館の現状 ②</li> <li>12. 学芸員の役割(定義、役割、実態)①</li> <li>13. 学芸員の役割(定義、役割、実態)②</li> <li>14. 博物館関係法令</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
授業の方法	講義(オンライン)による。
成績評価方法	試験もしくはレポート(50%)および授業中に出す課題(50%)による。
教科書	特に使用しない。
参考書	<p>中小路久美代・新藤浩伸・岡田猛・山本泰裕『触発するミュージアム』あいり出版、2016</p> <p>ミハエル・パーモンティエ著、眞壁宏幹訳『ミュージアム・エデュケーション 感性と知性を拓く想起空間』慶應義塾大学出版会、2012年</p> <p>その他授業中に指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>一口に博物館といっても館種も領域も多岐にわたるため、自分自身の専門領域を超えて幅広く関心を持って頂きたい。</p> <p>ICOM: The International Council of Museums  <a href="http://icom.museum/">http://icom.museum/</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212410	担当教員	福島 幸宏		
単位数	2	学期	A2	時限	木 4, 木 5
講義題目	図書館・博物館情報 メディア論 Information Media in Library and Museum				

授業の目的・概要	<p>図書館・博物館等に情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、図書館・博物館等の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。その際、現場の実態を提示するとともに、様々な場面で情報を活用するための重要となる知的財産権や情報倫理についても言及する。また、情報メディアをその歴史性から検討する視野を持つことも目標とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料と情報-その過去と現在</li> <li>2. 資料と情報-その未来</li> <li>3. 文化資源をめぐる関係制度・法制</li> <li>4. 図書館・博物館等の資料管理システムと web サイト</li> <li>5. デジタル化作業の実際</li> <li>6. 図書館・博物館等の情報の流通と連携</li> <li>7. 文化資源を拓く</li> </ol>
授業の方法	<p>講師による講義を基本とするが、随時受講者からの発言を求めるとともに、各偶数回ごとに意見等の提出を求める。</p>
成績評価方法	<p>授業中の発言等を通じての授業への参加(10%)、レポート(90%)を総合的に評価する。</p>
教科書	<p>指定しない。</p>
参考書	<p>指定しない。</p>
履修上の注意・備考	<p>様々な図書館・博物館等の動向を取り上げて講義を行うので、平素からさまざまな図書館・博物館等の動向に注視し、その情報発信の状況に関心を持っておくこと。特に国立国会図書館のカレントアウェアネス・ポータル <a href="https://current.ndl.go.jp/">https://current.ndl.go.jp/</a> を毎日チェックすることが望ましい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212411	担当教員	義本 博司		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	生涯学習政策論 Study on Lifelong Learning Policy				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>“人生 100 年時代”、“Society5.0”、“SDGs”といった言葉に象徴されるように、社会が大きく変化する中で、一人ひとりの生涯を通じた学びの在り方も変わっていく。</p> <p>知識基盤社会 (Knowledge-based society) では、私的・公的の両面において生起する様々な課題に対処するために「学び」が不可欠となる。特に人生 100 年時代には、「高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人々が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会」を目指す必要があり、その重要な鍵となるのが生涯学習社会の実現である。</p> <p>また特に社会教育は、その中核的な役割を果たすべきものだが、人口減少の中での地域づくりや健康、防災といった課題との関係でも重要性が高まっている。今後は、より多くの住民の主体的な参加を得て、多様な主体の連携・協働と幅広い人材の支援により行われる「開かれ、つながる社会教育」が求められている。</p> <p>本講義では、現在の我が国を取り巻く社会環境の変化を踏まえつつ、生涯学習や社会教育について、地域レベル、国レベルでの現状と施策の全体像を把握するとともに、今後の展望を考察する。</p> <p>文部科学省や地方公共団体において生涯学習政策、社会教育政策、教育行政等を担当する、あるいは担当した経験のある文部科学省職員による講義も設けたい。また文部科学省職員と受講者との対話や意見交換の場も設け、行政担当者が何を考え、感じながら施策の立案・推進に当たっているかを披瀝しつつ、今後の政策についてともに考える「開かれ、つながる」講義としたい。</p>
<b>授業計画</b>	<p>(若干変更する可能性あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育政策の全体像と方向性</li> <li>2. 社会教育と社会教育行政の現状と課題</li> <li>3. 生涯学習と生涯学習行政の現状と課題</li> <li>4. 学校・地域の連携・協働、大学と地域との連携</li> <li>5. 男女共同参画、共生社会に関する学習の現状と課題</li> <li>6. 文部科学省総合教育政策局職員との対話・意見交換等</li> </ol>
<b>授業の方法</b>	講義、討議等
<b>成績評価方法</b>	出席状況や討議への貢献、レポート等を通じた総合評価とする。
<b>教科書</b>	特になし。
<b>参考書</b>	講師が講義の中で必要な資料を配付する予定。
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>講師との対話や討議の時間を設ける予定であるので、積極的な参加を期待する。</p> <p>集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)</p> <p><a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09212412	担当教員	田所 祐史		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	社会教育経営論 Management of Adult and Lifelong Learning				

授業の目的・概要	<p>社会教育概念、法制、行政、機関・施設の基礎的理解を確認した上で、地域社会を舞台に住民主体で学ぶ環境・条件と、学びの実践についてつかむことを目標とする。</p> <p>現代社会教育の現状と課題の理解、日本社会教育史の理解を通じて、理論と実践、歴史から構造的・実践的に「社会教育経営」をとらえる視座と力量を獲得することを目指す。</p> <p>また、受講生の興味関心や問題意識にもできる限り応じた柔軟な授業展開に努める。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス 社会教育概念</li> <li>社会教育法制・社会教育行政</li> <li>社会教育機関・施設(公民館・図書館・博物館)</li> <li>地域社会と社会教育</li> <li>日本社会教育史① 日露戦後～戦間期</li> <li>日本社会教育史② 戦間期～戦時期</li> <li>社会教育事業・経営の実際——公民館を例に</li> <li>連携・協働① 学校教育・社会福祉・地域づくりと社会教育</li> <li>連携・協働② 現代の学びの場の諸相</li> <li>日本社会教育史③ 占領期</li> <li>日本社会教育史④ 高度経済成長期</li> <li>社会教育実践の現状と課題① (社会教育機関・施設の見学等のフィールドワークまたは理論・実践検討)</li> <li>社会教育実践の現状と課題②(同上)</li> <li>社会教育実践の現状と課題③(同上)</li> <li>社会教育実践の現状と課題④(同上)</li> </ol>
授業の方法	<p>・レジュメと資料プリントで講義する(適宜、映画・ドキュメンタリーなども視聴)。</p> <p>・フィールドワークの実施も受講生と検討・相談する予定。</p> <p>※ 対面／オンライン、フィールドワーク実施等の講義開催形態については、開催時期の大学方針や四囲の状況をみて判断し、代替形態の可能性もある。</p>
成績評価方法	期末レポート 60%、主体的な授業参加や指定課題など 40%
教科書	<p>【必携。必ず入手のこと】</p> <p>大串隆吉・田所祐史 『日本社会教育史』有信堂高文社、2021年1月(本体 2,000円+税)</p>
参考書	<p>講義中に紹介する。</p> <p>『月刊社会教育』(旬報社)などで社会教育の現状や課題をつかむこと。</p>
履修上の注意・備考	<p>教科書や当日配付史資料等を読む時間や、映画・ドキュメンタリーなど映像視聴の時間を適宜設ける。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>本科目は開講時期(1-3月集中講義)の都合上、2021年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。</p> <p>※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)</p>

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

連絡先・方法は講義中に示す。

教育職員免許法上の認定科目



時間割コード	09212413	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2	学期	A1	時限	月 5, 木 5
講義題目	図書館サービス論 Library Services				

授業の目的・概要	図書館におけるサービスは、その対象や図書館の種類によってさまざまである。そういったサービスをその歴史や関係する法制度とともに概観しつつ、図書館が競合するサービスとの関係の中でどのように位置づけられているのかを明らかにする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 図書館サービスの基本</li> <li>3 資料提供サービス</li> <li>4 情報サービス</li> <li>5 館種ごとのサービス</li> <li>6 利用対象者ごとのサービス</li> <li>7 中間まとめ</li> <li>8 広報、企画、集会活動</li> <li>9 図書館協力</li> <li>10 図書館と法制度</li> <li>11 図書館以外における同種のサービス</li> <li>12 これからの図書館サービス</li> <li>13 最終まとめ</li> </ol>
授業の方法	教科書は使わず、レジュメを配布する。
成績評価方法	授業への積極的参加およびテストによって評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	<p>特になし。</p> <p>ITC-LMS (<a href="https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/portal/login">https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/portal/login</a>) からレジュメをダウンロードできるようにする予定。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212414	担当教員	小山 憲司		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 4
講義題目	大学図書館サービス論 University Library Services				

授業の目的・概要	<p>大学図書館は、大学の組織の一部である。したがって大学図書館は、大学が果たすべき使命、すなわち研究、学習・教育、そして社会貢献を十全に達成できるよう、そのサービスを構築し、運用することが求められる。本授業では、これら大学の 3 つの使命を切り口として、大学図書館サービスの現状および課題を明らかにし、今後のサービスのありかたについて検討する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 高等教育政策と大学図書館</li> <li>3. 身近な大学図書館を知る(1): 課題提示</li> <li>4. 身近な大学図書館を知る(2): 発表、まとめとふりかえり</li> <li>5. 大学図書館を支える学術情報基盤</li> <li>6. ラーニング・コモンズからみる学習支援</li> <li>7. 多様な学習支援を考える(1): 課題提示</li> <li>8. 多様な学習支援を考える(2): 発表、まとめとふりかえり</li> <li>9. 大学図書館と資料保存</li> <li>10. 学術情報流通からみる研究支援</li> <li>11. オープンアクセスと研究支援(1): 課題提示</li> <li>12. オープンアクセスと研究支援(2): 発表</li> <li>13. オープンアクセスと研究支援(3): まとめとふりかえり</li> <li>14. まとめ</li> </ol>
授業の方法	講義、グループワーク、グループワークの成果発表と議論
成績評価方法	期末レポート 40%、授業への参画度 60%
教科書	<p>テキストは使用しない。</p> <p>授業で用いる文献は、その都度指示する。</p>
参考書	<p>竹内比呂也, 逸村裕編『変わりゆく大学図書館』勁草書房, 2005.</p> <p>倉田敬子著. 『学術情報流通とオープンアクセス』勁草書房, 2007.</p> <p>加藤信也, 小山憲司共編訳. 『ラーニング・コモンズ: 大学図書館の新しいかたち』勁草書房, 2012.</p> <p>ジョン・ポールフリー著, 雪野あき訳. 『ネット時代の図書館戦略』原書房, 2016.</p> <p>クリスティン・L・ボークマン著, 佐藤義則, 小山憲司共訳. 『ビッグデータ・リトルデータ・ノーデータ: 研究データと知識インフラ』勁草書房, 2017.</p> <p>このほか、授業中に適宜指示する。</p>

**履修上の注意・備考**

授業では、3 回程度のグループワークを取り入れる予定である。受講者の積極的な参画を希望する。  
授業を円滑に進めるために、ITC-LMS(<https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/>)を利用する予定である。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09212415	担当教員	海野 敏		
単位数	2	学期	S2	時限	月 1, 月 2
講義題目	情報組織論 Theories of Information Organization				

授業の目的・概要	<p>伝統的な図書館の世界では、目録と分類が資料組織化の 2 つの中心であった。21 世紀は、文字、画像、動画、音声、ソフトウェアなどあらゆる形式の情報・知識がデジタル化され、コンピュータ・ネットワーク上に膨大かつ半永久的に蓄積される時代であるが、今も目録と分類が情報組織化の重要な手法であることに変わりはない。</p> <p>本授業の目的は、目録を中心とする情報組織化についての基礎的理論と実践的技法を学び、さらに学習・研究を続ける契機となる問題意識を獲得することにある。授業は、(1)情報組織化および目録の社会的な意義・機能と、その歴史的な変化について学ぶパート、(2)印刷資料をモデルとして確立した目録法(おもに記述目録法)の理論と技法を学ぶパート、(3)あらゆる情報メディアを対象として構築されつつある書誌コントロールの理論と技法を学ぶパートの順に進める。(2)では、目録の対象となる情報資源集合の構造について、とりわけ情報資源の同一性の問題も取り上げる。また(2)と(3)では、授業中および授業時間外の実習を行う予定。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入:図書館と情報組織化</li> <li>2. 情報組織化と目録法</li> <li>3. 目録の歴史(1):古代から 19 世紀まで</li> <li>4. 目録の歴史(2):20 世紀以降</li> <li>5. 記述目録法(1):『日本目録規則』</li> <li>6. 記述目録法(2):書誌記入の構成要素と記述の原則</li> <li>7. 記述目録法(3):図書・逐次刊行物の記述</li> <li>8. 小テスト(1)と解説</li> <li>9. メタデータ(1):目録法見直しの必要性</li> <li>10. メタデータ(2):ダブリンコアと RDF</li> <li>11. メタデータ(3):FRBR と RDA</li> <li>12. 書誌コントロール(1):国立国会図書館</li> <li>13. 書誌コントロール(2):書誌ユーティリティと IFLA</li> <li>14. 書誌コントロール(3):非コントロール情報資源</li> <li>15. 小テスト(2)と解説</li> </ol>
授業の方法	基本的に講義形式と実習を交互に行う。また講義の際には、個別に指名して質問に回答してもらう。毎回資料を配布する予定。
成績評価方法	授業中に行う数回の発表、小課題、小テストおよび授業への参加度により総合的に評価する。
教科書	使用しない。
参考書	<p>以下の 2 点のほかは授業中に随時紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根本彰著『文献世界の構造』勁草書房, 1998.</li> <li>・根本彰・岸田和明編『情報資源の組織化と提供』東大出版会, 2013.</li> </ul>
履修上の注意・備考	特になし。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212416	担当教員	今井 福司		
単位数	2	学期	S1	時限	金 1, 金 2
講義題目	学校経営と学校図書館 School Management and School Libraries				

授業の目的・概要	<p>学校図書館は、学校図書館法において学校教育に資する施設であることが明記されており、学校教育を支える基盤とされている。しかし実態は一致しておらず、資料、予算、人、周囲の理解を含めて課題が多く残されている。このような状況の中では、司書教諭は単に求めに応じてサービスを提供するだけでなく、自ら積極的に周囲の教員や学校関係者に働きかけを行い、実践を展開せざるを得ない。この授業においてはそうした実践を展開するときに、必要となる知識や基本的なスキルを身につけることを目的とする。特に、学校経営の文脈だけに限らず、学校図書館に関わるあらゆる分野の基本的な内容を幅広く扱い、他の司書教諭講習相当科目に対する入門編とすることを意図している。</p> <p>その上で、本授業では司書教諭として、学校内において積極的に学校図書館実践を展開していくために必要とされる基本的な知識を身につけた上で、学校教育の目的と対応させた学校図書館実践について、受講者がアイデアを提示できるようになることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第 1 回 授業概要の説明, 授業用 CMS サイトへの登録</p> <p>第 2 回 アメリカ・日本における学校図書館史とその理念・意義</p> <p>第 3 回 学校図書館関係法規と国, 自治体の振興政策</p> <p>第 4 回 学習指導要領における学校図書館の扱い</p> <p>第 5 回 学校図書館の整備Ⅰ メディアの選択と組織化</p> <p>第 6 回 学校図書館の活動Ⅰ 読書センターとしての活動</p> <p>第 7 回 学校図書館の活動Ⅱ 学習・情報センターとしての活動</p> <p>第 8 回 学校図書館の活動Ⅲ ICT を活用した教育について</p> <p>第 9 回 学校図書館職員の位置づけ</p> <p>第 10 回 学校図書館の経営(学校教育計画の中での位置づけ)</p> <p>第 11 回 学校図書館の評価と改善</p> <p>第 12 回 学校図書館の整備Ⅱ 環境整備(施設・設備)</p> <p>第 13 回 グループ作業(作業内容については、授業中発表する)</p> <p>第 14 回 グループ作業発表会</p> <p>第 15 回 試験とまとめ</p>
授業の方法	<p>講義を中心とし、受講生の人数に応じて、ディスカッションや演習を取り入れた授業を行う予定である。授業前の予習復習時間は 1 コマあたり 4 時間を予定している。なお大学の方針によりオンライン授業となった場合の授業方法については、「オンライン授業内容」の項目を参照すること。</p>
成績評価方法	<p>授業の参加(発言を頻繁に求める)、グループ・個人発表、授業時間外に取り組む課題(レポート)、小テストを 50%、最終試験もしくは最終課題を 50%として、総合評価 60%以上を単位認定の最低条件とする。</p>
教科書	<p>坂田 仰, 河内 祥子(編著). 『学校図書館への招待』 八千代出版, 2017. この他、頻繁にレジュメや参考資料を配布する。</p>
参考書	<p>根本彰編(著). 『探究学習と図書館—調べる学習コンクールがもたらす効果』学文社, 2012.</p> <p>日本図書館協会図書館利用教育委員会(編著). 『問いをつくるスパイラル—考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会, 2011.</p>
履修上の注意・備考	<p>履修者は以下の事項をあらかじめ了解した上で授業に臨むこと。</p> <p>・本科目は司書教諭資格取得の 5 科目のうちの概論的なものであるため、最初に履修することが望ましい。</p>

・最終試験の受験資格は全 14 コマの授業のうち、原則として 9 コマ以上の出席がある受講者のみとする。

・受講生の希望や関心によってシラバスと計画を変更する場合がある。

【以下対面授業時の注意事項である】

・授業進行の都合上、初回に受講者の座席指定を行う予定である。よって、初回は特段の理由がない限り欠席しないこと。

・授業の連絡は電子メールで行う。授業用メ

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09212417	担当教員	庭井 史絵		
単位数	2	学期	S2	時限	火 4, 火 5
講義題目	探究学習の方法 Methodology of Inquiry Learning				

授業の目的・概要	<p>【目標】この授業は、司書教諭資格取得のための科目「学習指導と学校図書館」に位置づけられている。そのため、学校図書館の機能を生かした探究学習について理解することが主たる目標である。探究学習の方法のみを取り扱う授業ではないことに注意されたい。</p> <p>【概要】学校図書館が、学校の内外で行われる教育活動にどのように関わり、児童・生徒の学びをいかに支援するのかについて講義する。学校図書館は、単に読書材を提供する場ではない。司書教諭は教科教員と連携して、授業計画を立て、チームティーチングによる指導を実践する必要がある。また児童・生徒の学びを支援するための情報環境を作り、それらが効果的に利用されるようさまざまなサービスを提供しなければならない。教育課程の展開に寄与する学校図書館のあり方を踏まえた上で、学校図書館を活用した探究学習の方法について学び、学生自らが「学校図書館を活用した授業」の指導案を作成する。指導案作成にあたっては、探究学習や情報利用に関する理論モデルを踏まえる。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション</li> <li>2. 探究学習と調べ学習</li> <li>3. 探究のためのプロセスモデル</li> <li>4. 探究のための学習スキル</li> <li>5. 探究学習における学校図書館の役割</li> <li>6. 探究学習における司書教諭・学校司書の役割</li> <li>7. 探究学習のプロセス①テーマを決める②問いをつくる</li> <li>8. 探究学習のプロセス③調べ方を考える④情報を収集する</li> <li>9. 探究学習のプロセス⑤情報を整理分析する⑤まとめる</li> <li>10. 探究学習のプロセス⑥発表する⑦振り返る</li> <li>11. 探究学習指導案の作成①実践事例の収集</li> <li>12. 探究学習指導案の作成②授業の計画と教材作成</li> <li>13. 探究学習指導案の検討と相互評価</li> </ol>
授業の方法	講義と、教科書を使った演習、学生自身による「学校図書館を利用した授業」の事例調査・指導案作成、相互評価を行う。
成績評価方法	授業内の課題によって評価する。具体的には、各回の課題(第 7-10 回)40%、「学校図書館を活用した授業の実践事例」の調査・報告(第 11 回)20%、「学校図書館を利用した授業」の指導案(第 12 回)20%、指導案の相互評価への貢献度(第 13 回)20%による。
教科書	『思考を深める探究学習～アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館』全国学校図書館協議会、2016
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意・備考	★学校図書館司書教諭資格取得のための科目「学習指導と学校図書館」の位置付けである。そのため、授業の内容は学校図書館と学習指導について扱う。その点を良く理解したうえで履修すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09212418	担当教員	小国 喜弘 野崎 大地 熊谷 晋一郎 近藤 武夫 東郷 史治 仁平 典宏 能智 正博 星加 良司		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	<p>人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自身が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。</p>
授業計画	<p>(以下は現時点での予定である。順番が入れ替わることがある)</p> <p>第一回 オリエンテーション          &lt;教育における「バリア」&gt;</p> <p>第二回 教育のバリアフリーとICT 利用(近藤先生)4月16日</p> <p>第三回 学校というバリア(小国)4月23日</p> <p>第四回 学校組織における包摂と排除(二羽先生)4月30日          &lt;身体機能を通してみる「バリア」&gt;</p> <p>第五回 現代の暮らしを支える社会環境と心身の健康(東郷先生)5月7日</p> <p>第六回 脳の障害によって生じるバリア(野崎先生)5月21日          &lt;ゲスト講義&gt;</p> <p>第七回 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合先生(野崎先生))5月28日          &lt;語り／言葉をめぐる「バリア」&gt;</p> <p>第八回 当事者研究の可能性(熊谷先生)6月4日</p> <p>第九回 障害者の語り(能智先生)6月11日</p> <p>第十回 「見えない障害」とカミングアウト(飯野先生)6月18日          &lt;社会のひずみとしての「バリア」&gt;</p> <p>第十一回 移民の子どもから考える日本社会のバリア(額賀先生)6月25日</p> <p>第十二回 社会現象としての「障害」(星加先生)7月2日</p> <p>第十三回 「バリア」の認識論(星加先生)7月9日</p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。</p> <p>zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の 10 分に、google classroom を用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば 30 字以内)は、0 点とすることがあります。およそ 200 字前後を目安とし</p>



	て、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内に御願います。
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoom の参加 URL については、現在のところ、この講義に固定された URL となっておりますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。</p> <p>インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。その場合は、下記のアドレスにご連絡ください。また通信環境が整わない方は、整った段階でお知らせください。</p> <p>バリアフリー教育開発研究センター バリア・スタディーズ担当 utbarrier.studies@gmail.com</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09213101	担当教員	中村 高康		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 3
講義題目	教育社会学概論 Introduction to the Sociology of Education				

授業の目的・概要	教育現象を社会的に捉えるとは、どういうことか。なぜそれが必要なのか。現在の教育はいかなる状況にあるのか。この概論では、教育を対象とする社会学の基本的な理論や概念、実証的知見を学ぶことを通じて、教育をめぐって我々が直面している課題を理解することを目的とする。
授業計画	さしあたり以下の内容を予定している(若干の変更はあるが初回講義時に説明する)。 ①イントロダクション・教育社会学とは何か ②教育社会学のパラダイム1 ③教育社会学のパラダイム2 ④社会の中で生まれるー社会化ー ⑤家庭の中で育つー家族・社会・教育ー ⑥ 学校に入るー近代化と教育投資ー ⑦学校の中で育つ1ー学校の社会的機能ー ⑧学校の中で育つ2ー学校問題の社会学ー ⑨学卒就職と社会 ⑩働くーキャリア・昇進・能力ー ⑪次の世代へー社会階層と教育ー ⑫ジェンダーと教育 ⑬現代の教育を見る視点
授業の方法	Zoom によるウェブ会議形式で行う。 授業で指定された文献を読み、コメントを記入して、当該週の金曜日までに ICT-LMS のアンケートに回答を記入してもらおう形で講読メモを送信してもらう。それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手なし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。
成績評価方法	授業で指定された文献を読み、コメントを記入して、当該週の金曜日までに ICT-LMS のアンケートに回答を記入してもらおう形で講読メモを送信してもらう。 また、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は、出席:講読メモ:期末レポート=20:40:40 の比で評価する。
教科書	講読文献を授業内で指示する。
参考書	各回の授業に関連する参考文献を毎回の授業で提示するが、さしあたりの基礎的参考書として、酒井朗・多賀太・中村高康編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012 をあげておく。
履修上の注意・備考	授業への積極的な参加を期待したい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照 ※C 参照

時間割コード	09213102	担当教員	橋本 鉦市 阿曾沼 明裕		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	高等教育概論 Introduction to Higher Education Studies				

授業の目的・概要	今日の高度知識基盤社会にあつて、高等教育が果たす役割と意味はきわめて大きなものになってきている。高等教育はどこから来て、どのような状況にあり、将来どこに向かおうとしているのか。この授業では、近代大学の誕生から産業化に伴う発展と分化、現状とその課題、さらに今後の変容と展望までを視野に入れつつ、高等教育が担う機能、構造、政策、歴史などを扱う。具体的には国内外の高等教育機関への入学選抜、カリキュラム、就職といった一連の教育プロセスから、歴史・理念、制度、組織、政策・政治、管理・運営、財政・財務といった諸側面を政策科学的なアプローチから考察して、高等教育全般にわたる広い視座と方法論を涵養する。
授業計画	第 1 回 イントロダクション: 高等教育の概観・講義内容の説明 第 2 回 大学に入るまで・出てから 第 3 回 カリキュラム・内容 第 4 回 構成員と組織 第 5 回 システムと制度 第 6 回 ガバナンスと政策 第 7 回 大学の歴史: 中世から 20 世紀前半まで 第 8 回 現代の大学: 20 世紀後半以降 第 9 回 グローバリゼーションのなかの大学 第 10 回 財政・財務・経営 第 11 回 研究者の世界 第 12 回 大学と社会・経済 第 13 回 総括
授業の方法	橋本と阿曾沼両名による授業である。各回の授業計画(内容)は前後する可能性がある。また講義形式、リアクションペーパー、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションなどを予定している。
成績評価方法	授業への参加度・リアペ(30%)、中間レポート(20%)、最終試験(50%)を予定している。
教科書	橋本・阿曾沼編、2021 年『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房。
参考書	リーディングスはコピーなどを用意する。随時指定。
履修上の注意・備考	グループ・ディスカッション、グループ・ワークを予定しているので、出席を重視する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09213103	担当教員	額賀 美紗子 北村 友人		
単位数	2	学期	S1	時限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	<p>本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。</p> <p>講義は教育社会学を専攻する二名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。</p> <p>具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、学力、教育病理といった具体的なテーマに関する国際比較、②途上国における教育開発、21世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、③人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、の3領域である。</p> <p>なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。</p>
授業計画	<p>第1週(4/8) 担当:額賀 &lt;比較教育学とは何か ①概要、国際比較の目的と手法&gt; 比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。学校制度、学力、学校文化、子育てといった具体的なテーマに関するデータを検討しながら、国際比較研究の方法と意義について学ぶ。海外のゲストスピーカーを予定。</p> <p>第2週(4/15) 担当:額賀 &lt;比較教育学とは何か ②異文化間教育領域&gt; グローバリゼーションやトランスナショナリズムという概念について学び、そうした現代の超国家的現象が既存の学校教育につきつけている課題について考える。国の間を移動する子どもたちが経験する文化的葛藤、アイデンティティ形成、言語獲得、学力等の問題について理解を深め、多文化化する日本社会の教育課題を検討する。</p> <p>第3週(4/22) 担当:北村 &lt;比較教育学とは何か ③開発領域&gt; 比較教育学の一領域としての開発領域について学ぶ。アジア地域と教育開発、グローバリゼーション、大学改革等を取り上げる。</p> <p>*4月29日は祝日のため休講</p> <p>第4週(5/6) 担当:北村 &lt;持続可能な社会の実現に向けた教育の役割&gt; 持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。</p> <p>第5週(5/13) 担当:額賀 &lt;移民教育・多文化教育の国際比較&gt; 各国で提唱されてきた多文化主義・多文化教育や、日本における多文化共生の教育について批判的に考察し、国際比較の視点から日本における外国人生徒の教育を受ける権利や、マイノリティを包摂する教育の可能性と課題について考える。ゲストスピーカーを予定。</p> <p>第6週(5/20) 担当:北村 &lt;比較教育学の国際的な視点からの捉え直し&gt; 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、海外講師の講義と議論の後、比較教育学の可能性と課題、そして日本(さらにはアジア)における比較教育学のあり方について考える。</p> <p>第7週(5/27) 担当:北村 &lt;比較教育学の課題と展望&gt; 今学期のまとめとして、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。な</p>

	お、このセッションは、一コマのみの講義となる。
<b>授業の方法</b>	講義とディスカッションを組み合わせる
<b>成績評価方法</b>	出席 20%、レポート課題（北村 40%、額賀 40%）
<b>教科書</b>	特に指定しない
<b>参考書</b>	随時指定する
<b>履修上の注意・備考</b>	二時間続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となる。グループ・ディスカッションに積極的に参加することを求める。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目（社）地理学(地誌を含む) (公)社会学

時間割コード	09213201	担当教員	仁平 典宏 三輪 哲 胡中 孟徳		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習 I Training in Research Methods for the Sociology of Education I				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 II~IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 I」では、「教育社会学調査実習 III、IV」で行う調査実習で必要とされる知識として、社会調査に関する基本的な考え方、量的調査や質的調査などの社会調査の方法、資料やデータの蒐集から分析までの諸過程、質問文の作り方などについて、テキストを用いて学習する。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス。研究の進め方、文献の探し方、調査倫理について。</li> <li>文献講読。社会調査の歴史。社会調査の目的、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究方法。</li> <li>文献講読。調査の目的に応じた調査方法の選び方。標本調査の特徴。</li> <li>文献講読。先行研究・先行調査などの探し方。</li> <li>文献講読。社会学の理論と検証。理論仮説—作業仮説—検証。</li> <li>文献講読。社会調査の目的。仮説—質問項目。</li> <li>文献講読。変数のしくみ。データのしくみ。変数の合成のしかた。</li> <li>文献講読。質問紙のしくみ。</li> <li>文献講読。ワーディングの注意点。</li> <li>調査対象に関する既存資料・官庁統計などについての報告。</li> <li>文献講読。昨年度の調査実習報告書の批判的検討。</li> <li>研究トピック別に3班に分かれて討議(「社会調査とプライバシー」等)</li> <li>文献講読。今後の調査の流れについて留意点、課題、作業について説明。</li> </ol>
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第4版]』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社)
履修上の注意・備考	<p>コース学生のみ履修可</p> <p>初回の授業は2限からZoomで行います。</p> <p><a href="https://zoom.us/j/99348982599?pwd=aFI3RWhOYWWhGRHlKa3k0a3hzaDBOdz09">https://zoom.us/j/99348982599?pwd=aFI3RWhOYWWhGRHlKa3k0a3hzaDBOdz09</a></p> <p>インターネット環境の問題などで、オンライン参加が難しい場合は、仁平(nihenori@gmail.com)までご連絡ください。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09213202	担当教員	仁平 典宏 三輪 哲 胡中 孟徳		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習Ⅲ Training in Research Methods for the Sociology of Education III				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅲ」では、「教育社会学調査実習Ⅳ」で行う質問紙調査の準備段階として、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・質問紙の作成などの作業を行う。
授業計画	4～5月：文献講読(実証研究、社会学の考え方、質問紙の作り方・ワーディング・変数のしくみ)、調査の企画、見本となる研究例や先行研究の検討。 6月前半：調査対象訪問とフィールドワークの報告。 6月後半～7月：仮説構成、質問項目づくり、ワーディング。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレーションを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/対象:東京都X区立中学校生徒 4.主な調査項目:友人関係、家庭での過ごし方、学校観、授業に対する姿勢、遊び、生活意識、通塾、受験、地域交流など 5.データ収集(現地調査)の方法:質問紙調査 6.調査の実施時期・調査地・調査員の数:2021年9～11月・東京都X区・区立中学校生徒を対象とする、学校通しのアンケート調査 7.調査における学生のかかわり/役割:受講学生一人ひとりが社会学的な仮説を立て、その検証に必要な質問をつくり、データ収集後は、コーディング作業、集計表の作成、分析、考察、レポートの作成まで行う。
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第4版]』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社) その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目(社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09213203	担当教員	仁平 典宏 三輪 哲 胡中 孟徳		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習 II Training in Research Methods for the Sociology of Education II				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 I、III、IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 II」では、「教育社会学調査実習 IV」で行う質問紙調査の分析に必要とされる知識として、サンプリングの方法、調査の実施方法、調査データの整理、統計の基礎知識や諸分析方法、統計ソフトの使用法などについて、テキスト等を用いて学習する。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文献講読。全数調査と標本調査、サンプリングの諸方法。本調査サンプルの特徴と留意点。</li> <li>2 調査の実施方法に関する説明。調査対象への質問紙の発送・回収作業、質問紙に添付する、説明や依頼や調査実施方法に関する書類の書き方。</li> <li>3 調査票の構成と、質問文を作成する上での方法と留意点に関する講義。</li> <li>4 分析で主として用いる統計に関する確認の講義。(基礎統計量、クロス分析。エラボレーションなどの研究モデル。)</li> <li>5 分析で用いる統計ソフト SPSS に関する講義。(データファイルのしくみ。基礎的な記述統計分析。変数の加工方法。)</li> <li>6 調査データの整理方法に関する講義。(エディティング、コーディング、変数リストのしくみ、コーディングマニュアルの作り方。)</li> <li>7 エディティング、コーディング作業。同上</li> <li>8 調査データの整理方法に関する講義(1)。(回答状況に基づく新変数の作成。自由記述の処理。)</li> <li>9 調査データの整理方法に関する講義(2)。(データクリーニングについて。)</li> <li>10 調査データの整理方法に関する講義(3)。(基礎集計表の作成方法)</li> <li>11 受講者全員で、基礎集計表に基づく、データの特徴に関する検討。</li> <li>12 報告書を作成する際の留意点について。</li> <li>13 担当教員、TA からデータ分析に関する個別指導。</li> </ol>
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第4版]』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社) その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学



時間割コード	09213204	担当教員	仁平 典宏 三輪 哲 胡中 孟徳
単位数	2	学期	A1A2
		時限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習IV Training in Research Methods for the Sociology of Education IV		

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ～Ⅲ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅳ」では、「教育社会学調査実習Ⅲ」を受けて、質問文・質問紙の画定、サンプリング、質問紙調査の実施、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成を行う。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。
授業計画	10月：質問紙原案の確定作業、調査対象の責任者のチェックとそれをふまえての修正、質問紙最終稿の確定とレイアウトを含めた質問紙作成作業、質問紙発送作業。 11～12月：統計ソフト操作実習。変数リスト、コーディングマニュアル作成作業、エディティング、コーディング作業。 1～2月：データクリーニング作業、集計表作成作業、データ分析作業と中間報告と検討、レポート作成、成果報告会。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレーションを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/対象:東京都X区立中学校生徒 4.主な調査項目:家庭での過ごし方、学校観、授業に対する姿勢、遊び、生活意識、通塾、受験、地域交流など 5.データ収集(現地調査)の方法:質問紙調査 6.調査の実施時期・調査地・調査員の数:2020年9～11月・東京都X区・区立中学校生徒を対象とする、学校通しの調査 7.調査における学生のかかわり/役割:受講学生一人ひとりが社会学的な仮説を立て、その検証に必要な質問をつくり、データ収集後は、コーディング作業、集計表の作成、分析、考察、レポートの作成まで行う。
成績評価方法	平常点 最終レポート
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第4版]』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社) その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09213205	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年	時限	水 6
講義題目	比較教育社会学 論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業計画	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業の方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
成績評価方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
教科書	各教員が第一回ゼミに説明する。
参考書	各教員が第一回ゼミに説明する。
履修上の注意・備考	各教員が第一回ゼミに説明する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09213501	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年	時限	月 1
講義題目	比較教育社会学 研究指導 Tutorial in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する。
授業計画	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
授業の方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
成績評価方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教科書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
参考書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
履修上の注意・備考	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09214101	担当教員	牧野 篤		
単位数	2	学期	S1	時限	月 5, 月 6
講義題目	社会教育論Ⅱ Theories of Adult Education II				

授業の目的・概要	<p>少子高齢化・人口減少、グローバル化などによる社会構造の大きな変容にともなって、人々の学びのあり方も変わることが迫られている。さらにコロナ禍にあって、この社会の底抜けが明らかとなっている。それは端的に、人々の孤立という現象として表面化している。改めて、人々が孤立しない社会のあり方を構想することが求められている。学校制度の基本的な原理と社会教育の特質を歴史的に概観した上で、今日の社会変動の背景をとらえ、それらと生涯学習が課題化されることとの関係を把握する。さらに教育学的な課題の一つである〈私さがし〉や生きる価値と意味を、〈つながり〉をキーワードに検討することで、「学び」の社会的意味と学ぶ主体である〈わたし〉を軸にした教育制度・経営のあり方を考える。また、制度が構築されればされるほど、その網の目から抜け落ちる人々をどう「社会」につなぎ止めておくのか、「福祉」のあり方もかかわらせて、議論したい。</p> <p>本講義は、概ね以下の内容から構成される。Ⅰ. 近代産業社会と学校・社会教育・生涯学習、Ⅱ. 社会の構造的変動と教育システムの改編、Ⅲ. 揺らぐ自己と自我の形、Ⅳ. 〈学び〉とは何か、Ⅴ. 生成し続ける語る〈わたし〉。</p> <p>生涯学習時代における「学び」のあり方を考えるための基礎的な視点を養うとともに、受講者各個人が、自らの人生を主体的に考え、選択するとともに、この社会で学び続けることの意味を考え、自らの社会的な役割をとらえ課することができるようになることを目的とする。</p> <p>オンラインでの開講とする。オンラインで〈つながる〉ことのあり方についても、受講者とともに考えたい。</p> <p>なお、授業途中であっても、最新の知見を得られた場合には、内容を組み換えることがありえる。</p>
授業計画	<p>概ね、以下のような内容から構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本社会の変容と生涯学習</li> <li>2. 人が「学ぶ」ということ。「学び」とはなにか</li> <li>3. 市場社会と他者の存在</li> <li>4. 学校がつくりだす承認関係</li> <li>5. 自立した個人という幻想</li> <li>6. この社会で生きるということ</li> <li>7. 「社会」の構造</li> <li>8. 「社会」と「国家」</li> <li>9. 「ことば」とはなにか。「ことば」で語るということ</li> <li>10. 「意味」を問わざるを得ない私たち</li> <li>11. 「対話」と相互承認関係</li> <li>12. 自分語りと「対話」。「意味」ではなく、承認を</li> <li>13. 所与ではなく、生成としての自己へ</li> <li>14. 「学び」とわたし・わたしたち</li> <li>15. 存在としての「学び」</li> </ol>
授業の方法	オンライン開講とする。UTAS および ITC-LMS 上でリンク URL を受講者に伝える。
成績評価方法	適宜レポートを課す。
教科書	適宜紹介する。
参考書	<p>以下のものを使用する。</p> <p>牧野篤『認められたい欲望と過剰な自分語りーそして居合わせた他者・過去とともにある私へ』（東京大学出版会、2011年）</p>

牧野篤『生きることとしての学び—自生する地域コミュニティと共変化する人々』(東京大学出版会、2014年)  
牧野篤『社会づくりとしての学び—信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動』(東京大学出版会、2018年)  
牧野篤『公民館はどう語られてきたのか—小さな社会をたくさんつくる・1』(東京大学出版会、2018年)  
牧野篤『公民館をどう実践してゆくのか—小さな社会をたくさんつくる・2』(東京大学出版会、2019年)  
牧野篤(編著)『人生100年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装』(東京大学出版会、2020年)  
なお、参考書は本来であれば購入し、熟読して欲しいが、いずれも高価なので図書館などで読んでおくとよい。

**履修上の注意・備考**

人が社会でともに生きることや学びに強い関心をもって授業に臨んで欲しい。  
大学は自律的に学ぶ場であることを十分に自覚し、積極的に授業に参加して欲しい。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09214102	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2	学期	S1	時限	火 5, 金 5
講義題目	図書館情報学概論 Introduction of Library and Information Studies				

授業の目的・概要	<p>本授業では、図書館、図書館情報学、そしてその関連分野についての基礎的な概念を理解することを目標とする。まずは、普遍的な図書館の理念と、時代・地域ごとの図書館の役割を講義する。その後、館種(国立図書館、公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館)ごとにどのような機能を果たしているのかを講義する。最後に、「場所」、関連機関との図書館および図書館情報学の関係について述べる。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 図書館と図書館情報学の理念</li> <li>3 公共図書館</li> <li>4 学校図書館</li> <li>5 大学図書館</li> <li>6 国立図書館</li> <li>7 中間まとめ</li> <li>8 専門図書館</li> <li>9 図書館と知識の歴史</li> <li>10 場所としての図書館</li> <li>11 司書の養成</li> <li>12 図書館の関連機関</li> <li>13 最終まとめ</li> </ol>
授業の方法	教科書は使わず、レジュメを配布する。
成績評価方法	授業への積極的参加およびテストによって評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	<p>特になし。</p> <p>ITC-LMS (<a href="https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/portal/login">https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/portal/login</a>) からレジュメをダウンロードできるようにする予定。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09214103	担当教員	北村 友人 額賀 美紗子		
単位数	2	学期	S1	時限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	<p>本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。</p> <p>講義は教育社会学を専攻する二名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。</p> <p>具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、学力、教育病理といった具体的テーマに関する国際比較、②途上国における教育開発、21世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、③人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、の3領域である。</p> <p>なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。</p>
授業計画	<p>第1週(4/8) 担当:額賀 &lt;比較教育学とは何か ①概要、国際比較の目的と手法&gt; 比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。学校制度、学力、学校文化、子育てといった具体的テーマに関するデータを検討しながら、国際比較研究の方法と意義について学ぶ。海外のゲストスピーカーを予定。</p> <p>第2週(4/15) 担当:額賀 &lt;比較教育学とは何か ②異文化間教育領域&gt; グローバリゼーションやトランスナショナリズムという概念について学び、そうした現代の超国家的現象が既存の学校教育につきつけている課題について考える。国の間を移動する子どもたちが経験する文化的葛藤、アイデンティティ形成、言語獲得、学力等の問題について理解を深め、多文化化する日本社会の教育課題を検討する。</p> <p>第3週(4/22) 担当:北村 &lt;比較教育学とは何か ③開発領域&gt; 比較教育学の一領域としての開発領域について学ぶ。アジア地域と教育開発、グローバリゼーション、大学改革等を取り上げる。</p> <p>*4月29日は祝日のため休講</p> <p>第4週(5/6) 担当:北村 &lt;持続可能な社会の実現に向けた教育の役割&gt; 持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。</p> <p>第5週(5/13) 担当:額賀 &lt;移民教育・多文化教育の国際比較&gt; 各国で提唱されてきた多文化主義・多文化教育や、日本における多文化共生の教育について批判的に考察し、国際比較の視点から日本における外国人生徒の教育を受ける権利や、マイノリティを包摂する教育の可能性と課題について考える。ゲストスピーカーを予定。</p> <p>第6週(5/20) 担当:北村 &lt;比較教育学の国際的な視点からの捉え直し&gt; 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、海外講師の講義と議論の後、比較教育学の可能性と課題、そして日本(さらにはアジア)における比較教育学のあり方について考える。</p> <p>第7週(5/27) 担当:北村 &lt;比較教育学の課題と展望&gt; 今学期のまとめとして、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。な</p>

	お、このセッションは、一コマのみの講義となる。
<b>授業の方法</b>	講義とディスカッションを組み合わせる
<b>成績評価方法</b>	出席 20%、レポート課題（北村 40%、額賀 40%）
<b>教科書</b>	特に指定しない
<b>参考書</b>	随時指定する
<b>履修上の注意・備考</b>	二時間続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となる。グループ・ディスカッションに積極的に参加することを求める。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目（社）地理学(地誌を含む) (公)社会学



時間割コード	09214104	担当教員	
単位数	2	学期	S2
		時限	火 3, 火 4
講義題目	<b>教職論</b> Introduction to Research on Teacher Development		

<b>授業の目的・概要</b>	教師の仕事に多様な側面からアプローチし、その複雑な構造を理解する。とりわけ教師の仕事の中心である授業の経験に焦点をあてる。教員免許の取得を目指す履修者には、進路選択を考えるための知識と情報を提供する。
<b>授業計画</b>	授業の流れは以下のように予定している。各回のトピックは授業の進行の状況に従って変更することもある。 1回 ガイダンス 2回 変容する社会の教師(1) 転換期の学校 3回 変容する社会の教師(2) 知識社会の学校と教師 4回 教師の知識(1) 資質と知識 5回 教師の知識(2) 教師の実践的思考様式 6回 教師の同僚性と共同体(1) 教師の同僚性 7回 教師の同僚性と共同体(2) 専門家共同体 8回 教師と学校の責任(1) 教師のヴァルネラビリティ 9回 教師と学校の責任(2) 教師と学校の責任 10回 日本の授業研究の歴史(1) 授業研究の視点 11回 日本の授業研究の歴史(2) 授業研究の歴史 12回 専門性と専門職性(1) 教師の専門職性 13回 専門性と専門職性(2) 反省的实践家としての教師 14回 カリキュラムのデザイン(1) カリキュラムの概念 15回 カリキュラムのデザイン(2) カリキュラムの変化 15回 まとめ
<b>授業の方法</b>	講義を中心に、具体的な課題に即したグループディスカッションを行う。
<b>成績評価方法</b>	出席と課題レポートで評価する。
<b>教科書</b>	特になし。
<b>参考書</b>	秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門(改訂版)』有斐閣、2015年。 そのほか、授業中に適宜紹介する。
<b>履修上の注意・備考</b>	特になし。 特になし。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09214105	担当教員			
単位数	2	学期	S2	時限	金 5, 金 6
講義題目	教育方法論 Teaching Methods				

授業の目的・概要	<p>具体的な方法論なしに教育目標を実現することはできない。本講義では、教育方法に関する理論的基盤への理解を深めるとともに、自らが教師として授業を行い専門的発達を遂げるための実践的力の土台を形成することを目指す。</p> <p>次の3つの内容が柱となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶとはどういうことか。</li> <li>・学習を促す授業のあり方はどういうものか。</li> <li>・教師は実践からどのように学び成長していくのか。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践記録から学ぶ</li> <li>2. 教育実践の法則性と固有性</li> <li>3. 海外の実践事例から学ぶ</li> <li>4. 学習観の転換</li> <li>5. 子どもの「間違い」をどう捉えるか</li> <li>6. 教科内容と教材</li> <li>7. 教科内容の系統性</li> <li>8. 教師が発する言葉</li> <li>9. 協同学習の意義と方法</li> <li>10. 自律的な学習</li> <li>11. ファシリテーターとしての教師</li> <li>12. 授業をめぐる対話と省察</li> <li>13. ミニ模擬授業の実施</li> <li>14. ミニ模擬授業の検討会</li> <li>15. 教師による実践研究</li> </ol>
授業の方法	対面の場合でもオンラインの場合でも、グループワークを多用する。積極的な参加が不可欠である。
成績評価方法	<p>定期試験は行わず、授業中に出题する課題をもって評価を行う。</p> <p>出席が授業回数の3分の2に満たない場合、原則として評価の対象外とする。</p>
教科書	指定しない。
参考書	<p>渡辺貴裕『授業づくりの考え方 ―小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ―』くろしお出版、2019年</p> <p>フレット・コルトハーヘン『教師教育学 ―理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ―』学文社、2010年</p> <p>佐藤浩一『学習支援のツボ』北大路書房、2014年</p> <p>杉江修治『協同学習入門』ナカニシヤ出版、2011年</p> <p>その他、授業中に適宜指示する。</p>
履修上の注意・備考	履修を希望する場合、初回から必ず出席すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09214106	担当教員	
単位数	2	学期	S1S2
講義題目	教育課程論 Curriculum Studies		
		時限	火 5

授業の目的・概要	<p>テーマ「教育課程の編成を理論的、実践的に学ぶ」</p> <p>日本の教育課程の歴史的変遷を踏まえつつ、学校主体のカリキュラム編成法とマネジメントの意義とその方法について理解する。教育課程の全体構造との関係において各教科、領域の存在意義をとらえ、学校の全体教育課程を編成しマネジメントする能力を養う。</p>
授業計画	<p>第1回:教育課程・カリキュラム・学習指導要領の関係性</p> <p>第2回:現代日本の子どもの諸問題(学習面、生活面)と教育課程</p> <p>第3回:教育課程における教科の分化と総合、選択履修と共通履修の関係</p> <p>第4回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(1)戦後初期</p> <p>第5回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(2)1958年~1977年</p> <p>第6回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(3)1989年~1998年</p> <p>第7回:2017年改訂学習指導要領の全体構造と特徴—2008年学習指導要領との比較を通して</p> <p>第8回:カリキュラム・マネジメントの意義</p> <p>第9回:カリキュラム・マネジメントと授業評価と学校評価</p> <p>第10回:カリキュラム・マネジメントの方法</p> <p>第11回:教科横断的な教育課程編成の実践例から学ぶ—小学校</p> <p>第12回:総合的な学習の時間を中心とした教育課程編成とマネジメントを実践例から学ぶ—中学校</p> <p>第13回:教育課程の試作—学校教育目標を検討する</p> <p>第14回:試作した教育目標と教科の関係を検討する</p> <p>第15回:試作した教育目標と教科外領域の関係を検討する</p>
授業の方法	<p>初回から Zoom を用いた遠隔授業を実施する。</p> <p>1)形式は講義の視聴。</p> <p>2)毎回、講義への感想の提出を求める(当日の授業時間内に提出)。</p> <p>3)感想ではなく、アンケートや特定のテーマについての意見を求めることもある。</p>
成績評価方法	感想の提出(50%)。テストまたはレポート(50%)の合算による。
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』
参考書	根津朋実編著『教育課程』ミネルヴァ書房、2019
履修上の注意・備考	<p>1)zoom の URL は ICT-LMS に掲載する。</p> <p>2)講義資料の事前配布、授業へのコメント、課題等は ICT-LMS システムを活用する。</p> <p>3)全学教職科目でもあるため、教員免許取得者の履修の観点では中等教育免許取得者を念頭に置くが、日本においてカリキュラム開発は初等教育を中心に行われてきた歴史的経緯があるため、初等教育の内容も押さえてゆくことになる。初等中等教育に関わる時事的な情報を、各自意識的に入手しておくこと。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09214201	担当教員	勝野 正章		
単位数	2	学期	S1	時限	月 3, 月 4
講義題目	<b>教育行政・学校経営演習 I</b> Seminar in Educational Administration and School Management I				

<b>授業の目的・概要</b>	教育行政・学校経営の現代的課題に関する理解を深め、それに関わる政策や実践の学術的分析や評価が行えるよう、そのために必要となる理論や方法を学ぶ。
<b>授業計画</b>	<p>特に本授業では教育行政・学校経営にかかわる現代的課題をとりあげる。たとえば、以下の事項をとりあげることを予定しているが、受講者の問題関心に基づいて変更もありうる。</p> <p>児童・生徒の「データフィケーション(datafication)」、公教育の市場化・民営化・商品化、コミュニティ・スクール(学校と地域の連携)、放課後学習支援(「子どもの貧困対策」)、外国籍児童・生徒に対する支援、教員とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携(「チーム学校」)、教員の働き方改革、ICT 教育</p>
<b>授業の方法</b>	文献・資料の輪読に加えて、可能な範囲で調査を実施したい。
<b>成績評価方法</b>	授業中の発表並びにディスカッションへの参加に加え、最終レポートで評価する。
<b>教科書</b>	特になし。
<b>参考書</b>	授業中に必要なものを指示する。
<b>履修上の注意・備考</b>	特になし。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09214202	担当教員	
単位数	2	学期	S1
		時限	火 3, 火 4
講義題目	社会教育学演習 I Seminar in Adult and Lifelong Education I		

授業の目的・概要	<p>社会教育・生涯学習を専門的に学ぼうとする受講者に、教育や学びが広く人が社会の中で生きようとすることに深く関わるものであることを理解してもらうために、社会的な課題に関わるトピックスや議論を取り上げて、文献を検討するとともに、地域の住民アクターとのかかわりを通して、地域社会で人が生きることとその課題を体験的に考察することを目的とする。</p> <p>とくに、近年、人生 100 年時代を迎え、学校のみならず、社会教育・生涯学習を含めた教育体系の総合行政への組み換えが進められており、その焦点はコミュニティである。新たな教育改革の方向として「地域学校協働活動」が提示され、法律の改正などを経て、コミュニティスクールの設置が努力義務化されており、教員にとっても地域社会との連携及び自らの教育実践を地域社会に開くことが求められる。また、社会教育施設の一般行政への移管が特例的に認められるなど、従来の教育行政と一般行政の区分が、社会教育・生涯学習の領域から組み換えられ、融合へと向かっている。</p> <p>本演習では、このような変化が求められるに至った政策的な経緯、とくに 1980 年代半ばの臨時教育審議会以降の教育政策の生涯学習への転回と「社会に開かれた教育課程」・コミュニティスクールの政策化、さらにコミュニティが政策的な焦点となる事態を、その社会的な背景を含めて理解し、受講者が自分なりの教育観・学習観を持つことを目標とする。</p>
授業計画	<p>本演習は文献講読を通して、住民の学びと社会活動との関係の基礎を学ぶとともに、住民アクターとのかかわりを通して、人々の活動に関与しつつ、住民が地域社会で活動することの意味を考察する。</p> <p>本演習では、地域社会への関与に先立って、今日の日本の地域社会が抱える諸課題をとらえるために、関連文献の講読を進める。取り扱う文献は、グローバル化の進展にともなう雇用構造の変化、少子高齢化がもたらす社会構造の変化、過疎化・高齢化に悩む地域社会のありよう、「無縁社会」と呼ばれる社会の出現、さらにこれらの社会にあって進められる「定常型社会」など新たな社会のあり方の模索など関するものであり、それらを教育と学習という実践の場においてどう受け止めるのかを考える。</p> <p>その後、近年の教育改革の方向として示された地域学校協働をとらえるために、1980 年代半ばの臨時教育審議会における議論、その後の教育政策の動向、そしてコミュニティスクール・地域学校協働活動の提起と実施にいたる議論を、関係の文献にあたることでとらえるとともに、その社会的な背景を理解し、教育政策の展開と社会の要請、さらにその個人への影響をとらえ、受講者自らの教育観・学習観を形成することを目的とする。</p> <p>授業期間中にエクサカーションなどの実習を予定している。</p>
授業の方法	<p>演習形式とし、とくにワークショップなどの手法を取り入れる。受講者の積極的な発言を期待する。</p> <p>エクサカーションなど実習の後には、報告書の作成を進めるため、自覚的な探求的態度で臨むことが求められる。ただし、コロナ禍の状況下、エクサカーションなどの実習は困難となる可能性も高いため、その場合には、文献研究を中心に授業を構成する。</p> <p>初回のみ対面とし、2 回目以降は、オンラインでの開講とする。リンク URL を UTAS 上で連絡する。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の新規感染者が増えてきているので、初回もオンライン開講を併用する。無理して大学に出てくることのないようにしてほしい。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加とときどきのレポートにもとづき評価する。</p>
教科書	<p>適宜紹介する。</p>

<b>参考書</b>	牧野篤『生きることとしての学び—2010年代・自生する地域コミュニティと共変化する人々—』(東京大学出版会、2017年) 牧野篤『社会づくりとしての学び—信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動』(東京大学出版会、2018年) 牧野篤『公民館はどう語られてきたのか—小さな社会をたくさんつくる・1』(東京大学出版会、2018年) 牧野篤『人生100年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装』(東京大学出版会、2020年) など、適宜紹介する。
<b>履修上の注意・備考</b>	演習であるため、積極的な参加が求められる。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09214203	担当教員			
単位数	2	学期	A1	時限	火 1, 火 2
講義題目	<b>教育方法学演習IV</b> Seminar of Research on Teaching and Curriculum IV				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>[授業の目標]</p> <p>この授業では、保育・幼児教育施設や小学校、中学校、高等学校などの教育の現場におけるフィールドワークを通して、教育実践を観察することの基礎を身につける。具体的には下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方を身につける。</li> <li>2. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。</li> </ol> <p>[授業の概要]</p> <p>教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教育内容研究、教育評価研究、教師研究、である。この授業では学校において授業観察を中心としたフィールドワークを行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。</p>
<b>授業計画</b>	<p>第1回 教育実践の課題 ガイダンス</p> <p>第2回 教育実践の研究(1)フィールドワーク①</p> <p>第3回 教育実践の研究(2)報告会①</p> <p>第4回 教育実践の研究(3)フィールドワーク②</p> <p>第5回 教育実践の研究(4)報告会②</p> <p>第6回 教育実践の研究(5)フィールドワーク③</p> <p>第7回 教育実践の研究(6)報告会③</p>
<b>授業の方法</b>	<p>主として学校におけるフィールドワークの方法を学び、調査とその報告を行う。</p> <p>ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によって、オンラインでの活動に変更する可能性もある。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。</p>
<b>教科書</b>	<p>指定しない。</p>
<b>参考書</b>	<p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法:15の事例にみる学校教育実践研究』東京図書</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書</p> <p>稲垣忠彦・佐藤学(著)『授業研究入門』岩波書店</p> <p>佐藤学『教育方法学』岩波書店</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会</p> <p>このほか、授業中に紹介する。</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>本授業は、A1タームに開講される2時間連続の授業である。</p> <p>情報収集やフィールドワークは受け入れ機関の事情により、必ずしも授業時間内に実施できるとは限らない。授業時間外でも活動をすることになるので、注意されたい。</p> <p>活動の種類や時期は、新型コロナウイルス感染症の状況によって変更になる可能性もある。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09214501	担当教員	全教員		
単位数	2	学 期	通年	時 限	木 6
講義題目	教育実践・政策学 研究指導 Tutorial in Educational Administration and Adult Education				

授業の目的・概要	教育実践・政策学コース所属学生のために、教育実践・政策学(教育行政学・社会教育学・図書館情報学・学校教育学)に関する卒業論文の執筆指導を行なう。
授業計画	以下の点について、報告・指導を行う。 1) 卒業論文の趣旨・書き方 2) テーマ選択 3) 研究方法 4) 研究成果のまとめ方 夏学期に1度、全体検討会を持つ。
授業の方法	各自が卒業論文に向けた研究に取り組み、それに基づいて議論を行なう。
成績評価方法	平常点による。
教科書	特になし。
参考書	テーマに応じて文献紹介を行う。
履修上の注意・備考	卒業論文執筆の規程を踏まえて履修すること。
教育職員免許法上の認定科目	



## 心身発達科学専修

時間割コード	09215301	担当教員	能智 正博		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	質的心理学研究法Ⅱ Research Methods for Qualitative Psychology Ⅱ				

授業の目的・概要	めまぐるしく変化する社会のなかで、教育や臨床の現場において現れてくる問題も変化しており、心理学もまた実験室的な研究だけではなく、現場の実践と関わりながらの新たなアイデアの探索と知識の生成が求められている。そうした背景のもとで近年注目されているのが、問題の発見と仮説生成を重視する質的研究であり、質的な方法を用いて〈現実〉にアプローチしようとする心理学の実践の全体を「質的心理学」と呼ぶ。本年は、自然場面の観察を用いたフィールドワークの方法についての理解を深めることを目標とする。
授業計画	1) イントロダクション 2) 質的研究概説 3) 観察することの意味 4) 自然場面の観察 5) 参加観察の実践 6) フィールドワークの準備 7) フィールドノーツ 8) 質的データの分析 9) 結果をまとめる 10) 研究事例① 11) 研究事例② 12) 研究事例③ 13) 研究事例④ 14) 成果発表
授業の方法	実習、講義、受講生の発表を適宜用いながら、授業を進めていく。フィールドでの観察やそのトレーニングのために対面の回も組み込む、ハイブリッド授業となる。
成績評価方法	授業への出席と参加 60% 最終レポート 40%
教科書	アングロシーノ『質的研究のためのエスノグラフィーと観察』（新曜社、2016）
参考書	能智正博『質的研究法』（東京大学出版会、2011）
履修上の注意・備考	原則として、授業にすべて出席できる見込みがあることを受講の条件とする。基本的に授業は時間通りに始める。遅刻しないように。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（公）心理学

時間割コード	09215302	担当教員	遠藤 利彦		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 2
講義題目	生涯発達心理学演習 Seminar in Life-span Developmental Psychology				

授業の目的・概要	胎児期から老年期に至る生涯発達のプロセスとメカニズムについて学ぶ。この演習の目的は、現代生涯発達心理学のホットなトピックを見極めることと時代の先を読んで新しい研究テーマを切り拓く感性やスキルを身につけることであり、また文献レビューの方法や研究デザインの組み方等について具体的な示唆を得ることである。
授業計画	実際の進め方としては、数名の者からなる小グループに分かれ、それぞれ1つの発達ステージを選択・担当する。そして、その発達ステージに関して、これまで、心理学・教育学およびその周辺諸科学では、どのような形で研究が進められてきたか、その動向を簡単に説明し、かつ、代表的な実証研究の概要を紹介する。また、その発達ステージに絡む現代的諸問題について論究し、その上で、批判的観点から、これまでの研究の問題点や欠落点等を指摘、さらにそれらを補うには、今後どのような研究を新たに実施していく必要があるか、具体的に研究計画の立案を試みる。
授業の方法	基本的に演習形式で行う。
成績評価方法	授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づいて、総合的に評価を行う。
教科書	特に用いない。
参考書	授業時に適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	授業時に紹介する関連文献等に可能な限り、目を通すこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215303	担当教員	清河 幸子		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 1
講義題目	教授・学習心理学演習 Seminar on Psychology of Learning and Instruction				

授業の目的・概要	卒業論文を執筆するにあたって、自らの興味・関心に基づき研究テーマを設定し、それに関連した英語論文を探し出し、読みこなすことは必須となる。本演習では、各自の研究関心に関連した英語論文を検索し、読みこなすスキルを学ぶ。なお、テーマは教授・学習、認知心理学領域のものを歓迎するが、これに限定しない。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 興味・関心から研究テーマを設定する</li> <li>2. 文献を検索する</li> <li>3. 論文を読む</li> <li>4～13 受講者による英語論文の発表・討論</li> </ol>
授業の方法	文献検索の方法、文献を読む方略について解説した後、受講者が各自のテーマに沿って英語論文を選んで、その概要を発表する。それをもとに、参加者全員で討論を行う。それと並行して、関連論文を読み進め、所定の様式でまとめたものを課題として提出する。
成績評価方法	担当回での発表、授業時の議論への参加、課題の提出によって総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	発表回数は受講者数に応じて決定する。積極的な参加を期待する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215304	担当教員	清水 大地 岡田 猛		
単位数	2	学期	A1	時限	月 3, 月 4
講義題目	身体性と創造性 Creativity and Embodiment				

授業の目的・概要	<p>この授業では、心理学論文のレビュー・ペアワークと、簡略化した芸術表現の実践体験を通し、我々の身体と思考/創造性との関連に関する知識・理解を獲得する。心理学論文のレビュー・ペアワークに関しては、身体と思考・創造性との関連を検討した心理学論文を学生がレビューし、ペアとなりその内容を全体に発表・共有し、上記の関連に関する概念的な理解を深める。芸術表現の実践体験に関しては、例えば、ダンスや演奏を通した音楽特徴や(背景の)歴史理解を深める体験や手話による作品の理解を深める鑑賞体験に取り組み、我々の身体がいかに思考・創造性に影響を与え、また思考・創造性が身体に影響を与えうるか、その関連の理解を経験的に深めていく。以上の概念的・経験的活動双方から身体と思考/創造性の理解を深め、その理解を最後に発表・共有することが求められる。以上の異なる体験の活動を通し、身体と思考/創造性に関する包括的理解を深めると共に、芸術表現に関する心理学的知見を得ることを目指す。</p>
授業計画	<p>全7回(毎2時限)の授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 オリエンテーション、身体と思考/創造性との関連についての論文紹介、論文の読み方・まとめ方の講義、発表論文の選択</li> <li>・第2回 ペアによる論文レビュー・発表・ディスカッション</li> <li>・第3回 表現の実践体験(手話を通した作品鑑賞を予定)とその共有・ディスカッション</li> <li>・第4回 ペアによる論文レビュー・発表・ディスカッション</li> <li>・第5回 ペアによる論文レビュー・発表・ディスカッション</li> <li>・第6回 表現の実践体験(ダンス・演奏を通した音楽特徴や歴史理解を予定)とその共有・ディスカッション</li> <li>・第7回 グループでの授業内容レビュー・発表・ディスカッション、総括</li> </ul>
授業の方法	<p>身体と思考/創造との関連を取り上げた心理学論文のレビュー・発表・ディスカッションを通して上記の関連についての概念的な理解を深める。加えて、身体と思考/創造とが深く結びついた芸術表現体験への主体的な参加・共有・ディスカッションを通して上記の関連についての経験的・演習的理解を深める。受講生は上記の発表やディスカッションへの活発な参加が求められる。</p>
成績評価方法	<p>最終発表ならびに通常授業の出席・積極的な参加・発表とディスカッションを重視して評価を付ける。</p>
教科書	<p>資料は逐次配布する。</p>
参考書	<p>「創造的認知」ロナルド・A.フィンケ、トーマス・B.ウオード、森北出版 「知の創生—身体性認知科学への招待」ロルフ・ファイファー、クリスチャン・シャイアー、共立出版</p>
履修上の注意・備考	<p>履修希望者は必ず初回のオリエンテーションに出席すること。発表・ディスカッション・実践を伴う授業であるため、必ず出席して授業に参加すること。なお実践を伴う授業の性質上、受講希望者が多い場合は何らかの形で人数制限をする可能性がある。</p> <p>心理学論文を読んだことがある人・ない人、表現(ダンス・音楽等)や手話を行ったことがある人・ない人といった経験の有無は全く問いません。論文を読んだ経験や表現の経験がある人は本授業を含む今までの体験が、無い人は本授業で初めて経験する体験がいかなるものであるのか、それ自体を深く考え、周囲の方と共有してみましよう。それらを通して理解・解釈が深まっていく豊かな過程を体験して欲しいと考えています。</p> <p>持参物:</p>

仔細は授業回ごとに指示。論文を読む・発表する作業が可能なPC等の個人端末(論文レビュー・発表・ディスカッショ

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09215305	担当教員	高木 紀久子 岡田 猛		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 2
講義題目	芸術創造性の実践演習 Art and creativity seminar				

授業の目的・概要	<p>この授業では、芸術の実践的な演習を通して身体レベルと思考レベルの創造プロセスの方法を身につける。身体レベルの創造に関しては、外界とのインタラクションを中心としたワークを行い、自己の記録および他者と共有することでその可能性を探る。思考レベルの創造に関しては、既存の思考の枠を外して新しいアイデアを発想することの理解を、関連する心理学論文のレビューとワークの双方を通じて深めていく。身体レベルと思考レベルの双方の活動からアイデアを統合させ作品創作を行い、最後の授業で発表することが求められる。この二つのタイプの活動を通して、芸術の創作プロセスに関する体験的理解を深めると共に、身体と思考を融合した創造活動についての心理学的知見を得ることを目指す。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義:オリエンテーション(全体概要とフロッターージュなど身体を通じた表現の解説)</li> <li>2. 演習:フロッターージュ演習 タクティクルラインの演習(B3サイズ)</li> <li>3. 論文レビュー1: 芸術創作に関する論文</li> <li>4. 演習:フロッターージュ演習(描画材の応用)タクティクルラインの演習(B4 または B3サイズ)</li> <li>5. 論文レビュー2:芸術創作に関する論文</li> <li>6. 講義:芸術創作のプロセス(参考スライド) 演習:フロッターージュの展開(多様な支持体による効果, 空間への展開)</li> <li>7. 講義:芸術創作のプロセス(現代美術家の作品創作のモデル) 演習:ポートフォリオへのまとめ</li> <li>8. 美術館見学(この時期開かれている展覧会に行き、実際の作品の鑑賞体験を得る)</li> <li>9. 講義:最終作品に向けての解説(参考スライド: 諸領域との関係性) 演習:グループディスカッション、作品企画</li> <li>10. 作品制作(個別指導)</li> <li>11. 作品制作(個別指導)</li> <li>12. 作品制作(個別指導)プレゼンテーション計画(個別指導)</li> <li>13. 作品発表・講評</li> </ol> <p>なお、授業計画は履修者数、教室状況などにより変更が生じることがある。</p>
授業の方法	<p>実際に身体を動かして作品を作るという演習形式で、アートの創造性について学ぶ。加えて、心理学論文のレビューとディスカッション、ワークを通じて理解を深める。受講生は毎回の実際の制作活動への参加が求められる。</p>
成績評価方法	<p>最終発表ならびに通常授業の出席と授業への積極的な参加を重視して評価を付ける。</p>
教科書	<p>資料は逐次配布する。</p>
参考書	<p>「創造的認知」ロナルド・A.フィンケ, トーマス・B.ウオード, 森北出版 「ART SINCE 1900: 図鑑 1900年以後の芸術」ハル フォスター, ロザリンド・E. クラウス, イヴ-アラン ボワ, ベンジャミン・H.D. ブークロー, デイヴィッド ジョーズリット,</p>

東京書籍

**履修上の注意・備考**

履修希望者は必ず初回のオリエンテーションに出席すること。実技の授業なので、必ず出席して、授業に参加すること。なお、実践授業の性質上、受講希望者が多い場合は、何らかの形で人数制限をする可能性がある。

**教育職員免許法上の認定科目**

時間割コード	09215306	担当教員	中島 由宇 能智 正博 高橋 美保 滝沢 龍 野中 舞子		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 4
講義題目	心理演習 Seminar in Psychology				

授業の目的・概要	<p>心理療法やカウンセリングの実践的な基礎となる臨床的態度、人とかかわり人のこころを理解しようとするありかたについて、こころをつかって(体感的、内省的、対話的に)学びます。そうした学びを土台として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的支援を要する人への心理療法などに関する知識や技能の修得を目指します。</li> <li>・心理的支援を要する人の理解やニーズの把握、支援計画の作成を行うためのアセスメント能力を養います。</li> <li>・心理的支援を要する人の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携や地域連携に必要な、対話し協働する力を養います。</li> <li>・公認心理師としての職業倫理及び法的義務の意義を理解します。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 講義 1</p> <p>第3回 講義 2</p> <p>第4回 講義 3</p> <p>第5回 講義 4</p> <p>第6回 講義 5</p> <p>第7回 講義 6</p> <p>第8回 ロールプレイとディスカッション 1</p> <p>第9回 ロールプレイとディスカッション 2</p> <p>第10回 文献講読</p> <p>第11回 ロールプレイとディスカッション 3</p> <p>第12回 ロールプレイとディスカッション 4</p> <p>第13回 ロールプレイとディスカッション 5 まとめ</p>
授業の方法	授業の前半7回までのところでは、臨床心理学実践の基本的な姿勢について学びます。8回以降は演習を主とします(講義、ロールプレイ、文献講読、グループディスカッション等を含みます)。
成績評価方法	レポートを中心に評価します。
教科書	特に使用しません。
参考書	必要に応じて授業内で提示します。
履修上の注意・備考	この授業は公認心理師資格取得のためのカリキュラムの一部です。4年生で、公認心理士課程の指定科目のうち、4分の3以上(25科目中18科目)の履修を受講し終えていることを条件とします。
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09215307	担当教員	沖潮 満里子 能智 正博		
単位数	2	学期	A1A2	時限	月 1
講義題目	心理実習 Practical Training in Psychology				

授業の目的・概要	<p>保健医療、福祉の2つの分野の施設において見学等による実習を行い、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受けながら、以下の点についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ</li> <li>・多職種連携及び地域連携</li> <li>・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</li> </ul> <p>この「心理実習Ⅰ」では、保健医療、福祉の2つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。</p>
授業計画	<p>10月4日 オリエンテーション</p> <p>10月11日 予備日</p> <p>10月18日 保健医療分野の概観(1)</p> <p>10月25日 保健医療分野の概観(2)</p> <p>11月1日 福祉分野の概観(1)</p> <p>11月8日 福祉分野の概観(2)</p> <p>12月～2月 先方と都合を合わせて実習に出る</p> <p>1月24日 (中間的な)振り返り</p> <p>「概観」のセクションでは、テキストをレジュメにして発表し、その分野の全体の理解を深める。発表は70分程度とし、必要に応じて参考情報も説明する。</p> <p>「振り返り」においては、それまでの実習概要をA4で1、2枚程度にまとめて報告し、問題点などを話し合う。</p>
授業の方法	<p>座学でまず、医療、福祉領域における公認心理師の活動について学んだ上で、以下の3つの実習機関すべてを回ることになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学医学部附属病院(5日間、20時間)</li> <li>・社会福祉法人 三井記念病院(1日間、8時間)</li> <li>・社会福祉法人 泉会 岡本福祉作業ホーム玉堤分場(2日間、16時間)</li> </ul>
成績評価方法	<p>平常点 70%(現地実習指導者による評価も含む)、</p> <p>レポート 30%(施設毎に、A4で1～2枚程度)</p> <p>レポートの締め切り・提出方法は授業内で提示する。</p>
教科書	<p>津川律子・江口昌克(編)公認心理師分野別テキスト1「保健医療分野」(創元社、2019)</p> <p>=1章、2章を読む</p> <p>片岡玲子・米田弘枝(編)公認心理師分野別テキスト1「福祉分野」(創元社、2019)</p> <p>=1章、2章を読む</p>
参考書	<p>必要に応じて指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>公認心理師の受験資格を得ることを真剣に考えている4年生であること(3年生は来年度にとつていただきたい)。</p> <p>原則として、「公認心理師の職責」の単位を修得済みないし修得中の者。</p>

実習費用がかかる可能性がある。

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09215309	担当教員	上岡 洋晴		
単位数	2	学期	S1	時限	火 1, 火 2
講義題目	身体教育方法論 Methodology of Physical and Health Education				

授業の目的・概要	<p>この授業では、発育過程にある子どもが、運動嫌いにならず、自分のからだを上手に動かすことができること、生涯スポーツ(身体活動・運動)に繋がるようにすることについての教育方法論を学ぶ。具体的には、学校体育、部活動、生涯スポーツなどがその範疇となる。年齢や学年に応じた指導方法の具体例や実践(ロールプレイ)を踏まえての講義と学生自身の調査報告を中心に授業を進める。</p> <p>親子一緒に運動体験、幼児教育(体育)、学校体育、大学体育(学生)、あるいはスポーツ少年団・部活動・自主サークルの実状とその問題点を明らかにすることが議論の出発点となる。例えば、身体活動・運動の質と量が多い子どもと、そうでない子どもの二極化の対策方法、多くの大学で「体育」がないために学生時代にまったく運動を実践せずに就職していく若者と「メタボリック・シンドローム」の問題などは議論しておくべき必須事項である。また、何らかの原因で一度運動嫌いになると、以後の参加がかなり困難になることが知られており、これを防ぐ手立て考えることも現在の体育に求められる大きな課題である。ある動作の学習(例えば、投げる)において、知的発達段階に応じた上手なインストラクション(言語・非言語)の基本を知ることも不可欠である。</p> <p>授業は、講義に加えて、事前に設定したテーマに基づき、担当する受講者が、図書・論文・各種統計資料などをまとめてプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションする形式で進める。</p> <p>体育の教職の単位取得を希望している学生はもちろんのこと、体育のあり方について興味のある学生には適した授業内容である。なお、この科目は教科に関する科目「(体)保健体育科の指導方法」「(保)保健科の指導方法」に該当する。</p>
授業計画	4/6-イントロダクション、4/13 -学習指導要領、4/20-子どもの体力問題とその対策、4/27-運動部活動、5/11-生涯スポーツ、5/18-プレゼンテーション・総括の予定である。
授業の方法	学習指導要領・資料・新聞記事・パワポイントなどを用いた講義、ディスカッションを行う。最終日に、各自、当該方法論に関するプレゼンテーション(10分程度)を実施してもらう。
成績評価方法	毎回の授業におけるミニレポートと、プレゼンテーションの質を総合して評価する。テストは実施しない。
教科書	とくになし。
参考書	文部科学省:小学校学習指導要領(体育編)、中学校・高等学校学習指導要領(保健体育編)
履修上の注意・備考	<p>資料一覧(授業の進め方の指示に従い、次の URL からダウンロードすること)</p> <p><a href="https://webfs.adm.u-tokyo.ac.jp/public/3b6YAAxJBsCAA_8B8Zx42NZjGhoNdUTO4Ji0DKec2pNe">https://webfs.adm.u-tokyo.ac.jp/public/3b6YAAxJBsCAA_8B8Zx42NZjGhoNdUTO4Ji0DKec2pNe</a></p> <p>定刻に授業を開始するので遅刻なく出席すること。</p> <p>緊急の場合、下のメールアドレスまたは電話に連絡すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)保健体育科の指導法

時間割コード	09215310	担当教員	佐々木 司		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 5
講義題目	<b>教育の疫学入門</b> Studying Epidemiology in the Field of Education				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>健康教育に関連する疫学の概念・方法論(疫学研究の様々なスタイル、統計の基本的知識を含む)の理解を目的とする。これらの理解は、今後教育学の分野でも evidence-based の科学的実証性が次第に要求されるに従って不可欠のものになると考えられ、また将来社会人や研究者となったときの業務・政策等の立案・理解にも極めて重要である。またこの理解を通じて、世の中にあふれる「科学情報」の中で、信頼できる情報とそうでない情報を区別するポイントについて習得することも目標の1つである。これらの力は、学問の世界のみでなく行政、マスコミ、実業界等で活躍する上でも今後必要不可欠になると考えられる。</p>
<b>授業計画</b>	公衆衛生と疫学研究に関する基礎知識について講義する。
<b>授業の方法</b>	基本的に講義形式で行う。
<b>成績評価方法</b>	期末試験を基本とする。
<b>教科書</b>	中村好一著「基礎から学ぶ、楽しい疫学(第3版)」医学書院
<b>参考書</b>	<p>S.B.Hulley et al. Designing Clinical Research,          4th Edition,          Lippincott,          Williams &amp; Wilkins.(木原雅子、木原雅博訳)「医学的研究のデザイン:研究の質を高める疫学的アプローチ(第3版)」          メディカル・サイエンス・インターナショナル)</p> <p>Kenneth J. Rothman. Epidemiology: An Introduction (2nd Ed). Oxford University Press 2012. (日本語翻訳もあり、授業の最初に紹介する)</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	特になし
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 (体)衛生学及び公衆衛生学

時間割コード	09215311	担当教員	山本 義春 内匠 透		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 2
講義題目	教育の生理学 Educational Physiology				

授業の目的・概要	教育生理学は、教育対象の精神的・身体的機能のうち、教育の受け容れを可能にする諸機能と、それらに対する教育内容・方法・環境等の影響を生理学的に解明することを目的とする。本講義では特に、神経系の構造と機能を学び、運動や学習と記憶等の教育の神経生理学的基盤および睡眠や精神機能の成り立ちとその破綻について理解を深めることを目指す。
授業計画	以下のトピックスに関連する文献を読み、その生理学的背景を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経系の構造と機能(細胞、神経系、薬理)</li> <li>・運動の制御</li> <li>・睡眠と生体リズム</li> <li>・情動</li> <li>・学習と記憶</li> <li>・統合失調症と感情障害</li> <li>・不安障害と発達障害</li> </ul>
授業の方法	文献講読および下記 URL での教材を用いた解説
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小試験による総合評価
教科書	Physiology of Behavior, Neil R. Carlson, 11th edition, Pearson.
参考書	カールソン、神経科学テキスト 脳と行動、第4版、丸善.
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09215312	担当教員	多賀 巖太郎		
単位数	2	学期	S1	時限	月 2, 木 2
講義題目	心と脳の発達 Development of Mind and Brain				

授業の目的・概要	人間の発達は、胚の形態形成にはじまり、胎児や新生児に与えられた遺伝的要因と生得的な能力、自らを変化・発展させる内在的な機構、物理的環境や他者との相互作用により適応・学習していく機構などが複雑にからみあう現象である。本演習では、講義及び受講者による演習、原著論文講読、レポート作成、プレゼンテーションを行い、発達脳科学に関わる基本的概念を学ぶ。
授業計画	<p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の秩序と生命の秩序</li> <li>生命システムの動的複雑性</li> <li>形態形成の神秘</li> <li>脳の発生と発達</li> <li>運動の起源</li> <li>睡眠と意識の発生</li> <li>知覚の発達</li> <li>乳児期の学習</li> <li>言語・認知発達</li> <li>共生</li> </ul> <p>演習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間内のミニレポート</li> <li>指定英語論文の要約提出とプレゼンテーション</li> </ul>
授業の方法	講義、受講者によるプレゼンテーションとディスカッション。
成績評価方法	授業時間内のミニレポート、レポート課題、プレゼンテーション、ディスカッションを総合的に評価する。
教科書	なし
参考書	開講時に参考書リストを配布。
履修上の注意・備考	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)体育心理学に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育心理学

時間割コード	09215313	担当教員	東郷 史治		
単位数	2	学期	A1	時限	火 1, 金 1
講義題目	安全・安心教育 Safety and Security Education				

授業の目的・概要	<p>近年、我が国の交通事故件数や交通事故死亡者数が減少する一方で、自殺率の増加、地球温暖化、原発事故、自然災害、薬物など、子どもの生命や心身の健康などを脅かす身近な危険因子は多様化しつつある。これに対し学校では、交通安全のみならず生活安全と災害安全の領域にわたり、児童生徒等の安全確保の取り組みが進められている。そこで本授業では、医学・生物学・理工学を含む学際的視点から、現在の学校と日常生活全般における安全確保のために必要な主要事項を理解し、生涯を通じて安心・安全な生活を送る基礎を培うとともに、安心な社会づくりに貢献できるような資質や能力を養うことを目標とする。</p>
授業計画	<p>各週の予定項目は以下のとおりである。</p> <p>ガイダンス</p> <p>学校安全(1):安全安心科学</p> <p>学校安全(2):体育・スポーツ活動中の事故</p> <p>学校安全(3):部活動</p> <p>学校安全(4):ピアサポート</p> <p>災害安全(1):自然災害</p> <p>災害安全(2):救命処置</p> <p>現代生活安全(1):精神保健</p> <p>現代生活安全(2):インターネット・情報セキュリティ</p> <p>現代生活安全(3):高齢社会</p> <p>環境安全(1):熱中症</p> <p>環境安全(2):化学物質汚染</p> <p>定期テスト</p>
授業の方法	学生のプレゼンテーションを中心に授業を進める。
成績評価方法	平常点(出席)、プレゼンテーション、試験による総合評価。
教科書	なし
参考書	初回に紹介する
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)(保)学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む)」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09215401	担当教員	岡田 謙介		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 2
講義題目	心理学統計法Ⅱ Psychological Statistics II				

授業の目的・概要	<p>本講義では、心理学統計法Ⅰに引き続き、心理学で用いられる統計手法の基礎、および統計に関する基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>内容としては、統計的推定・検定の考え方からはじめ、その適用場面として平均値差と連関の分析を学ぶ。その後、より発展的な内容への基礎固めとして線形モデルの考え方を導入する。本講義の目標は、受講生が心理統計学の基礎理論について数学的および概念的な理解を確立すること、およびそれを実際の心理学データ分析において適用するための手続きと技術を身につけることである。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学で用いられる統計手法</li> <li>2. 統計に関する基礎的な知識</li> <li>3. 推定と検定</li> <li>4. 推定量とその標準誤差</li> <li>5. 検定力とその利用</li> <li>6. 区間推定</li> <li>7. 独立な2群の平均値差の検定</li> <li>8. 平均値差および効果量の区間推定</li> <li>9. 対応のある2群の平均値差の検定と推定</li> <li>10. 2群の比率の差の検定</li> <li>11. カテゴリ変数間の連関の分析</li> <li>12. 線形モデルの基礎・ベクトル表現</li> <li>13. 平方和および分散の分割</li> <li>14. 独立変数の効果の検定と自由度</li> <li>15. 平均値差への回帰分析的アプローチ</li> </ol>
授業の方法	講義形式で実施する
成績評価方法	授業課題と期末試験により評価する
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009年)
履修上の注意・備考	<p>「心理学統計法Ⅰ」で扱った内容を前提とする。</p> <p>学部横断型プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」の対象科目となる。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2017年度以前開講「心理統計学Ⅱ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09215402	担当教員	宇佐美 慧		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	心理学統計法Ⅲ Psychological Statistics III				

授業の目的・概要	回帰分析・分散分析・因子分析・共分散構造分析の基礎について理解する。
授業計画	<p>下記の事柄を 13 コマで実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部分相関係数と偏相関係数</li> <li>2. 偏回帰係数とその解釈</li> <li>3. 重回帰分析のしくみ</li> <li>4. 平方和の分割と重相関係数の検定</li> <li>5. 個々の独立変数の寄与の評価</li> <li>6. 完全無作為 1 要因デザイン</li> <li>7. 多重比較の考え方</li> <li>8. 完全無作為 2 要因デザイン</li> <li>9. 対応のある 1 要因デザイン</li> <li>10. 共分散分析</li> <li>11. 因子分析の考え方とモデル</li> <li>12. 因子分析のしくみと因子の解釈</li> <li>13. 因子の回転</li> <li>14. 共分散構造と母数の推定</li> <li>15. 共分散構造分析による潜在変数間の関係の分析</li> <li>16. 項目反応理論・階層線形モデルに関する基礎</li> </ol>
授業の方法	講義による。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002 年)
参考書	<p>南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009 年)</p> <p>南風原朝和『臨床心理学をまなぶ7 量的研究法』(東京大学出版会, 2011 年)</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2017 年度以前開講「心理統計学Ⅲ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215403	担当教員			
単位数	2	学期	A2	時限	月 3, 月 4
講義題目	パーソナリティの心理学(感情・人格心理学) Psychology of Personality				

授業の目的・概要	<p>パーソナリティ、認知能力、感情といった心理学的個人差について、その歴史的展開と意義、最新の研究の動向を学ぶ。パーソナリティの類型や特性の把握、パーソナリティおよび感情概念の変遷、パーソナリティおよび感情の形成・発達、感情の生起や行動との関連などに関する知識を身につける。人間の心理学的個人差の研究手法、またそこから得られた研究知見について考察することにより、よりよい人間の理解ができるようになることを目標とする。</p>
授業計画	<p>以下の内容を予定しているが、受講生の状況に応じて内容を入れ替えたり深めたりするなど、臨機応変に対応する。</p> <p>第1回 イントロダクション／人間の個人差を考える</p> <p>第2回 パーソナリティとは何か</p> <p>第3回 人格の類型</p> <p>第4回 人格の特性</p> <p>第5回 5因子モデル</p> <p>第6回 5因子モデルの展開</p> <p>第7回 人格の概念および形成過程</p> <p>第8回 感情に関する理論および感情喚起の機序</p> <p>第9回 感情が行動に及ぼす影響</p> <p>第10回 さまざまな心理特性の相互関連</p> <p>第11回 人格・パーソナリティと現実社会</p> <p>第12回 人間の個人差を把握する意義</p> <p>第13回 教育への応用可能性</p> <p>第14回 人格・パーソナリティの変容</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の方法	講義形式で行われる。
成績評価方法	毎回のレビューシート(50%)および最終試験の成績(50%)による。
教科書	教科書は指定しない。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小塩真司 (2020). 性格とは何か 中央公論新社</li> <li>・小塩真司 (2018). 性格がいい人、悪い人の科学 日本経済新聞出版社</li> <li>・小塩真司 (2014). Progress &amp; Application パーソナリティ心理学 サイエンス社</li> <li>・小塩真司 (2010). はじめて学ぶパーソナリティ心理学-個性をめぐる冒険- ミネルヴァ書房</li> </ul>
履修上の注意・備考	基礎的な部分から講義を行うが、関連科目の履修や参考書籍を参照するなど心理学の基本的な知識を身につけておくことが望ましい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215404	担当教員	嶋田 総太郎		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	身体性・社会性の認知脳科学 Embodied and Social Cognitive Neuroscience				

授業の目的・概要	<p>本講義では、身体性と社会性に関する脳機能についての研究を概観する。特に自己身体認識、運動、社会性認知、コミュニケーション等を実現する脳のメカニズムについて理解を深める。これらを通じて身体性認知と社会性認知が深いレベルで関連しているという視点を会得する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション: 身体性の哲学から</li> <li>2. 自己身体認識(1) 身体保持感の神経基盤</li> <li>3. 自己身体認識(2) 運動主体感の神経基盤</li> <li>4. 自己身体認識(3) 内受容感覚</li> <li>5. 運動を司る脳のネットワーク</li> <li>6. アフォーダンス</li> <li>7. ミラーニューロンシステム(1) 総説</li> <li>8. ミラーニューロンシステム(2) 理論とモデル</li> <li>9. 共感の神経基盤</li> <li>10. 社会性認知と「心の理論」</li> <li>11. コミュニケーション</li> <li>12. 社会的報酬</li> <li>13. 物語的自己とプロジェクション</li> </ol>
授業の方法	講義による
成績評価方法	毎授業にて提出するレポートにより評価する。
教科書	嶋田総太郎『脳のなかの自己と他者－身体性・社会性の認知脳科学と哲学』、共立出版、2019年。
参考書	嶋田総太郎『認知脳科学』、コロナ社、2017年。 他は適宜、授業中に紹介する
履修上の注意・備考	特になし。脳科学についての基本的知識については授業内でも触れるが、必要に応じて各自で予習・復習しておくことが望ましい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215405	担当教員	遠藤 利彦
単位数	2	学期	A1A2
講義題目	社会性と感情の発達心理学(感情・人格心理学) Psychology of human socioemotional development		

授業の目的・概要	<p>近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの社会情緒的側面の発達について概説するとともに、そこに生じる個人差が遺伝と環境のいかなる要因によって規定されるかについて考察を行う。また、人間の社会性を高度に支える種々の感情の発生機序や機能性などに関して、さらに人間のパーソナリティ(人格)の基本的性質・構造およびその形成過程などについても、最新の研究知見に基づきながら概観を行う。</p>
授業計画	<p>具体的には以下のようなテーマについて掘り下げて論じることしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期における社会的知覚(顔・表情・視線・発声などの知覚・理解)</li> <li>・原初的コミュニケーションの起源と発達(言葉を準備する非言語的コミュニケーション)</li> <li>・感情に関する理論及び感情喚起の機序</li> <li>・感情が行動に及ぼす影響(感情の機能性・合理性)</li> <li>・感情および感情制御・感情的知性の起源と発達</li> <li>・自己および自他理解の起源と発達</li> <li>・子どもの心的理解の起源と発達</li> <li>・共感性・道徳性と向社会的行動の起源と発達</li> <li>・子どもの対人関係の起源と発達</li> <li>・社会性に関わる発達上の病理・障害とその支援</li> <li>・社会性発達の進化論的基盤・遺伝的基盤・脳神経学的基盤・環境的基盤</li> <li>・親子関係から alloparenting/allocare へ</li> <li>・パーソナリティ(人格)の概念及び形成過程</li> <li>・パーソナリティ(人格)の類型、特性 etc.</li> </ul>
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	出席状況と試験成績によって評価を行う。
教科書	特に用いない。
参考書	授業時に適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	<p>授業時に紹介する関連文献等に、可能な限り目を通すこと。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2019 年度以前開講「社会性の発達心理学」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215406	担当教員	岡田 猛		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 2
講義題目	創造性の心理学 Psychology of Creativity				

授業の目的・概要	<p>創造性の心理学、特に「創造性への認知的アプローチ」を中心とした心理学・認知科学の研究知見について紹介する。この講義では、研究領域をくまなく概観することを目指すのではなく、芸術創作や科学的発見などに関する研究の具体例を詳細に紹介しながら、その背後にある考え方や方法論を理解できるように心がける。</p> <p>なお、実際に創造活動に携わっている専門家の講演も予定している。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業案内</li> <li>・熟達化</li> <li>・創造性の定義</li> <li>・創造性の概説</li> <li>・科学的発見</li> <li>・妥当性境界</li> <li>・面白い研究とは</li> <li>・芸術創作活動</li> <li>・芸術的インスピレーション</li> <li>・表現支援</li> <li>・ダンス</li> <li>・伝統と創造</li> <li>・創造性評価 等</li> </ul>
授業の方法	<p>基本的には、講義形式の授業である。加えて、参加者間のディスカッションやゲストスピーカーの講演等も計画している。受講生は宿題として、文献を読んで授業に臨むことなどが求められる。</p>
成績評価方法	<p>毎回の授業のレポートの提出と最終レポートにより評価する。</p>
教科書	<p>教科書は特に定めず、授業中に適宜関連文献を紹介する。</p>
参考書	<p>特になし</p>
履修上の注意・備考	<p>オンラインで実施。</p> <p>なお、初回は10月7日です。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215407	担当教員	鈴木 雅之		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	教育評価 Educational Evaluation				

授業の目的・概要	本講義では、教育心理学的観点から教育評価を捉え、教育実践の中でどのように評価を行っていくべきかについて考察する。また、人の様々な特性を測定するという問題について理解を深めるために、教育測定に関する理論についても学ぶ。さらに、教室の中での評価活動にとどまらず、入学試験制度や全国学力テストなどの学力調査に関する話題も取り上げる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育評価とは</li> <li>2. 自己調整学習 1</li> <li>3. 自己調整学習 2</li> <li>4. 指導と学習と評価 1</li> <li>5. 指導と学習と評価 2</li> <li>6. テストデータの分析</li> <li>7. 妥当性と信頼性</li> <li>8. テスト理論</li> <li>9. 教育評価の方法 1</li> <li>10. 教育評価の方法 2</li> <li>11. 教育評価の歴史</li> <li>12. 入学試験制度 1</li> <li>13. 入学試験制度 2</li> </ol>
授業の方法	講義と演習を中心に進める。
成績評価方法	授業への参加状況と期末レポートをもとに総合的に判断する。
教科書	特に指定しない。
参考書	野口裕之・大隅敦子 (2014). テスティングの基礎理論 研究社 佐藤浩一 (編) (2013). 学習の支援と教育評価 北大路書房 田中耕治 (2008). 教育評価 岩波書店 自己調整学習研究会 (編) (2016). 自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術 北大路書房
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215408	担当教員	岡田 裕子		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 6
講義題目	公認心理師に関する法律と制度(関係行政論) Legal and Administrative System of Licensed Psychologists				

授業の目的・概要	公認心理師として知っておくべき法制度について概観することを目的とする。前提として、法律学と心理学の違い、法律を理解するための基本的事項、公認心理師法による業務権限と義務について講義する。本論として、公認心理師の職域である教育、医療、福祉、司法、産業の各領域において、業務遂行する上で知っておくべき法制度、関連法規によって公認心理師に課されている権限と義務に関して講義する。臨床現場の実態に即し、現場で必要とする法知識を身に付けることを目標とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス、公認心理師が法律を学ぶ意義</li> <li>2.法律の基礎</li> <li>3.医療① 一般医療</li> <li>4.医療② 精神医療</li> <li>5.医療③ 地域保健・保険制度</li> <li>6.福祉① 精神障害者福祉</li> <li>7.福祉② 児童福祉</li> <li>8.福祉③ 高齢者福祉</li> <li>9.教育① 基本法</li> <li>10.教育② 発達障害・いじめ・不登校</li> <li>11.司法① 民事法</li> <li>12.司法② 刑事法(医療観察法・犯罪被害者支援法)</li> <li>13.司法③ 少年法</li> <li>14.産業① 労働法</li> <li>15.産業② ハラスメント、障害者雇用</li> </ol> 定期試験
授業の方法	原則として講義形式だが、法律事例などをもとにグループディスカッションを導入する。
成績評価方法	授業後のリアクションペーパーおよび出席30%、学期末の試験またはレポート70%として評価する。
教科書	授業初回で指定する。
参考書	元永拓郎(編)「関係行政論」(遠見書房、2018)
履修上の注意・備考	各回の授業に関連する法規について、各自、法律の条文を入手して授業に臨むこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215409	担当教員	原田 隆之		
単位数	2	学期	A2	時限	集中
講義題目	司法・犯罪心理学 Forensic and Criminal Psychology				

授業の目的・概要	以下の事項について理解を深める。 (1)犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 (2)司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援
授業計画	第1回オリエンテーション, 犯罪・非行心理学を学ぶ意義, 犯罪・非行の概念 第2回刑事司法制度, 刑事法(刑法, 刑事訴訟法, 刑事施設法等)の概要, 各機関の活動(警察, 刑事施設等) 第3回少年司法制度, 少年法(少年法, 少年院法, 少年鑑別所法等)の概要, 各機関の活動(家庭裁判所, 少年鑑別所等), 家事事件 第4回非行・犯罪の原因(1)犯罪原因論, パーソナリティ, 環境 第5回非行・犯罪の原因(2)生物学的要因 第6回司法・犯罪分野における心理学アセスメント(リスクアセスメント, プロファイリング) 第7回司法・犯罪分野における心理学的支援(1)処遇プログラム, 認知行動療法 第8回司法・犯罪分野における心理学的支援(2)被害者支援 第9回エビデンスに基づく司法・犯罪心理学の実践
授業の方法	講義(場合によってはオンライン講義)
成績評価方法	平常点、レポート、期末試験等をもとに総合的に評価する。 それぞれおよそ10点、20点、70点
教科書	入門犯罪心理学 原田隆之 ちくま新書
参考書	犯罪行動の心理学(Bonta & Andrews、原田隆之訳) 北大路書房
履修上の注意・備考	事前に教科書を熟読のうえ、講義に臨んでください。
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09215410	担当教員	武見 ゆかり		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	栄養学概論 Introduction to Human Nutrition				

授業の目的・概要	<p>栄養とは、人間が食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れ代謝して生命活動を続ける営みをいう。人間の健康の維持、増進のためには適切な栄養が必要である。人間は、食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れながら、こうした栄養の営みを行っている。栄養の営みは個人の生活だが、その営みには、職業、収入、ジェンダーなど社会的決定要因の影響が大きい。本講では、人間の栄養の営み及び食生活を、地域社会や環境との関わりも含めてとらえる基礎的知識とその活用方法を学習する。自分を事例として、健康状態やライフスタイルに合わせて、学んだことを実生活で活用する力の修得も目的とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>今この時期(新型コロナウイルス感染症対策の新しい生活様式)だからこそ、自分の食生活を考えてみよう</li> <li>食生活のセルフチェック</li> <li>何をどのくらい食べたらよいか:食事バランスガイドの理解と活用</li> <li>何をどのくらい、いつ食べたらよいか(時間栄養学の知見から)</li> <li>栄養素の機能と代謝① 炭水化物(糖質, 食物繊維)</li> <li>栄養素の機能と代謝② たんぱく質</li> <li>栄養素の機能と代謝③ 脂質</li> <li>栄養素の機能と代謝④ ビタミン, ミネラル, 水分</li> <li>どの栄養素をどのくらい摂取したらよいか:食事摂取基準</li> <li>スポーツと栄養</li> <li>社会的決定要因と生活習慣病・食生活:国民健康・栄養調査結果を中心に</li> <li>農業政策と栄養政策, 「健康な食事」実現のための食環境整備</li> <li>世界の健康・栄養対策の動向:健康を超えて, 地球環境を考慮した持続可能性の重視</li> <li>健康・栄養情報の読み解き方:ヘルスリテラシーを高めよう</li> <li>試験(対面が可能ならば)またはレポート</li> </ol>
授業の方法	原則オンライン講義形式。一部自分で演習を実施し、提出物を求める。
成績評価方法	最終回に試験(持込不可)(60%)、および提出物の内容(40%)を合わせて総合的に評価
教科書	必要資料は随時配布。参考図書を紹介。
参考書	香川靖雄「やさしい栄養学」(女子栄養大学出版部) 上西一弘「食品成分最新ガイド 栄養素の通になる」(女子栄養大学出版部) 武見ゆかり・吉池信男編「食事バランスガイドを活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版」(第一出版)
履修上の注意・備考	開講中に数回、授業内容に関するコメントなどの提出を求めらるので、それに適宜対応すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215411	担当教員	佐々木 司 山本 義春 東郷 史治
単位数	2	学期	A1A2
		時限	火 5
講義題目	ストレス・マネジメント概論 (健康・医療心理学) Introduction to Stress-Management		

授業の目的・概要	<p>生活上のさまざまな課題、あるいは心理・社会・生物学的ストレスに出会うことは誰もが避けて通れないことである。本講義では、そのような課題やストレスに対処し、それを克服するためのスキルと身体基盤の獲得・向上に必要な知識の習得を目的とする。特に大学生活、あるいは卒業後の生活における課題、ストレスへの対処力向上を、将来の市民的エリートに必要とされる相互扶助精神の涵養とともに図ることを目標とする。この講義で得られた知識やスキルをもとに、受講者自身の健康増進と維持、生活の充実をはかるとともに、自分の周囲の人々、社会全体の幸福の実現、相互の扶助に貢献できる人材として各学生が成長することを期待する。学部・大学院を問わず、また教育学部のみでなく、全学の学部・研究科学生の履修を歓迎する(単位認定については各学部・研究科の規定による)。なお、公認心理師が理解しておくべき、ストレスと病気との関係、医療現場や災害時に必要な心理社会的支援、ならびに保健活動における心理社会的課題とその支援についても学べる内容となっている。</p>
授業計画	<p>講義は毎回オムニバス形式で設定されたテーマごとに、教育学部心身発達専修ならびに本学の相談支援研究開発センターの各教員が授業を行う。各回の講義テーマは、オリエンテーションおよび相談機関の紹介、学習の動機付け、生活リズムと心身の健康、不安とつきあう、メンタルヘルス、ストレスと心理的課題、親密な人間関係の発達・発展(家族療法コミュニケーションの知見から)、ハラスメントについて、社会人生活とメンタルヘルス、身体運動とメンタルヘルス、キャリアについて考える、また、ストレスと心身の疾病との関連、医療現場における心理社会的課題および必要な支援、保健活動が行われている現場における心理社会的課題をよび必要な支援、災害時などに必要な心理に関する支援などについて予定している。</p>
授業の方法	<p>基本的には講義形式で行うが、各回で若干異なる</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義で課すレポート(テスト形式の場合もある)で行う。毎回講義の最後に記述してもらい提出する。このレポート(テスト)提出は出席の確認も兼ねる</p>
教科書	<p>特に指定なし</p>
参考書	<p>特に指定なし</p>
履修上の注意・備考	<p>常識的なことと言うまでもないことだが、レポート(テスト)提出は各自一人分を提出すること。複数人のレポートを1人が提出することは、公正な採点を行う必要があるため、認めない。遅刻や途中退出の場合も当然ながらレポート提出は認められない。(不正行為には zero-tolerance policy で厳しく対処するので注意されたい)</p> <p>本科目の単位は、相談支援研究開発センターでのピアサポート活動に参加する「ピアサポーター」資格取得のための単位の1つともなる。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2020 年度以前開講「ストレス・マネジメント概論」と基本的に同一科目のため、既に単位を取得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健</p>

時間割コード	09215412	担当教員	森田 賢治		
単位数	2	学期	A2	時限	集中
講義題目	脳科学特論 Functions and dysfunctions of the brain				

授業の目的・概要	<p>This lecture gives an introduction to modern systems, cognitive, and computational neuroscience on the brain functions and dysfunctions. Planned contents include: activity dynamics of neurons and neural circuits, computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making (especially focusing on value learning and value-based decision making), and computational approaches to neuropsychiatric disorders.</p>
授業計画	<p>The currently planned order is as follows, though this can be changed:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- activity dynamics of neurons and neural circuits</li> <li>- computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making</li> <li>- computational approaches to neuropsychiatric disorders</li> </ul>
授業の方法	lecture
成績評価方法	attendance and report
教科書	none
参考書	will be announced in the lecture
履修上の注意・備考	<p>We welcome motivated students from any departments (undergraduate or graduate)</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)</p> <p><a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09215413	担当教員	小国 喜弘 野崎 大地 熊谷 晋一郎 近藤 武夫 東郷 史治 仁平 典宏 能智 正博 星加 良司		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	<p>人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自身が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。</p>
授業計画	<p>(以下は現時点での予定である。順番が入れ替わることがある)</p> <p>第一回 オリエンテーション          &lt;教育における「バリア」&gt;</p> <p>第二回 教育のバリアフリーとICT 利用(近藤先生)4月16日</p> <p>第三回 学校というバリア(小国)4月23日</p> <p>第四回 学校組織における包摂と排除(二羽先生)4月30日          &lt;身体機能を通してみる「バリア」&gt;</p> <p>第五回 現代の暮らしを支える社会環境と心身の健康(東郷先生)5月7日</p> <p>第六回 脳の障害によって生じるバリア(野崎先生)5月21日          &lt;ゲスト講義&gt;</p> <p>第七回 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合先生(野崎先生))5月28日          &lt;語り／言葉をめぐる「バリア」&gt;</p> <p>第八回 当事者研究の可能性(熊谷先生)6月4日</p> <p>第九回 障害者の語り(能智先生)6月11日</p> <p>第十回 「見えない障害」とカミングアウト(飯野先生)6月18日          &lt;社会のひずみとしての「バリア」&gt;</p> <p>第十一回 移民の子どもから考える日本社会のバリア(額賀先生)6月25日</p> <p>第十二回 社会現象としての「障害」(星加先生)7月2日</p> <p>第十三回 「バリア」の認識論(星加先生)7月9日</p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。</p> <p>zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の 10 分に、google classroom を用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば 30 字以内)は、0 点とすることがあります。およそ 200 字前後を目安とし</p>

	て、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内にお願いします。
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoom の参加 URL については、現在のところ、この講義に固定された URL となっておりますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。</p> <p>インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。その場合は、下記のアドレスにご連絡ください。また通信環境が整わない方は、整った段階でお知らせください。</p> <p>バリアフリー教育開発研究センター バリア・スタディーズ担当 utbarrier.studies@gmail.com</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09216101	担当教員	清河 幸子
単位数	2	学期	S1S2
		時限	金 4
講義題目	教授・学習心理学概論 (教育・学校心理学) Psychology of Learning and Instruction		

授業の目的・概要	教育現場において生じる問題及びその背景, 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援に関して理解することを目標とする。本授業では, 特に, 教授・学習に関して扱う。具体的には学習が成立するメカニズムや学習を支える要因, 効果的な教授法についての基礎知識を獲得するとともに, 受講者自身にとっての「教授・学習」の経験について振り返り, 改善することを目標とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「学習」とは?</li> <li>2. 記憶のしくみ</li> <li>3. 記憶の種類</li> <li>4. 「概念」とは?</li> <li>5. 概念の獲得・概念変化</li> <li>6. 読みの学習: 文章理解</li> <li>7. 書きの学習: 作文</li> <li>8. 動機づけ</li> <li>9. メタ認知</li> <li>10. 説明による学習</li> <li>11. 発見・探究による学習</li> <li>12. 協同による学習</li> <li>13. まとめ</li> </ol>
授業の方法	講義形式を中心に進めていくが, 適宜, 小グループでの討論を行う。また, トピックに関連した実験や質問紙調査を実施し, 体験的に学ぶ機会を提供する。
成績評価方法	課題(50%)および理解確認テスト(50%)により評価する。
教科書	指定しない。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	<p>課題は毎回の授業時に出题する。理解確認テストは学期末に1回実施する。</p> <p>2020 年度以前開講の「教授・学習心理学概論」と同一科目のため, 既に単位を修得している場合は本科目を履修出来ない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09216102	担当教員	針生 悦子		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 4
講義題目	発達心理学 Developmental Psychology				

授業の目的・概要	<p>ことばを話す, 問題をうまく解決する, 他者の気持ちを理解する, など, おとなになればたいいていできるようになっていることが「できない」(ようみ見える)状態で, 子どもは生まれてくる。その発達のプロセスとはどのようなもので, そのプロセスを支え, また, そのプロセスに影響を及ぼしているのはどのような要因か, さらに, それらの能力や特性が生涯を通じてどのように変化していくのかについて考察していく。</p>
授業計画	<p>以下の内容をカバーする予定である。</p> <p>①認知機能の発達および感情・社会性の発達</p> <p>②自己と他者の関係のあり方と心理的発達</p> <p>③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達</p> <p>④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識および考え方</p> <p>⑤高齢者の心理</p>
授業の方法	講義形式。
成績評価方法	授業初回到説明する。
教科書	授業内で適宜、紹介する。
参考書	授業内で適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	授業初回到説明する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09216201	担当教員	コース全教員		
単位数	4	学期	S1S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	<b>教育心理学実験演習Ⅱ</b> (心理学実験) Experiments in Educational Psychology II				

<b>授業の目的・概要</b>	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
<b>授業計画</b>	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、面接法、性格検査、発達検査、知能検査、調査(質問紙)データの解析、認知心理学実験などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(学校、老人ホーム)の見学も行っていく。
<b>授業の方法</b>	実習、見学
<b>成績評価方法</b>	レポート
<b>教科書</b>	必要に応じて授業中に指示する
<b>参考書</b>	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。</p> <p>2019年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅱ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。</p> <p>公認心理師カリキュラムにおける学部科目の1つである。</p> <p>掲載されているオンライン URL は初回のものである。2 週め以降については、初回授業内での指示にしたがって URL にアクセスすること。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	



時間割コード	09216202	担当教員	コース全教員		
単位数	4	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	<b>教育心理学実験演習Ⅲ</b> (心理学実験) Experiments in Educational Psychology III				

<b>授業の目的・概要</b>	具体的な研究テーマのもと、研究の計画からデータの収集と解析、考察、報告書の作成にいたる、一連の研究活動にかかわり、心理学研究の実際を理解する。
<b>授業計画</b>	1学期を、前半と後半、2つのタームに分け、それぞれのタームにおいて1つずつ、研究活動をおこなう。テーマは、教員や大学院生の提案する研究テーマの中から、各自の興味関心にしたがって選択する。
<b>授業の方法</b>	グループ実習
<b>成績評価方法</b>	研究活動、レポート
<b>教科書</b>	必要に応じて授業中に指示する
<b>参考書</b>	必要に応じて授業中に指示する
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。「教育心理学実験演習Ⅰ」「教育心理学実験演習Ⅱ」とともに、実質的に、教育心理学コースの必修科目である。ほかの実験演習に比べると、参加者自身が、研究に積極的に関わっていける余地が大きく、コースの科目では模擬卒業論文のような位置づけとなっている。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2018 年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅲ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09216501	担当教員	コース全教員		
単位数	2	学期	通年	時限	火 5
講義題目	教育心理学研究指導 Guided Research in Educational Psychology				

授業の目的・概要	学位論文作成の指導を行います
授業計画	個別指導と、コース教員参加の発表会。
授業の方法	個別あるいは集団で行います
成績評価方法	参加を持って行います
教科書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
参考書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
履修上の注意・備考	主体的な参加が前提です
教育職員免許法上の認定科目	

## 心身発達科学専修 身体教育学コース

時間割コード	09217201	担当教員	野崎 大地 東郷 史治 岸 哲史		
単位数	3	学期	S1	時限	木 3, 木 4
講義題目	身体教育学演習 I Laboratory in Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。 ガイダンス、レポート作成、文献調査の仕方 AD 変換器の使い方(握力データの PC への取り込み) 表計算ソフトの使い方、簡単なデータ処理(統計処理も含む) 筋の電気的活動(筋電図)の測定 解析用アプリケーション(Matlab)の使い方 身体パワーの測定 運動学習能力の測定
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09217202	担当教員	野崎 大地 東郷 史治 岸 哲史		
単位数	3	学期	S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	身体教育学演習Ⅱ Laboratory in Physical and Health Education II				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく(身体教育学実験演習Ⅰに準じて行う)。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。 経頭蓋磁気刺激による脳機能の測定 脊髄反射の測定 歩行運動の測定 心拍と血圧の測定 日常生活下での気分と体調の記録・分析 アンケート調査
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)、レポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09217203	担当教員	野崎 大地 東郷 史治 岸 哲史		
単位数	2	学期	A1	時限	木 3, 木 4
講義題目	身体教育学演習Ⅲ Laboratory in Physical and Health Education III				

授業の目的・概要	<p>身体教育学演習Ⅰ、</p> <p>Ⅱで得た知識をもとに、研究計画、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまでの一連の流れを体験する「プロジェクト研究」を行い、一連の研究遂行の流れをつかんでもらう。</p>
授業計画	<p>2、</p> <p>3人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまで行う「プロジェクト研究」を実施する。</p>
授業の方法	<p>・2、</p> <p>3人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションを行ってもらう。</p> <p>・毎週、進捗状況を報告する。</p> <p>・最終週に、コース教員、大学院生も出席する発表会で研究内容のプレゼンテーションを行う。</p>
成績評価方法	平常点(出席)、プロジェクト研究による総合評価。
教科書	教科書は指定しない。
参考書	参考書は指定しない。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09217204	担当教員	野崎 大地 東郷 史治		
単位数	2	学期	S2	時限	集中
講義題目	<b>運動指導方法</b> <b>(夏季野外種目)</b> Seminar in Teaching Methodology of Human Movement (Outdoor Activity in Summer)				

授業の目的・概要	<p>野外生活を経験することにより、自然環境の理解を促し、共生の方法を学ぶ一方で、安全かつ効果的な野外活動の指導方法を学ぶ。これと並行して球技、水泳、登山の実習を行い、体育実技指導において必要な指導方法の習得を目指す。</p>
授業計画	<p>2021年度は7月下旬に3泊4日で実施予定(費用は個人負担)。  ガイダンスを6月中旬、事前打ち合わせを7月中旬に行う。  日程は決まり次第掲示する。</p>
授業の方法	集中講義の形式で、夏季キャンプ実習を行う。
成績評価方法	出席および平常点。
教科書	使用しない。
参考書	使用しない。
履修上の注意・備考	<p>この科目は教科に関する科目「(体)体育実技」に該当する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと  学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)を参照  <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育実技

時間割コード	09217501	担当教員	全教員		
単位数	2	学 期	通年	時 限	火 5
講義題目	身体教育学研究指導 Tutorial in Physical and Health Education				

授業の目的・概要	卒業論文作成のためのテーマ設定、研究計画の立て方、先行研究の探索、研究手法、論文執筆の方法、卒論発表会でのプレゼンテーションの方法と内容について、本コース各研究分野(身体教育科学、教育生理学、発達脳科学、健康教育学)の全教員による助言・指導の機会と場を持つ。
授業計画	卒業論文の計画書を作成し、本コースの全教員からその内容に対する助言・指導を受ける。
授業の方法	随時検討会を開催する。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	本年度に卒業論文を執筆し提出する予定の4年次を対象とする。
教育職員免許法上の認定科目	

教養学部 第2学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目

時間割コード	09218001	担当教員	コース全教員		
単位数	2	学期	A1	時限	金 5, 金 6
講義題目	基礎教育学概論 Introduction to Basic Theories of Education				

授業の目的・概要	<p>基礎教育学は人文・社会科学的なテキスト解釈の方法によって教育現実に接近しようとする領域であり、教育哲学、教育史、教育人間学、教育臨床学などの分野を含んで教育学の基礎的領域を構成している。</p> <p>この概論では、教育哲学・教育史・教育人間学・教育臨床学の分野を中心として、教育と教育学の基礎的・基本的問題についての概観を与えるとともに、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想についての理解を深める。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 教育人間学(1)教育基本法における教育の目的・目標及び理念(片山)</li> <li>3. 教育人間学(2)現代社会における道徳教育とシティズンシップ(市民性)教育の役割と限界(片山)</li> <li>4. 教育臨床学(1)教育学・教育臨床学の基本的概念と教育の本質(田中)</li> <li>5. 教育臨床学(2)「固有性」と「関係性」をめぐる教育思想(田中)</li> <li>6. 教育史(1)家族と社会による教育の歴史と近代教育制度の成立と展開(小国)</li> <li>7. 教育史(2)現代社会における教育課題—歴史的な視点から(小国)</li> <li>8. 教育哲学(教育思想論)(1)学校や学習に関わる教育の思想(山名)</li> <li>9. 教育哲学(教育思想論)(2)代表的な教育家の思想(山名)</li> <li>10. 教育人間学(3)ハンナ・アレントと教育の公共性に関する思想(小玉)</li> <li>11. 教育人間学(4)「同胞愛と友愛」とシティズンシップの教育思想(小玉)</li> <li>12. 教育臨床学(3)家庭や子供に関わる教育の思想(大塚)</li> <li>13. 教育臨床学(4)教育を成り立たせる要素としての子供・教育・家族・学校とそれらの相互関係(大塚)</li> <li>14. ディスカッション</li> <li>15. 質疑応答</li> </ol> <p>筆記試験</p>
授業の方法	講義による。それぞれ教員が、各自の専門領域と問題意識に基づき、現代教育学についての重要なトピックをとりあげて解説する。
成績評価方法	各担当教員による試験と、授業での平常点を総合する形で評価する。
教科書	講義において指示する。
参考書	講義において指示する。
履修上の注意・備考	基礎教育学コースの概観を与える基礎的科目にあたるため、コース所属の学生はできる限り受講することが望ましい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照 ※A 参照



時間割コード	09218002	担当教員	山辺 恵理子		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	Philosophical Issues in Education				
	Philosophical Issues in Education				

授業の目的・概要	<p>COURSE OBJECTIVES</p> <p>The aim of this course is to deepen students' understandings on education through philosophical dialogues on ethical and controversial issues in education.</p> <p>Abilities 1) to pose philosophical questions,</p> <p>2) to think logically and critically,</p> <p>3) to listen to counterarguments and to take them into serious account,</p> <p>4) to reflect on one's own conceptions, perceptions, and assumptions and at times reshape or even abandon them, and 5) to read and write philosophical papers, are essential to philosophical dialogues, and thus will be developed and assessed in this course.</p>
授業計画	<p>COURSE OUTLINE (TENTATIVE)</p> <p>1.Introduction: What is philosophy, ethics, and education?</p> <p>2.What defines a "child"?: Inquiry with Philippe Ariès</p> <p>3.What defines a "man"?: Inquiry with Immanuel Kant</p> <p>4.What makes a "child" an "adult"?: Multiple purposes of education</p> <p>5.What happens in between childhood and adulthood?: Redefining education</p> <p>6.What are the co-relations between education, teaching, and learning?</p> <p>7.What makes a good teacher?: Inquiry with Jacques Rancière</p> <p>8.What makes a good teacher?: Inquiry with Paulo Freire</p> <p>9.Rethinking children's rights and abilities for political participation</p> <p>10.Does education build or burn bridges between different groups?</p> <p>11.Students' Presentation and Facilitation #1: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument.</p> <p>12.Students' Presentation and Facilitation #2: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument.</p> <p>13.Students' Presentation and Facilitation #3: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument.</p> <p>14.Students' Presentation and Facilitation #4: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject,</p>

	<p>then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument.</p> <p>15.Reflection and Final Discussions</p>
<b>授業の方法</b>	<p>COURSE REQUIREMENTS AND POLICIES</p> <p>All classes will be conducted in English. Students are required to read assigned papers before class, and be well prepared to participate in class discussions. Active participation is essential throughout the course.</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>GRADING CRITERIA</p> <p>Class participation30%</p> <p>Presentation and in-class discussions30%</p> <p>Final essay40%</p>
<b>教科書</b>	<p>None. Reading assignments will be announced or handed out in class.</p>
<b>参考書</b>	<p>Ariès, P. (1965). Centuries of Childhood: A Social History of Family Life. Oxford, England: Vintage Books.</p> <p>Biesta, J. J. G. (2010). Good Education in an Age of Measurement: Ethics, Politics, Democracy. Paradigm Publishers.</p> <p>Freire, P. (1996). Pedagogy of the Oppressed. Penguin. [Originally published in Portuguese in 1968]</p> <p>Kant, I. (1803) Lectures on Pedagogy. IN (2011). Anthropology, History, and Education (The Cambridge Edition of the Works of Immanuel Kant). Cambridge University Press.</p> <p>Martin, J. R. (1987). Reclaiming a Conversation: The Ideal of Educated Woman. Yale University Press.</p> <p>Rancière, J. (1991). The Ignorant Schoolmaster: five lessons in intellectual emancipation. Stanford University Press.</p> <p>Stanford, J. A. (1996). Responding to Literature (2nd. Ed.), Mayfield Publishing Company.</p> <p>and other papers will be mentioned and/or handed out in class.</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>No prior experience or learning is necessary to take this course.</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09218003	担当教員	西島 央		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 2
講義題目	学校はデータでどう描けるか How to Describe Schools: Research Methodology on Schooling				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>学校は、現代日本社会において重要な役割を担っています。それゆえに、社会的な問題にもなりやすく、学校にかかわるできごとが新聞やテレビで取り上げられない日はないと言っても過言ではありません。しかし、学校にかかわるできごとは、自分や身近な人の体験などをもとに主観的に語られることが多く、客観的なデータに基づく検証が十分なされないまま、社会問題化してしまうこともしばしばです。</p> <p>学校について学術的に分析する際はもちろんのこと、政策課題として検討するときや、教員として、または保護者や地域の人間として学校に関わる時も、主観が先行して議論が錯綜したり迷走したりしないためには、データに基づいて客観的に学校を理解していることが望ましいでしょう。しかし、どんなデータであれ、一つのデータで学校を丸ごと描くことはできません。どのようにデータを作成し、どのようにそのデータを読むかで、描ける学校は変わってきます。</p> <p>この講義では、学校について論じたいテーマに適したデータはどのようなものか、そのデータをどのように読めばよいかということについて、「蒐集」「分類」「比較」という3つの手続きに注目しながら考えていきます。具体的には、学校制度の全体的状況、学校段階、学校内のいろいろな場面など、学校を多面的に捉えながら、データによって語る技法や注意点について学習します。講義を通して、データから学校を想像する力や、学校についてデータを使いながら考える力を身につけていくことを目的とします。</p> <p>なお、この講義は、社会調査士資格取得のための「【 C 】 基本的な資料とデータの分析に関する科目」に該当しています。</p>
<b>授業計画</b>	<p><b>第1回 イン트로ダクション</b></p> <p>データや資料に基づく検証のしかたについて、データをつくり(「蒐集」、データをまとめ(「分類」、データを読む(「比較」)手続きを説明する。</p> <p><b>第2回 カリキュラムから描く</b></p> <p>統計資料や学校文書等を、単純集計や度数分布等の形で整理して、日本の学校制度やカリキュラムの特徴について説明する。</p> <p><b>第3回 人数から描く</b></p> <p>官庁統計資料等を、度数分布や代表値を用いてグラフに整理して、学校規模や進学率等から捉えられる日本の学校の実態の特徴について説明する。</p> <p><b>第4回 教育費から描く</b></p> <p>官庁統計資料等を、度数分布や代表値を用いて整理して、学校教育に関わる教育費の特徴について説明する。</p> <p><b>第5回 対象からデータを「蒐集」「分類」「比較」する</b></p> <p>受講者間で模擬調査を行って、そのデータを使いながら、代表値の算出とクロス分析の手続きを実際にやってみる。</p> <p><b>第6回 学習の様子や学力から描く</b></p> <p>調査報告等のデータを、代表値やクロス集計等を用いて整理して、因果関係・相関関係・擬似相関などを読み解きながら、児童・生徒の学習のようすや学力の特徴について説明する。</p> <p><b>第7回 教師から描く</b></p> <p>調査報告等のデータを、代表値やクロス集計、回帰分析等を用いて整理して、相関係数から相関の強さを読み解きながら、日本の教師の特徴について説明する。</p> <p><b>第8回 授業場面から描く</b></p> <p>フィールドワーク論文の資料等を用いて、観察やインタビュー等の質的データをどのようにまとめているかを読み解きながら、日本の学校の授業場面の特征について説明する。</p>

	<p>第9回 特別活動、部活動から描く 調査報告やフィールドワーク論文のデータや資料等を用いて、特別活動と部活動の特徴について説明する。</p> <p>第10回 学校建築、教具から描く 歴史研究論文の資料等を用いて、ドキュメント資料をどのようにまとめているかを読み解きながら、日本の学校の施設・設備の特徴について説明する。</p> <p>第11回 学校の規模、立地から描く 既存統計資料や調査報告等のデータを、代表値やクロス集計等を用いて整理して、学校規模や学校の立地する自治体の人口規模の違いが学校教育活動に及ぼす影響について説明する。</p> <p>第12回 教育の国際化から描く 官庁統計やフィールドワーク論文のデータや資料等を用いて、量的データと質的データがそれぞれ対象をどう描き出しているかを読み解きながら、日本における教育の国際化がどのような状況にあるのかについて説明する。</p> <p>第13回 まとめ さまざまなデータの「蒐集」「分類」「比較」という3つの手続きについて再確認しながら、学校を描くにあたりどのようなテーマにはどのようなデータを用いるのが適切かを説明する。</p>
<b>授業の方法</b>	<p>基礎的な資料とデータの分析に関する講義と、模擬調査のためのアンケートを作成し、そのデータを集計・分析する演習作業を行います。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>(1) 模擬調査の小レポート(50%) (2) 最終レポート(50%)</p>
<b>教科書</b>	<p>教科書は使用しません。 基本的に、毎回プリントを配布します。</p>
<b>参考書</b>	<p>藤田武志・西島央 2020 『教育調査の基礎』(放送大学教育振興会) 北川由紀彦・山口恵子 2019 『社会調査の基礎』(放送大学教育振興会) 安藤明之 2021 『第3版 初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析』(日本評論社) 盛山和夫 2004 『社会調査法入門』(有斐閣ブックス) 佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法』(新曜社) 佐藤郁哉 2015 『社会調査の考え方』(上・下)(東京大学出版会) 地方史研究協議会 2019 『学校資料の未来』(岩田書院)</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>履修のための予備知識その他の条件はありません。 授業時間外の作業が多少あります。 社会調査士資格の取得をめざす学生は、受講するようにしてください。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学</p>

時間割コード	09218004	担当教員	藤江 康彦、浅井 幸子、草薨 佳奈子		
単位数	2	学期	A2	時限	月 3, 月 4
講義題目	学校教育学概論 An Introduction to Study on School Education				

授業の目的・概要	<p>私たちが「教育」を考える際、まず真っ先に思い浮かべるのは「学校」である。しかしながら、「学校教育」は、国や社会の中での一つの制度にすぎない。その制度はいかなる力によって動いているのか、そのなかでどのような教育実践がなされているのかを多様な側面から外観し、考察をしていきたい。この授業においては、とくに学校教育の歴史、世界やグローバル社会との関係における学校、教職と教員育成、教科教育という4つの柱を立て、それぞれの視点から「学校」を分析する。</p>
授業計画	<p>第1回 学校教育を考える視点</p> <p>第2回 学校における子どもの経験と教師の経験</p> <p>第3回 学校教育の特徴</p> <p>第4回 学校を構成しているヒト・モノ・コト</p> <p>第5回 世界の教育改革と国際学力調査</p> <p>第6回 日本型教育モデルと海外のレッスンスタディ(授業研究)実践</p> <p>第7回 世界の市民性教育と非認知能力の育成</p> <p>第8回 日本型学校教育の特徴と海外での Tokkatsu(特別活動)実践</p> <p>第9回 日本の授業研究の歴史</p> <p>第10回 新教育における授業研究の転換</p> <p>第11回 学校を基盤とする授業研究</p> <p>第12回 現代の学校改革</p> <p>第13回 まとめ</p>
授業の方法	<p>授業の方法: 第1回は全体でガイダンスを行う。第2回以降は、3名の担当者がオムニバス形式で、それぞれの専門の立場から学校教育について概論的な講義を行う。さらに映像や画像、文献、資料などを用い、個々の事例や実践例に即して学校教育の問題を具体的に議論する。</p>
成績評価方法	<p>成績評価方法: 授業への参加状況とレポートによって総合的に評価する。</p>
教科書	<p>必要に応じて授業中に指示する。</p>
参考書	<p>必要に応じて授業中に指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>配布された資料や教材を熟読し、問題意識を持って授業に臨むこと。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09218005	担当教員	勝野 正章 村上 祐介		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 2
講義題目	教育行財政学 Educational Administration and Educational Finance				

授業の目的・概要	教育行財政学並びに教育(学校)経営学の基本事項について、現代の改革や国際比較の視点を交えながら学び理解を深めることを目標とする。前半を村上が、後半を勝野が担当する。この科目は教職課程における「教科に関する科目」(社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)である。
授業計画	以下のような事項・内容を扱う。※変更することがある 教育行財政分野(村上担当) 教育行政の範囲と展開、国の教育行政制度、自治体の教育行政制度、教育行政における国と自治体の関係、教育費と教育財政、教育課程と教職員に関する制度 教育経営・学校経営分野(勝野担当) 教育における平等(アファーマティブ・アクション論)、「効果のある学校」研究、学校組織の特徴、教員評価、学校と保護者・地域の連携(ソーシャルキャピタル論)
授業の方法	講義を中心とし、内容について討議を行いながら授業を進める。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	特になし。
参考書	勝野正章・村上祐介編著(2020)『新訂 教育行政と学校経営』(放送大学教育振興会) 村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』(有斐閣) 勝野正章・藤本典裕編著(2015)『教育行政学(改訂新版)』(学文社) 青木栄一・川上泰彦編著(2019)『教育の政治・行政・経営』(放送大学教育振興会)
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)経済学 (公)経済学(国際経済を含む)

時間割コード	09218006	担当教員	李 正連		
単位数	2	学 期	A1	時 限	月 3, 月 4
講義題目	社会教育論 I Theories of Adult Education I				

授業の目的・概要	近年、科学技術の発達や情報化、グローバル化、少子高齢化等の急激な社会の変容が進む中、学校教育万能の時代は過ぎ去り、生涯学習の必要性が世界的な高まりを見せつつある。そこで、この講義では、社会教育・生涯学習の概念及び原理を概観して、理解するとともに、日本及び世界諸国における社会教育・生涯学習の動向を検討することによって、社会教育・生涯学習の意義、さらに今後の社会・生涯教育のあり方について考えることを目的とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会教育・生涯学習とは何か</li> <li>2. 社会教育の歴史的理解</li> <li>3. 生涯学習理念の登場背景及び主要な生涯学習論</li> <li>4. 生涯学習の国際的動向①: 欧米の動向を中心に</li> <li>5. 生涯学習の国際的動向②: アジアの動向を中心に</li> <li>6. 社会教育・生涯学習の法制及び主要政策</li> <li>7. 社会教育施設・職員</li> <li>8. 学校教育と社会教育・生涯学習</li> <li>9. 社会的弱者と社会教育・生涯学習①</li> <li>10. 社会的弱者と社会教育・生涯学習②</li> <li>11. まちづくりと社会教育・生涯学習</li> <li>12. 参画型社会と市民の学び</li> <li>13. 期末試験</li> </ol>
授業の方法	基本的に講義形式とするが、授業中ワーキングペーパーを書いてもらう。
成績評価方法	授業中のワーキングペーパー30%、期末試験 70%
教科書	なし
参考書	授業中随時提示する。
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教科又は教職に関する科目(旧) 大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09218007	担当教員	影浦 峯		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 4
講義題目	情報・資料分析論演習 Seminar in the Analysis of Information and Documents				

授業の目的・概要	<p>標準的な統計学や調査法演習の一手手前(といっても内容的に手前なのではなく認識の問題を扱うという意味で)として、データのかたちと形式化、図示、データの背後に世界を想定するとはどういうことか、それに対してどのようなデータをどのように捉えることができるか、を学びます。標準的な統計の用語では、記述統計・探索的データ解析・推測統計の基本的枠組みを理解するところまでをカバーします。実習には、フリーの先端的統計解析・データ解析ソフトであるR(アール)を用います。データのかたちを把握し、そこから解釈の枠組みへと思考実験的に遡ること、その解釈の枠組みに従ってデータを取扱い処理すること、の2方向へと話を展開します。量的な分析としては、統計分析の基本をデータのかたちを中心に考えることとなります。特に何ということもありませんが、授業は英語でやる予定です。</p>
授業計画	<p>第1回:導入・データのかたち 第2回:表のかたち、表のバリエーション、グラフのバリエーション、用語、統計の大枠 第3回:量的データの分類とデータの整理、位置の尺度とちらばりの尺度 第4回～第6回:一変量データの分析(1) 図示とRの使い方 第7回～第9回:一変量データの分析(2) 区間推定の考え方とRの使い方 第10回～第12回:一変量データの分析(3) 仮説検定と分散分析 第13回:二変量・多変量・マルチウェイデータ 第14回:再び、データのかたち 第15回:再び、解釈の枠組みについて</p>
授業の方法	説明と議論・実習・課題を組合せて進めます。
成績評価方法	成績は、主に(1)については課題の遂行により、(2)については小テストと授業への参加度により評価します。
教科書	使いません。
参考書	<p>直接授業には関係しませんが、並行して新井紀子『数学は言葉』(東京図書)を推奨します。</p> <p>(2)に関連する参考図書として南風原朝和『心理統計学の基礎』(有斐閣)、ホーエル『初等統計学』培風館、柳井晴夫他『やさしい統計入門』(講談社ブルーバックス)などがあります。好みに応じて手元に置いておくとよいでしょう。英語ではホーエルの原書および Verzani Using R for Introductory Statistics. Chapman &amp; Hall.が授業との関係ではお勧めです。中級まで進みたい場合 DeGroot &amp; Schervish Probability and Statistics. Addison Wesley.がよいでしょう。Rを用いた入門書として日本語では山田ほか『Rによるやさしい統計学』(オーム社)をお勧めします。</p>
履修上の注意・備考	<p>実習でコンピュータを使います。</p> <p>駒場の情報基盤センターで行います。特に何ということはありませんが、講義とやりとりは基本的に英語で行います。ただし、状況に応じて、日本語に切り替えます。卒業時までには英語で高等教育レベルの議論ができるようになるというのは当然のことで、その「あたりまえさ」を踏まえて英語で行いますが、別に昨今のあまり何も考えていない空疎な「英語化」の流れに与するのは教育に従事する者として無責任なので、このような扱いにします。</p>
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09218008	担当教員	影浦 峯		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 5
講義題目	教育研究調査法演習 Seminar on the Basics of Educational Research				

授業の目的・概要	近代以降において「思う」ではなく「考える」ことを可能にしてきた外的な条件と形式的な条件に意識を向け、アカデミッ クな議論に参加し「考える」基本的な手続きを学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論: 考えていることと考えていると考えていること、など</li> <li>2. 近代以降: デカルトと記号の問題</li> <li>3. 「べきだ」の普遍へ向けた解放</li> <li>4. 「考え」をはじめること</li> <li>5. 「考え」を支えることと参照 (1)</li> <li>6. 「考え」を支えることと参照 (2)</li> <li>7. 支えることと表現すること</li> <li>8. 表現すること (1) 言語と記号</li> <li>9. 表現すること (2) テキストのメカニズム</li> <li>10. つなげること</li> <li>11. 分析的課題と探究 (1)</li> <li>12. 分析的課題と探究 (2)</li> <li>13. 評価</li> <li>14. およそ考えることを可能にする条件をめぐって</li> </ol>
授業の方法	講義・課題遂行・ディスカッションを繰り返します。
成績評価方法	授業への参加度と授業時の課題、最終的な分析的課題を、4:3:3の割合で評価します。
教科書	使いません。
参考書	岩波文庫の主に青版のいくつか、ちくま学芸文庫の青背版に随時言及します。個別タイトルは授業中に示します。
履修上の注意・備考	教育学部教育実践・政策学コース進学者は必修です。 特に何ということもありませんが、場合に応じて英語で授業をするかもしれません。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09218009	担当教員	クリストファー・ボンディ		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	Japanese Education Japanese Education				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09218010	担当教員	野崎 大地 森田 賢治		
単位数	2	学 期	A2	時 限	火 2, 金 2
講義題目	バイオダイナミクス Bio Dynamics				

授業の目的・概要	腕を伸ばす、立つ、歩くといった動作の制御から、動作遂行や環境変化に際して呼吸・循環系が生体恒常性を維持するように働く機構にいたるまで、身体運動には多くの生体調節システムの働きが関与している。身体運動を本質的に理解するには、生体調節システムの構成要素の知識だけでは不十分であり、各要素がどのように相互に組み合わせられ、全体としてうまく機能しているのかという視点が不可欠である。本講義では、生体システムの調節に関して、具体的な例を紹介しつつ、その背後にある仕組みについて、理論・数理的視点も交えて解説する。
授業計画	<p>下記の内容について、一回または二回ずつ講義を行っていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 運動とリズム ～歩行や鼓動の背後にある仕組み～</li> <li>3. 神経活動のダイナミクス ～神経活動の生成の仕組み～</li> <li>4. 筋収縮のメカニクス ～筋はどうやって力を産み出すか～</li> <li>5. 筋骨格系のモデル ～筋により駆動される身体運動～</li> <li>6. 身体運動のダイナミクス ～身体運動の運動方程式～</li> <li>7. 身体運動のエナジェティクス ～エネルギー変換機としての身体～</li> <li>8. 身体運動の制御 ～脳が身体運動を制御する仕組み～</li> <li>9. 学習と記憶のダイナミクス ～神経回路の働きから認知・行動へ～</li> <li>10. 意思決定のダイナミクスと自由意思</li> </ol> <p>&lt;スケジュール&gt;</p> <p>講義初回は 11/27(金)。</p> <p>11/27、12/1、12/4、12/8、12/11、12/15、12/18 担当:野崎</p> <p>12/22、12/25、1/5、1/8、1/12、1/19 担当:森田</p>
授業の方法	使用教材等を下記 URL に置く予定である。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	講義中に指定する。
参考書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	<p>教育職員免許法上の認定科目:(体)運動学(運動方法学を含む)</p> <p>使用教材等を、以下の URL に置く予定である。パスワード等は講義中に知らせる。</p> <p><a href="http://researchmap.jp/dnozaki/">http://researchmap.jp/dnozaki/</a>資料公開/</p> <p><a href="http://researchmap.jp/kenjimorita/">http://researchmap.jp/kenjimorita/</a>資料公開/</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)運動学(運動方法学を含む)

時間割コード	09218011	担当教員	佐々木 司 川内 基裕		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 5
講義題目	機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病) Functional Anatomy				

授業の目的・概要	身体(脳・神経を含む)の構造と機能、それと関連した癌、生活習慣病、精神疾患などの疾病の病態・メカニズムの基本的知識を学習する。健康の維持・増進とその教育に役立つ視点からの講義を行う。
授業計画	最終回は期末試験とし、残りを、総説、呼吸器、循環器、血液、消化器、筋・骨格系、神経・感覚器、生殖・発生に分けて講義を行う。
授業の方法	主に板書を用いた講義形式で行う。ノートは必ずとること。
成績評価方法	期末試験で評価する。
教科書	佐々木の授業では、坂井建雄、橋本尚詞「ぜんぶわかる 人体解剖図」成美堂出版 を主な教科書とする
参考書	今後適宜示す。
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09218012	担当教員	岡田 謙介		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	心理学統計法 I Psychological Statistics I				

授業の目的・概要	<p>本講義では心理学で用いられる統計手法の基礎、および統計に関する基礎的な知識を学ぶ。内容としては、心理学の研究を進めるために統計学がなぜ必要となるかを概観したのち、1変量と2変量の記述統計学を扱い、そして推測統計学の導入を行う。これは、下記教科書の第1章から第4章までの範囲に対応する。本講義の目標は、受講生が心理統計学の基礎理論について数学的および概念的な理解を確立すること、およびそれを実際の心理学データ分析において適用するための手続きと技術を身につけることである。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学で用いられる統計手法</li> <li>2. 統計に関する基礎的な知識</li> <li>3. データとその表現・統計的方法の必要性</li> <li>4. 分布の代表値・分布の散布度</li> <li>5. 変数の線形変換と標準化</li> <li>6. 共分散と相関係数</li> <li>7. 回帰直線のあてはめ・予測値と残差の性質</li> <li>8. 相関係数と回帰係数の性質の違い</li> <li>9. 相関と共変と因果</li> <li>10. 測定の妥当性と信頼性</li> <li>11. 確率モデルと標本分布</li> <li>12. 比率の標本分布の導出</li> <li>13. 正規分布モデルと平均の標本分布</li> <li>14. 2変数正規分布モデルと相関係数・回帰係数の標本分布</li> <li>15. 確率モデルの適用に関する諸問題</li> </ol>
授業の方法	講義形式で実施する
成績評価方法	授業課題と期末試験により評価する
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009年)
履修上の注意・備考	<p>学部横断型プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」の対象科目となる。</p> <p>本科目は複数学部から開講される合併科目であり、科目間での調整が行われるため試験が通常講義とは異なる曜限で実施されることがある。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2017年度以前開講「心理統計学 I」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09218013	担当教員	能智 正博 野中 舞子		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 1
講義題目	公認心理師の職責 Professionalism of Licensed Psychologists				

授業の目的・概要	公認心理師法の施行に伴い、国家資格である「公認心理師」が誕生した。本資格は心理学の知識に基づいて、医療・教育・福祉・産業・司法の主に 5 領域での業務を行う。公認心理師の資格を得るためには学部課程で 25 の必修科目を履修することが必須となる。本科目「公認心理師の職責」は公認心理師の必須科目であり、かつ公認心理師という資格の説明会も兼ねている。資格取得に関心を持っているものは幅広く履修することが望まれる。
授業計画	<p>第 1 回: イントロダクション・公認心理師の役割</p> <p>第 2 回: 公認心理師の法的義務及び倫理</p> <p>第 3 回: リスクマネジメント(利用者の安全確保と情報管理)</p> <p>第 4 回: 各領域の具体的業務: 医療領域①</p> <p>第 5 回: 各領域の具体的業務: 医療領域②</p> <p>第 6 回: 各領域の具体的業務: 教育領域①</p> <p>第 7 回: 各領域の具体的業務: 教育領域②</p> <p>第 8 回: 各領域の具体的業務: 福祉領域①</p> <p>第 9 回: 各領域の具体的業務: 福祉領域②</p> <p>第 10 回: 各領域の具体的業務: 産業領域①</p> <p>第 11 回: 各領域の具体的業務: 司法領域①</p> <p>第 12 回: 支援者としての自己課題発見・解決能力</p> <p>第 13 回: 生涯学習への準備</p>
授業の方法	オンラインで実施とする。講義への参加となる。
成績評価方法	出席点 30%, レポート 70%
教科書	特に指定しない
参考書	講義内で適宜紹介する
履修上の注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部 4 年生で心理演習・心理実習を履修するためには単位取得が必須となる</li> <li>・オンラインで実施する</li> </ul> <p>授業計画の順番は変更となることがある。初回にて、スケジュールを説明するので確認すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09218014	担当教員	コース全教員		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習 I Experiments in Educational Psychology I				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、性格検査、発達検査、知能検査、などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(養護学校、家庭裁判所)の見学も行っていく。なお、本授業は木曜日3、4限に隔週で実施する。また、本郷キャンパスやその他の場所で実施することもあるので十分に注意すること。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要な場合には授業中に指示を出す。
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09218015	担当教員	山本 義春 野崎 大地 森田 賢治		
単位数	2	学期	A1	時限	月 1, 木 1
講義題目	身体教育学概論 I Introduction to Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	からだの理(教育生理学)及び、からだを育むこと(身体教育科学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。
授業計画	<p>主要な設定課題は以下の通りである(2020年度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT/IoT とヘルスケア</li> <li>・日常生活のモバイル行動医学</li> <li>・生体のゆらぎとその役割</li> <li>・睡眠のしくみ</li> <li>・やる気・モチベーション・努力の脳身体機構</li> <li>・価値の学習の脳身体機構</li> <li>・価値に基づく意思決定の脳身体機構</li> <li>・疾患の機序(依存症などに焦点を当てて)</li> <li>・身体運動の制御・学習の潜在性</li> <li>・身体運動の制御 1: 動作の普遍的パターン</li> <li>・身体運動の制御 2: 制御を支える脳神経機構</li> <li>・身体運動の学習過程の科学</li> </ul>
授業の方法	教員の研究を中心に、行動、情動、運動の研究法や脳身体機構等について解説する。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小テストによる総合評価。
教科書	授業内で提示する。
参考書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育原理



時間割コード	09218016	担当教員	多賀 巖太郎 佐々木 司 東郷 史治		
単位数	2	学期	A2	時限	月 1, 木 1
講義題目	身体教育学概論Ⅱ Introduction to Physical and Health Education II				

授業の目的・概要	<p>脳とこころの発達(発達脳科学)及び、心身の健康と安全(健康教育学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。主要な設定課題は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達とは何か ・健康とは何か？保健で何を学ぶか？</li> <li>・心身の発達 ・心身の健康・発達と遺伝・環境</li> <li>・脳の発達 ・免疫・アレルギーと感染症予防</li> <li>・睡眠・運動・代謝 ・セーフティ・プロモーション</li> <li>・認知・言語・学習 ・中枢神経発達・精神発達とその障害の疫学</li> <li>・動的システム ・小児発達障害とはどのようなものか</li> </ul>
授業計画	<p>発達脳科学の基本概念や生体を動的システムとして理解するための基礎を学ぶ</p> <p>健康教育の介入ポイントを明らかにするための疫学研究の基本的な方法論と行動変容の基礎的理論を学ぶ</p>
授業の方法	教員による講義、課題の演習とレポート作成を組み合わせ授業を進める。
成績評価方法	出席、レポート、試験の総合評価とする。
教科書	指定はしない。
参考書	<p>ストロガッツ: 非線形ダイナミクスとカオス、田中久陽、中尾裕也、千葉逸人(訳)丸善出版 2015</p> <p>木原雅子、木原正博訳: 医学的研究のデザイン(第4版)メディカル・サイエンス・インターナショナル社</p>
履修上の注意・備考	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)学校保健 に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

教職課程科目（Ⅰ）本郷キャンパス

時間割コード	09219101	担当教員	小森 潔		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 4
講義題目	国語科教育法(基礎) Basic Studies on Japanese Language				

授業の目的・概要	授業の目標:「国語科」の授業を実践する際に必要な基礎的知識を身につける。 授業の概要:「学習指導要領」の内容を理解するとともに、授業を実践する際に必要な知見について具体的な教材を用いて考察する。あわせて、国語教育の理論的・歴史的問題も視野に含めつつ、現在の「国語科教育」の抱える諸問題を考察する。
授業計画	1. ガイダンス、「国語科教育法(基礎)」で何を学ぶか 2. 「学習指導要領」の解説 3. 「国語科教育」の現状と課題 4. 評論の教材研究1(評論学習の意義、日本文化論、言語論) 5. 評論の教材研究2(哲学的な考え、現代的なテーマ) 6. 小説の教材研究1(小説学習の意義、近代の小説) 7. 小説の教材研究2(現代の小説) 8. 詩、俳句、短歌の教材研究 9. 「表現教材」の教材研究 10. 古文の教材研究1(散文) 11. 古文の教材研究2(韻文) 12. 漢文の教材研究 13. これからの「国語科教育」 14. 指導計画・学習指導案の作成、模擬授業に向けて(情報機器の活用を含む) 15. 「国語科」の評価方法
授業の方法	講義、ディスカッション、個別発表による。
成績評価方法	毎授業時の課題(50%)、レポート(50%)による。
教科書	高等学校の国語教科書(『国語総合』教育出版)を用いる。入手方法は、第1回目の授業時に説明する。
参考書	授業時間中に提示する。また、授業時に「学習指導要領」、その他の資料を適宜配付する。
履修上の注意・備考	この科目は教職に関する科目であるので、原則として「国語」の教員免許を取得しない者の受講は認めない。 ①履修を希望する方は、第1回目の授業が実施される前に、必ずメールでその旨連絡してください。 ②Zoom ミーティングの URL は、以下の通りです。 <a href="https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/87987219285?pwd=cGxpUFhiSHJGZGEwWDZ1aGx5UFFYUT09">https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/87987219285?pwd=cGxpUFhiSHJGZGEwWDZ1aGx5UFFYUT09</a> ③【重要(4月15日記載)】 以下の方のみ、受講可とします。 ・受講希望を連絡し、第1回目の授業に出席し、課題②(2)(「羅生門」授業展開例)を期限までに提出した方 ・受講希望の連絡は失念した
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09219102	担当教員	頓所 本一		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)A Practical Studies on Japanese Language A				

## 授業の目的・概要

### 1. ことばを「愛でる」子どもを育てたい

国語を学んでどうということだろう？という哲学的な問いのない授業から子どもは逃走していきます。逃走する理由は3つの喪失です。ことばの喪失。自己の喪失。関係の喪失。

今、中高生は「言葉」を信じられるものとして認識していません。中高生にとって言葉は、情報・コミュニケーションツールとしての道具、記号です。正解のある文章読解に自己はいりません。〈わたし〉のおもいや考えよりも正解がすべてなのです。教師による教える講義が一般的です。クラスの友だちと互いの考えを share し、その差異からことばを突き詰めていく関係は希薄です。

そこで、本講座では、まず「ことばを愛でる」国語の授業を哲学に据えます。そして、書を読むことは〈わたし〉を読むことという、ことばと自己形成が互いに連関し合う道をビジョンとして歩んでいきたい。そのための活動システムとして、国語の真正性(世界づくり)、友との学び合い(仲間づくり)、自己形成(自分づくり)の三つの視座を通して、子どもが夢中になってことばの根を問い直し、仲間とその差異を突き詰め合いながら、一人もあきらめずにもがき合って自己を形成していく国語の授業づくりをデザインします。

### 2. 本講座の大きな特徴

#### 【『探究の課題』の設定】

本講座の大きな特徴は、授業での「学習課題の設定」にあります。国語の授業で教師がどのような学習課題を子どもに提示するかによって、言葉を愛でる子どもに育つか、言葉を信じない子どもに育てるか、大きく変わってきます。そこで、本講座では以下の3つを学習課題の不問としています。

- ①「主題」を問わない
- ②「心情」(登場人物の気持ち)を問わない
- ③「理由」を問わない

です。主題中心主義の国語の授業から、作品(テキスト)中心主義の授業への転回です。たぶん、みなさんが中学校・高等学校で受けてきた国語の授業とは全く異なる授業スタイルだと思います。本講座で、みなさんと一緒に共有したいことは「教える」(作品論・作家論・文章読解)国語の授業ではありません。テキストのことばを通して「読み味わう」「読み描く」「文脈を読む」授業にしたいのです。詳細については実際の講義でお話します。

#### 【3つの問い直し】

そのために本講座では、以下の三つの「聴く」について問い直していきます。

##### ①【わたしを聴く】

事前提出物(詩画集・自己紹介シート)から、〈わたし〉の自己形成を問い直します。

##### ②【ことばを聴く】

事前提出物(ミニ授業で選んだテキスト)を読み合い、突き詰めたい叙述を問い直します。

##### ③【からだを聴く】

教育現場で実践を重ねている先輩のお話から、子どもを感受していく教師のからだや実際の授業での教師の居方について問い直します。

#### 【ミニ授業の試み】

そして、講義後半は受講生全員に模擬授業(20~30分:受講者数によって時間帯に変更あり)をしていただきます。「教える」授業ではありません。ことばを「読み味わう/読み描く」授業です。受講生(学生)が生徒役になって学習課題を追究します。授業デザインには受講生全員が理解できる『共有の課題』(平等性)と、グループで追究し合う『探究の課題』(質の向上)の2つを設定します。

このような授業デザインづくりや学習課題の設定を受講生の仲間と共有することで、今後の教育実習に生かしていただければ幸いです。

## 授業計画

1 日目『聴くということ』

1 回【ガイダンス】

自己紹介/本講座のねらい…テキストを読み味わう学習課題はどうあるべきか？(主題を問わない・理由を問わない・心情を問わない)

【演習】「ことば」を聴く

『詩「さようなら」(谷川俊太郎)をテキストに中高生に授業をするとしたら、どのような学習課題を設定するか？』

2 回【演習】ことばを聴く

「受講生が選んだテキストを互いに読み、心に残った叙述・探究の課題にしたい叙述をメッセージとして伝えよう。」(くわたし)が選んだテキストを受講生はどんな初感想をもったのか？どんな叙述に関心を寄せたのか、生徒の読みの視点を感じ取る。

3 回【演習ペア】

仲間の声を聴く「自己紹介文・詩文集・心に残った叙述について語り合い、『ひと』を感じていく。」

2 日目『子どものくらしに身を置くということ』～教育現場で実践を重ねている先輩から学ぶ(予定)～

4 回【講話・演習】

〈くわたし〉の国語授業づくり～ことばと向き合う・子どもと向き合う・自分と向き合う～(先輩のお話)【ビデオカンファレンス】

教育現場の先輩の授業から学ぶ「子どもの声を聴く、友だちとつなぎ、テキスト(叙述)に戻す」

5 回【講話・演習】

教育現場からみえてくる国語授業の課題、今後の国語教育のゆくえ(先輩のお話)予定

6 回【reflection・演習】

先輩のお話を聴いて全体で share⇒レポート作成、模擬授業デザイン作成

3 日目『模擬授業「1 人 20 分間」』～〈くわたし〉が構想した学習課題は受講生を夢中にさせたか？工夫させたか？もがかせたか？～

7 回【模擬授業に向けての授業計画】

聴く・つなぐ・もどす (導入計画・指名計画・板書計画など)

8 回【模擬授業】

①1人20分間×4人 \* 授業者の順番は講義当日お知らせします。

9 回【模擬授業】

②1人20分間×4人

4 日目 模擬授業「1 人 20 分間」教師の居方(聴く・つなぐ・もどす)を授業に取り入れる

10 回【模擬授業】

③1人20分間×4人

11 回【模擬授業】

④1人20分間×4人 \* 受講生の人数によって内容に変更もあります。

12 回【カンファレンス】

模擬授業からの学び(省察)/教育実習で生かしたいこと

13 回 本講座の振り返り

\* 上記の講義内容は受講者が 16 人の場合を想定して計画しました。受講者全員に模擬授業をしていただきますが、人数によって講義内容が変わることを予めご承知おきください。

## 授業の方法

【集中講義期間】

	<p>8月2日(月)～8月5日(木)の4日間</p> <p>【時間割】</p> <p>8月2日(月)～4日(水)1限～3限</p> <p>8月5日(木)1限～4限</p> <p>【授業形式】</p> <p>対面授業(4日間とも)</p> <p>【講義会場】</p> <p>本郷キャンパス教育学部 357・358教室</p> <p>★マスク着用で参加ください。</p> <p>講義 グループワーク ペアワーク 演習 ビデオカンファレンス 模擬授業(20分間の模擬授業)</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>①事前提出物(自己紹介シート、詩画集・模擬授業テキスト)状況</p> <p>②講義中の提出物(先輩のお話感想レポート・模擬授業デザイン)状況</p> <p>③講義の出席状況</p> <p>④最終レポート提出状況(講義を受講して学んだこと。4,000字以上。×切 受講後2週間以内)</p>
<p>教科書</p>	<p>「学びの光源」頓所本一著 明治図書 2,500円</p> <p>* 生協にて購入いただけます。</p>
<p>参考書</p>	<p>「授業研究入門」稲垣忠彦・佐藤学 岩波書店</p> <p>「学びのゆくえ」牛山榮世 岩波書店</p> <p>「教師花伝書」佐藤学 小学館</p> <p>「教師の身体技法」佐藤学 太郎次郎社</p>
<p>履修上の注意・備考</p>	<p>【集中講義前に提出していただきたいこと】</p> <p>【重要】本講座は事前に提出していただくものが多いです。以下のことを念頭に入れて受講判断ください。</p> <p>1 受講者は講義事前に以下までメールをください。事前に提出いただくシートを添付いたします。メールがない場合は受講できませんので予めご承知ください。</p> <p>kuniyuumikihiro2010@yahoo.co.jp</p> <p>2 講義の事前に提出いただくもの【事前に提出のない場合は受講できませんので予め承知ください。】</p> <p>①自己紹介シート</p> <p>②自作の詩画集</p> <p>③模擬授業でのテキストコピー</p>
<p>教育職員免許法上の認定科目</p>	<p>教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法</p>

時間割コード	09219103	担当教員	勝亦 あき子		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)B Practical Studies on Japanese Language B				

授業の目的・概要	<p>本授業は、教育実習に必要な技能を身につけることを目標とします。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.中等教育における国語科の授業を行うための教材研究・学習指導案の作成ができる。</li> <li>2.協働学習、探究的な学習を意識した授業を計画することができる。</li> <li>3.目的と状況に合わせた教具の選び方、使い方を工夫することができる。</li> <li>4.自己の授業改善につながる授業見学をすることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 学習指導案の構成と学習指導要領との関係</p> <p>第2回 国語科における教材の役割</p> <p>第3回 協働学習・探究的な学習の意義と方法</p> <p>第4回 授業時の指導者の役割</p> <p>第5回 授業検討(ビデオ)</p> <p>第6回 教材研究のあり方・教具の工夫</p> <p>第7回 教材研究</p> <p>第8回 指導案作成</p> <p>第9回 指導案検討</p> <p>第10回 模擬授業 A</p> <p>第11回 授業検討 A</p> <p>第12回 模擬授業 B</p> <p>第13回 授業検討 B</p>
授業の方法	<p>第1回～第4回・第6回 授業者による講義および受講生による議論</p> <p>第5回 ビデオによる授業紹介とその検討</p> <p>第7回・第8回 教材研究と指導案作成(グループに分かれての作業)</p> <p>第9回 受講生による議論</p> <p>第10回～第13回 模擬授業と授業検討</p>
成績評価方法	参加状況・受講態度・提出物(学習指導案・レポート)により、総合的に評価する。
教科書	<p>【国語編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説</p> <p>【国語編】高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説</p>
参考書	<p>【国語編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説</p> <p>【国語編】高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説</p>
履修上の注意・備考	欠席すると、その後の活動が困難となる。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09219104	担当教員	田中 暁龍		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(基礎) Basic Studies on Social Studies, Geography and History				

授業の目的・概要	<p>&lt;テーマ&gt; 中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を理解している。</li> <li>2. 中学生(及び高校生)の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、評価の考え方の基本を理解している。</li> <li>3. 中学校社会科の学習指導案の構成を理解して(高校への接続を視野に入れて)、具体的に作成できるとともに、模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</li> </ol> <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>本授業は、①社会科の成立からその後の変遷と学習指導要領における社会科(地理・歴史的分野)及び地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係を把握し、③教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を行う。</p> <p>その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業開発を進めていく。</p>
授業計画	<p>&lt;オンライン授業&gt;</p> <p>第1回:オリエンテーションー社会科との出会いー、第2回:社会科の成立ー「問題解決学習と系統学習」ー、第3回:社会科の変遷と新しい学力観ー「『覚える』から『考える』社会科へ」ー、第4回:中学校学習指導要領における社会科(地理的分野)の目標・内容・指導上の留意点、地理歴史科の成立と学習指導要領における地理歴史科の目標と構成、第5回:中学校学習指導要領における社会科と歴史的分野の目標・内容・指導上の留意点、高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点ー「歴史総合」「地理総合」ー、第6回:社会科授業論1(地理的分野)ー「地理的技能、地図の活用と読図・作図」ー、第7回:社会科授業論2(歴史的分野)ー「資料の活用と歴史的思考力」ー、第8回:社会科学習指導案の作成1ー「学習指導案の骨子をつくる」ー、第9回:社会科学習指導案の作成2ー「学習評価と問い、教材の効果的な活用」ー、第10回:社会科学習指導案と模擬授業1ー導入を中心にー、第11回:社会科学習指導案と模擬授業2ー「語り」を中心にー、第12回:社会科学習指導案と模擬授業3ー「板書」を中心にー、第13回:社会科地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返りと学習指導案の修正</p>
授業の方法	講義と演習(グループワークまたは模擬授業)を組み合わせる。グループワークは、小グループによる討議を行う予定である。
成績評価方法	課題レポートなどの提出物を60%、発表活動など授業への取り組みを40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成30年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成31年)
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成20年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成22年) このほか授業中に適宜資料を配布する。
履修上の注意・備考	教員免許資格取得にかかわることを踏まえて、授業への取り組み姿勢を重視する。第1回目の授業より必ず出席すること。





時間割コード	09219105	担当教員	田中 暁龍		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践)A Practical Studies on Social Studies, Geography and History A				

授業の目的・概要	<p>&lt;テーマ&gt; 中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解と指導の実践</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を深く理解している。</li> <li>2. 高校生(及び中学生)の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、学習評価の考え方を理解している。</li> <li>3. 社会科・地理歴史科にかかわる専門領域や探究的な実践研究の動向を知り、様々な指導理論を理解している。</li> <li>4. 高等学校地理歴史科の学習指導案の構成を理解して(中学校社会科との連続性に配慮して)、具体的に作成するとともに、模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</li> </ol> <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>本授業は、①中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業開発を進めていく。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーションー地理歴史科における講義型と探究型の授業ー、第2回:歴史教育と教科書ー日本の教科書と世界の教科書、共通教科書ー、第3回:探究型で学ぶ社会科教育の実践と評価ー「思考・判断・表現力等」の育成、社会認識と価値判断ー、第4回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容及び指導上の留意点1ー「地理総合」「地理探究」ー、第5回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容及び指導上の留意点2ー「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」ー、第6回:環境・防災教育と情報機器の活用ー地理情報システム&lt;GIS&gt;の活用ー、第7回:地域調査ー伝統・文化の理解と持続可能な社会の形成ー、第8回:モノ教材の効果的な活用と博学連携、教材(文字史料・絵画史料等)の効果的な活用と「問い」、第9回:現代的な諸課題と新科目「歴史総合」「地理総合」、学習指導案の作成、第10回:模擬授業1ー導入「効果的な導入とは」、第11回:模擬授業2ー展開「資料の活用」「単元の基軸となる問い」、第12回:模擬授業3ー展開「類似・差違」「因果関係」、まとめ「現代的な諸課題とのかかわり」、第13回:社会科・地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返りと学習指導案の修正</p>
授業の方法	<p>本授業は、①中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業開発を進めていく。</p>
成績評価方法	<p>課題レポートなどの提出物を60%、発表活動など授業への取り組みを40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。</p>
教科書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成30年)</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成31年)</p>
参考書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成20年)</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(教育出版、平成22年)</p>

	このほか授業中に適宜資料を配布する。
<b>履修上の注意・備考</b>	教員免許資格取得にかかわることを踏まえて、授業への取り組み姿勢を重視する。第1回目の授業から出席すること。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09219106	担当教員	武田 竜一		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践)A Practical Studies on Social Studies, Geography and History A				

授業の目的・概要	<p>中学校社会科と高等学校における地理・歴史における授業内容について、学習指導要領や教科書などの位置づけを理解した上で、具体的なイメージをつかむ。将来、社会科の教員を志望する者が受講する科目であるため、各自がすぐれた授業実践を積極的に学び、授業デザインを組み立てられるようになることが、最終的な目標となる。戦後に誕生した社会科の歴史をたどりながら、経験主義と系統主義カリキュラムの間で揺れ動いてきた社会科をどう評価し、今後の社会科教育はどうあるべきか、受講者とともに考えたい。</p>
授業計画	<p>1.オリエンテーション(教育のしごととは?) 2.社会科教育の歴史とその目標 3.学習指導要領を読み解く① 4.学習指導要領を読み解く② 5.教科書の批判的検討 6.社会科の学力と評価 7.主権者教育とシティズンシップ教育 8.授業づくりの実際 9.模擬授業とその検討① 10.模擬授業とその検討② 11.模擬授業とその検討③ 12.「主体的・対話的で深い学び」とは? 13.筆記試験</p>
授業の方法	<p>講義と演習(受講者同士の意見交換、模擬授業の相互評価の実施など)を組み合わせて進める。毎回のテーマに関心を持ち、教員として生きる自身の将来をイメージしながら主体的に参加してほしい。</p>
成績評価方法	<p>模擬授業、筆記試験が主たる評価の材料となるが、授業に積極的に「参加」する姿勢を高く評価する。</p>
教科書	<p>特になし</p>
参考書	<p>文部科学省 中学校学習指導要領・社会科(平成 29 年告示)          高等学校学習指導要領・地理歴史科(平成 30 年告示)          その他、適宜講義のなかで参考文献については紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>教育実習や介護体験など教職に関する行事により、やむを得ず出席できない場合には、事前にその旨を報告すること。教職にかかわる科目であるため出席を重視する。毎時のレスポンスシートにより出席を確認する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法</p>

時間割コード	09219107	担当教員	小澤 富士男		
単位数	2	学期	S2	時限	集中
講義題目	社会科・公民科教育法 (実践) Practical Studies on Social Studies and Citizenship				

授業の目的・概要	社会成員としての自覚と能力を生かし、社会科学的な知識や人文科学的な知識を踏まえ、自主的な探求や主体的な関りを通し、さまざまな授業事例を学びながら、多面的で多角的な公民科教育を探究する
授業計画	1時間目:「この授業」を創る「この」について「選挙制度」から捉える 2時間目:「この授業」を創る「この」について「カンカン列車はまちの旅」から捉える 3時間目:主体的個人による公共への旅 授業事例1 4時間目:「平和的状态とは何か?」を考える 授業事例2 5時間目:「無知のヴェールを被って」(法の支配と人権について学ぶ) 授業事例3 6時間目:貨幣を通して金融を展開(ゼロないしはマイナス金利の世界) 授業事例4 7時間目:ロールプレイなどの様々な授業法を試みる 授業事例5 8時間目:アクティブラーニングによる他者との協働を通した問題解決学習 授業事例6 9時間目:「自己責任」時代の「今」とは 公民科教育の課題について考える 授業事例7 10時間目:授業案作成と授業スキルについて 模擬授業への準備 11時間目:授業をやってみよう 模擬授業1 12時間目:授業をやってみよう 模擬授業2 13時間目:初期キリスト教を授業化してみると 授業事例8
授業の方法	授業事例の批判と討議を通して、公民科教育のスキルと教案作成上の留意点を学び、実践的な態度を涵養する
成績評価方法	レポートによる評価 80%及び授業への参加意欲 20%を加味する
教科書	公民科学習指導要領 教科書「現代社会」あるいは「政治・経済」(出版元は問わない)
参考書	吉見俊哉著『ポスト戦後社会』 大澤真幸著『不可能性の時代』(いずれも岩波新書)
履修上の注意・備考	社会的成員としての自覚と批判力、社会へ関わる主体的な態度が求められる
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09219108	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	数学科教育法(基礎) Basic Studies on Mathematics				

授業の目的・概要	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究に重点を置く。戦後における学習指導要領の変遷を学び、現行学習指導要領を理解し、具体的な学習内容を理解できることを目標にする。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人」の先生になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成を行い、評価についても講義する。教材研究のあり方や問題解決型授業の実践例を与え、グループ活動などを行いながら講義を進める。中学校授業参観、数学体験館での体験も行う予定である。授業・教材におけるICTの利活用についても講義する。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション  第2回:学習指導要領の変遷  第3回:教材研究(数量領域「数と式①」)  第4回:教材研究(数量領域「数と式②」)  第5回:教材研究(図形領域①図形の見方)  第6回:教材研究(図形領域②ユークリッド空間)  第7回:教材研究(関数・解析領域.数学的な見方・考え方)  第8回:教材研究(確率・統計領域.データの活用・確率)  第9回:学習指導法・学習指導案の作成  第10回:中学校授業参観(予定)  第11回:数学体験館見学(予定)  第12回:ICTの活用  第13回:デジタル教科書の実際  第14回:筆記試験</p> <p>詳細はオリエンテーションで伝えます。</p>
授業の方法	<p>講義とグループ活動・作業的活動を行う。  アクティブラーニングを基本とする。</p>
成績評価方法	<p>小論文課題と筆記テストを行う。</p>
教科書	<p>中学校学習指導要領解説 数学編(平成29年)、  中学校学習指導要領  高等学校学習指導要領解説 理数編(平成30年)</p>
参考書	<p>若い先生に伝える仲田紀夫の算数／数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房  ”疑問”に即座に答える算数・数学学習小事(辞)典 仲田紀夫著 黎明書房  その他は授業中に紹介します。</p>
履修上の注意・備考	<p>算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。講義の連続性があるので、講義に出席することを前提にします。  授業開始29分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとなります。  講義回数(14回)の4分の3以上(11回以上)の出席を履修条件とします</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと  学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)  <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法</p>

時間割コード	09219109	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 1
講義題目	数学科教育法(実践)A Practical Studies on Mathematics A				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究に重点を置く。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人の先生」になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成および模擬授業を行い、評価についても考える。教材研究のあり方や課題解決型授業の実践例を構成する。授業・教材におけるICTの利活用についても体験する。</p> <p>到達目標は以下の通りとする。</p> <p>「数学教育の目的」「数学的な考え方」などが理解できたうえで、情報機器を使った学習指導案の作成と模擬授業が実施できること。パワーポイントなどを使って模擬授業が出来ることが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。</li> <li>②教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</li> <li>③学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</li> <li>④模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</li> <li>⑤当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。</li> </ol>
<b>授業計画</b>	<p>第1回:オリエンテーション。使用テキスト購入。授業分担等</p> <p>第2回:学習指導案の作成について</p> <p>第3回:模擬授業 1(数と式 1:文字式)</p> <p>第4回:模擬授業 2(数と式 2:式の計算)</p> <p>第5回:模擬授業 3(数と式 3:式の計算)</p> <p>第6回:振り返りとディスカッション</p> <p>第7回:デジタル教科書</p> <p>第8回:模擬授業 4(数と式 4:1次方程式)</p> <p>第9回:模擬授業 5(数と式 5:連立方程式)</p> <p>第10回:模擬授業 6(数と式 6:2次方程式)</p> <p>第11回:振り返りとディスカッション</p> <p>第12回:模擬授業 7(図形 1:図形の性質の調べ方)</p> <p>第13回:模擬授業 8(図形 2:三角形・四角形)</p> <p>第14回:振り返りとディスカッション</p>
<b>授業の方法</b>	<p>教材研究と模擬授業を必須として行う。</p> <p>模擬授業実施後ディスカッション及び受講生による相互評価を行う。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>模擬授業、模擬授業の学習指導案、振り返りとまとめの課題により評価する。</p>
<b>教科書</b>	<p>中学校学習指導要領解説 数学編(平成 29 年)(各自購入)</p> <p>高等学校学習指導要領解説 理数編(平成 30 年)(各自購入)</p> <p>中学校数学の検定済教科書(学校図書株式会社 中学校数学1~3)(第1回に購入)</p>
<b>参考書</b>	<p>若い先生に伝える仲田紀夫の算数／数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房</p> <p>”疑問”に即座に答える算数・数学学習小事(辞)典 仲田紀夫著 黎明書房</p> <p>その他は授業中に紹介します。</p>

**履修上の注意・備考**

算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。履修者の模擬授業を中心に進めるため、講義に出席することを前提にします。

数学科教育法(基礎)を履修していることが望ましい。4 領域の内容を理解していること。学習指導案の作成については既習であることを前提とします。受講までに確認しておくこと。

模擬授業を欠席した場合は、単位を認めないので注意してください。

授業開始 29 分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとなります。

講義回数の4分の3以上(11 回以上)の出席(オンラインの回を含む)を履修条件と

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09219110	担当教員	清野 堯明		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	数学科教育法(実践)B Practical Studies on Mathematics B				

授業の目的・概要	中等教育段階での数学科の授業を行うときに、事前に教材研究ができ、学習指導案が作成できるようになることを目標とする。単なる問題提示、その解説、演習という授業の流れにとどまらないためにはどのような点に注意すべきなのかを具体的な指導事例を中心に考察する。自分の受けてきた授業を振り返り、数学科の授業者に必要な知識・技術について考察する。中学校・高等学校の学校現場で指導している立場から、具体的な教材・資料・実践例を通して、数学教育に関するテーマを与える。
授業計画	<p>第1回:「数学」と「学校数学」との違い</p> <p>第2回: 現行の学習指導要領と中学校・高等学校の数学科カリキュラム</p> <p>第3回: 学習指導要領の歴史</p> <p>第4回: 学習指導法</p> <p>第5回: 評価</p> <p>第6回: 教材研究(空間図形の模型作りを例にして)</p> <p>第7回: 教材研究(単元のつながりを意識した題材を例にして)</p> <p>第8回: 教材開発(教科書の問題を生かす)</p> <p>第9回: 教材開発(生徒の反応・誤答を生かす)</p> <p>第10回: 数学的な考え方</p> <p>第11回: ICTの活用</p> <p>第12回: 数学的モデル化</p> <p>第13回: 学習指導案の書き方</p> <p>第14回: 模擬授業(学習指導案の進め方)</p> <p>第15回: 模擬授業(授業を評価する)</p>
授業の方法	講義またはテーマごとに課題を提示して、その課題について問題解決し、その解決過程を振り返る。
成績評価方法	テストは行わず、レポート等で評価する。そのレポートや講義中の活動を見て、講義の内容を理解し、自らの問題解決過程を振り返り、考察をしているかどうかを確認する。
教科書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
参考書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
履修上の注意・備考	<p>上記の成績評価方法で記入したように、毎回の講義で学生の活動を重視し、さらにレポートを課すので、講義に出席することを前提とする。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)を参照</p> <p><a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法



時間割コード	09219111	担当教員	對比地 覚		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 5
講義題目	理科教育法(実践)C(1) Practical Studies on Natural Science C				

授業の目的・概要	<p>教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。</p> <p>理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」、「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「様々な授業形態」などの事項を扱う。</p> <p>この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員という職業について</li> <li>2. 理科教育の目的・学習指導要領</li> <li>3. 授業の方法と評価</li> <li>4. 授業の教材の具体例</li> <li>5. 授業でのメディア・機器の利用</li> <li>6. 学習指導案の作成</li> <li>7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備</li> <li>8. 模擬授業I①</li> <li>9. 模擬授業I②</li> <li>10. 実験・観察の意義</li> <li>11. 授業における安全管理</li> <li>12. 探求活動の指導</li> <li>13. 模擬授業II①</li> <li>14. 模擬授業II②</li> <li>15. 模擬授業II③</li> </ol>
授業の方法	講義や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 理科編</p> <p>高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編</p>
履修上の注意・備考	今年度 A1A2 セメスターに開講される理科教育法(実践)C(2)と同様の内容です。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09219112	担当教員	對比地 覚		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	水 5
講義題目	理科教育法(実践)C(2) Practical Studies on Natural Science C				

授業の目的・概要	<p>教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。</p> <p>理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」、「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「様々な授業形態」などの事項を扱う。</p> <p>この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員という職業について</li> <li>2. 理科教育の目的・学習指導要領</li> <li>3. 授業の方法と評価</li> <li>4. 授業の教材の具体例</li> <li>5. 授業でのメディア・機器の利用</li> <li>6. 学習指導案の作成</li> <li>7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備</li> <li>8. 模擬授業I①</li> <li>9. 模擬授業I②</li> <li>10. 実験・観察の意義</li> <li>11. 授業における安全管理</li> <li>12. 探求活動の指導</li> <li>13. 模擬授業Ⅱ①</li> <li>14. 模擬授業Ⅱ②</li> <li>15. 模擬授業Ⅱ③</li> </ol>
授業の方法	講義や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 理科編</p> <p>高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編</p>
履修上の注意・備考	今年度 S1S2 セメスターに開講される理科教育法(実践)C(1)と同様の内容です。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09219113	担当教員	青木 秀憲 上岡 洋晴		
単位数	2	学期	S2	時限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)B Practical Studies on Health and Physical Education B				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営においては、これまでに得た知識、経験をもとに構成することが基本であるが、未成年の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは不可能である。授業時は不測の問題が常に発生する危険を帯びている。また、授業の運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備作業への想像力、遂行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした対応力、想像力、遂行力を養成する第一歩と位置付けている。</p> <p>本授業は、2020年度に「実践 A」が開講されている。そのため、過去「実践」を履修している者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。従って、既修者と初修者とは授業内容や課題に若干の違いが生ずる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方などを踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。</p>
<b>授業計画</b>	<p>&lt;5月6日更新情報&gt;</p> <p>本授業は第1回(6月8日)～第3回(6月22日)までをZoomによるオンライン形式で行う。詳しくは「オンライン授業URL」欄のリンクから、ITC-LMSの本授業トップページ参照のこと。なお、授業全体のスケジュールは以下の通りとなる。</p> <p>第1回(6月8日)～第3回(6月22日)</p> <p>以下の【授業概要】の1, 2, 3, 4をZoomによるオンラインで実施</p> <p>第4回(6月29日) 東京大学教育学部附属中等教育学校授業見学①</p> <p>第5回(7月6日) 模擬授業①</p> <p>第6回(7月13日) 東京大学教育学部附属中等教育学校授業見学②</p> <p>第7回(7月20日) 模擬授業②</p> <p>※当初の予定を変更し授業見学を2回実施する。</p> <p><b>【授業概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 体育教師が求められる役割、競技主体思考と学校体育思考の違い、東京大学で体育を学ぶ意義、下手な動作を分析する</li> <li>2. 授業指導案の考え方・理念</li> <li>3. 既修者による模擬授業および振り返り</li> <li>4. 授業指導案の作成および発表・質疑</li> <li>5. 指導実践見学(東京大学教育学部附属中等教育学校での授業見学)</li> <li>6. 模擬授業①および振り返り(既修者は初修者よりも長時間の模擬授業を実施)</li> <li>7. 模擬授業②および振り返り</li> </ol>
<b>授業の方法</b>	初修者に対しては授業期間の前半において、授業運営の基本理念・技法の習得、学習指導案の作成方法やその注

	<p>意点を教授した上で、学習指導案作成の実習を行う。後半は作成した指導案に基づき、まずは短時間での模擬授業を実施する。既修者に対しては、授業期間の前半から学習指導案の作成実習を行い、後半で模擬授業を複数回実施して、可能な限り実習経験を積むことを目標とする。</p>
<p><b>成績評価方法</b></p>	<p>実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。</p>
<p><b>教科書</b></p>	<p>文部科学省．中学校：学習指導要領（平成29年度告示）「第7節保健体育」.  <a href="https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf</a>          その他、随時、授業時に紹介する。          ※特に事前に購入、ダウンロードする必要はない。</p>
<p><b>参考書</b></p>	<p>必要に応じて、随時授業時に紹介する。          第1回目(6/8)使用の資料⇒学習指導要領関連(下から URL から各自ダウンロード)  <a href="https://webfs.adm.u-tokyo.ac.jp/public/mb7sAANJIUCAZT0BIlt5wC3EMxHdQJeFLjvhH91nmtKM">https://webfs.adm.u-tokyo.ac.jp/public/mb7sAANJIUCAZT0BIlt5wC3EMxHdQJeFLjvhH91nmtKM</a></p>
<p><b>履修上の注意・備考</b></p>	<p>特になし。時期を問わず運動部やクラブチームなどでのスポーツ経験があることが望ましいが、全くスポーツに関係したことのない学生の視点・考え方には非常に示唆に富むものがあるので、まとまったスポーツ経験がなくても履修を勧めたい。</p> <p>&lt;注意:教員免許状取得を考えている学生へ&gt;</p> <p>平成31年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身体教育方法論」2単位及び「実践」6単位の合計8単位の修得が必要となる(実践A、B、Cをそれぞれ1回ずつ履修)。また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2単位及び「実践」2単位の合計4単位の修得を要する(実践A、B、Cのいずれか1科目を履修)。</p> <p>教員免許状の取得を希望する場合、自身に</p>
<p><b>教育職員免許法上の認定科目</b></p>	<p>教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法</p>

時間割コード	09219114	担当教員	青木 秀憲		
単位数	2	学期	A2	時限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)C Practical Studies on Health and Physical Education C				

授業の目的・概要	<p>保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営においては、これまでに得た知識、経験をもとに構成することが基本であるが、未成年の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは不可能である。授業時は不測の問題が常に発生する危険を帯びている。また、授業の運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備作業への想像力、遂行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした対応力、想像力、遂行力を養成する第一歩と位置付けている。</p> <p>本授業は、2020 年度に「実践 A」が、本年度 S2 において「実践 B」が開講されている。そのため、過去「実践」を履修している者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。従って、既修者と初修者とは授業内容や課題に若干の違いが生ずる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方などを踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。複数回目の履修者にはより多くの実習、模擬授業等の経験を重ねてもらい、さらなる技量の習熟に努める。</p>
授業計画	<p>1. イントロダクション</p> <p>体育教師が求められる役割、競技主体思考と学校体育思考の違い、東京大学で体育を学ぶ意義、下手な動作を分析する</p> <p>2. 授業指導案の考え方・理念</p> <p>3. 既修者による模擬授業および振り返り</p> <p>4. 授業指導案の作成および発表・質疑</p> <p>5. 指導実践見学(東京大学教育学部附属中等教育学校での授業見学)</p> <p>6. 模擬授業①および振り返り(既修者は初修者よりも長時間の模擬授業を実施)</p> <p>7. 模擬授業②および振り返り</p> <p>※1 回の授業は原則 2 時限分連続で実施する。</p>
授業の方法	<p>初修者に対しては授業期間の前半において、授業運営の基本理念・技法の習得、学習指導案の作成方法やその注意点を教授した上で、学習指導案作成の実習を行う。後半は作成した指導案に基づき、まずは短時間での模擬授業を実施する。既修者に対しては、授業期間の前半から学習指導案の作成実習を行い、後半で模擬授業を複数回実施して、可能な限り実習経験を積むことを目標とする。</p>
成績評価方法	<p>実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。</p>
教科書	<p>文部科学省 . 中学校 : 学習指導要領 (平成 29 年度告示)「第 7 節 保健体育」. <a href="https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf</a></p> <p>その他、随時、授業時に紹介する。</p> <p>※特に事前に購入、ダウンロードする必要はない。</p>
参考書	<p>必要があれば、随時授業時に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし。時期を問わず運動部やクラブチームなどでのスポーツ経験があることが望ましいが、全くスポーツに関係したことのない学生の視点・考え方には非常に示唆に富むものがあるので、まとまったスポーツ経験がなくても履修を勧めたい。</p>

<注意: 教員免許状取得を考えている学生へ>

平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計8 単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する(実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修)。

教員免許状の取得を希望する場合、自身に

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09219115	担当教員	奥 聡一郎		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	英語科教育法(実践)A Practical Studies on English Language A				

授業の目的・概要	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育で外国語、英語を学ぶ意義を見直し、歴史的変遷と現状分析を通して、英語教師に必要な知識、指導技術を身につける。</li> <li>2. 学習の対象となる英語そのものの理解を深め、授業における運用能力を高める。</li> <li>3. 外国語教育の理論的知識と教授法に関する実践的知識について学ぶことにより、教育実習に対する準備を行う。</li> <li>4. 指導法や教授法をマイクロティーチングの形式で実践したうえで、受講者各自が模擬授業を行い、講評や議論を通して、自らの授業改善につなげることができるようにする。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回:イントロダクション、評価方法の説明、英語の学び方を振り返り、学校教育と教員の役割について意見をまとめる。【キーワード 英語の学び方、学校教育】</p> <p>第2回:英語学習について諸外国での授業と教授法、教材の比較・検討を発表する。【キーワード 言語政策、world Englishes 教授法】</p> <p>第3回:学習指導要領の変遷日本の英語教育の特徴を学習指導要領の歴史的変遷から学び、コミュニケーション能力を身につけさせるための方法について理解を深める。【キーワード 学習指導要領 コミュニケーション能力】</p> <p>第4回:英語教師の資質と能力。【キーワード 英語力、グループ・ワークによるマイクロティーチング】</p> <p>第5回:4 技能の指導法「読む・書く」指導の実例を学ぶ。【キーワード 文法・語彙指導、辞書指導】</p> <p>第6回:4 技能の指導法「聞く・話す」指導の実例を学ぶ。【キーワード 発音記号、フォニックス】</p> <p>第7回:新しい学習方法【キーワード アクティブラーニング、反転授業、協働学習】</p> <p>第8回:ICT 活用と教育工学【キーワード 板書、LL、CALL、フラッシュカード、電子黒板】</p> <p>第9回:授業構成 導入、展開、評価などの技法を確認し、使えるようにする。【キーワード 学習指導案】</p> <p>第10回:学習評価と言語活動のまとめ【キーワード 評価、キャンドゥーリスト】</p> <p>第11回:録音と録画を使った授業分析と授業研究【キーワード 模擬授業、】</p> <p>第12回:新しい教授法と模擬授業(1)【キーワード 授業評価、アクティブラーニング】</p> <p>第13回:ICT 活用と模擬授業(2)【キーワード 4 技能、ICT 活用】</p> <p>第14回:学習者要因に配慮した模擬授業(3)【キーワード 教室外学習、動機づけ】</p> <p>第15回:授業のまとめ【キーワード 教員研修、授業研究】</p>
授業の方法	<p>まず、教える対象となる英語についての基本的な理解を深め、運用能力の向上を図る。英語の特質を理論的に理解したうえで教材開発や言語活動の設定に応用できるようにする。学習指導要領の概要や言語政策、教授法の変遷など歴史的流れと教材論の展開を理解し、教育実習の準備をする。毎時の指導案及び年間授業計画の立て方、授業の構成、教科書の扱い方をアクティブラーニングの形式で学び、それぞれが学習指導案を作成し、模擬授業を行う。受講者による互いの講評や議論を通じて、教壇に立つ心構えを身につけることを目標とする。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義内容に関するリアクションペーパー(20%)、模擬授業の学習指導案(20%)、模擬授業への講評と議論(20%)、グループ・ワークによるマイクロティーチング(20%)英語教育に関する最終レポート(20%)を総合的に評価する。</p>
教科書	<p>小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東洋館出版社 ISBN978-4-491-03460-7</p> <p>小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説 外国語活動・外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05168-5</p> <p>中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東山書房 ISBN978-4-8278-1558-50</p>

	<p>中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05169-2</p> <p>高等学校学習指導要領(平成 30 年 3</p>
<b>参考書</b>	<p>JACET SLA 研究会編『第二言語習得と英語科教育法』東京:開拓社</p> <p>金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』東京:大修館書店</p> <p>金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 高等学校編』東京:大修館書店</p> <p>Jim Scrivener. (2011) <i>Learning Teaching. The Essential Guide to English Language Teaching. Third Edition.</i> Oxford: Macmillan Books.</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>原則として、教員免許取得予定者を対象とします。履修者希望者は予めメールを送信してください。教材配布やオンライン授業について説明します。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	<p>教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法</p>



時間割コード	09219116	担当教員	高橋 和子		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	英語科教育法(実践)B Practical Studies on English Language B				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>小学校・中学校・高等学校の英語教材に焦点を置いて、これらの構造と特色を踏まえた授業実践を目指します。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーション能力育成を目指す日本の英語教育のあり方を、英語教材の変遷を通して理解することができる</li> <li>2) 英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色を理解することができる</li> <li>3) 小学校・中学校・高等学校における、英語教材のあり方を理解することができる</li> <li>4) 英語で書かれたテキストをもとに、自ら英語教材を作成することができる</li> </ol> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力重視の英語教育と、英語教材の変遷について</li> <li>・英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色について</li> <li>・各校種における英語教材の特色について</li> <li>・英語教材と問いの立て方について</li> <li>・デジタル時代における英語教材のあり方について</li> </ul>
<b>授業計画</b>	<p>第1回: イントロダクション</p> <p>第2回: コミュニケーション能力重視の英語教育と英語教材: 1980年代以降を中心に</p> <p>第3回: 英語教材の見かた: 本文・質問／発問・学習活動／言語活動</p> <p>第4回: 小学校英語教材(1) 会話文を中心に</p> <p>第5回: 小学校英語教材(2) 絵本・物語文を中心に</p> <p>第6回: 中学校英語教材(1) 会話文を中心に</p> <p>第7回: 中学校英語教材(2) 説明文を中心に</p> <p>第8回: 中学校英語教材(3) 物語文を中心に</p> <p>第9回: 高等学校英語教材(1) 会話文を中心に</p> <p>第10回: 高等学校英語教材(2) 説明文を中心に</p> <p>第11回: 高等学校英語教材(3) 物語文を中心に</p> <p>第12回: これからの英語教材</p> <p>第13回: 最終レポート</p> <p>※注意: 上記計画は、非常時対応及び受講者の状況に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じて LMS で行います。</p>
<b>授業の方法</b>	<p>検定教科書等に掲載されている教材分析の他、これらと関連する資料を使用しながら授業を行います。</p> <p>LMS での教材配布、ZOOM での授業を組み合わせる予定です。オンライン上でやり取りを行い、受講者同士の意見交換を行います。</p> <p>※非常時対応および受講者の状況に伴って、上記は変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じて LMS で行います。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>課題(教材作成を含む)50%、最終レポート 50%</p> <p>上記に加えて、LMS へのログイン状況、ZOOM の参加度も踏まえて、総合的に評価します。</p>
<b>教科書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITC-LMS で教材を配布します</li> <li>・小学校・中学校・高等学校『学習指導要領』、および『学習指導要領解説』を使用します。</li> </ul>

以下の文部科学省ホームページより入手可能です：  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)

## 参考書

・田中武夫・田中知聡 (2018)『英語授業の発問づくり』明治図書

・Berger,  
Warren. & Foster,  
Elise. (2020). Beautiful Questions in the Classroom. Corwin.

・McKee,  
Robert. (2014). Story: Substance,  
Structure,  
Style,  
and the Principles of Screenwriting.  
Methuen.

・Olson,  
Randy. (2015). Houston,  
We Have a Narrative. University of Chicago Press.

・Wolf,  
Maryanne. (2018). Reader,  
Come Home: The Reading Brain in a Digital World. Harper.

その他は授業中に紹介します

## 履修上の注意・備考

原則として、教員免許取得予定者を対象とします。免許取得予定ではないが履修を希望する方は、以下のメールアドレスまでご相談ください。

・配布教材に基づいて予習し、問題意識を持って授業に臨んでください。

(教材配布に関する情報は、LMSのお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見るようにして下さい。)

・本講義は、集中講義で行います。日程等は、関連部署にお尋ねください。

## 教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09219117	担当教員	戸上 和正		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	英語科教育法(実践)C Practical Studies on English Language C				

授業の目的・概要	中等教育における英語の授業について、現場の状況を参照しながらその理論を学び、実技や模擬授業などを通して実践力を身につけることを目標とします。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 英語教育, 英語の授業の目的</li> <li>2 英語教授法</li> <li>3 指導手順・技術</li> <li>4 教材研究の視点</li> <li>5 学習指導案と実際の授業</li> <li>6 リーディング・リスニングの指導技術</li> <li>7 スピーキング・ライティングの指導技術</li> <li>8 模擬授業①</li> <li>9 模擬授業②</li> <li>10 英語の授業における評価の種類</li> <li>11 ペーパーテスト</li> <li>12 実際に作ったペーパーテストをやってみよう</li> <li>13 バックワードデザイン、マクロ的な視点、授業運営、生徒指導</li> <li>14 まとめ</li> </ol>
授業の方法	講義と演習
成績評価方法	授業内でのレポートとまとめの課題レポートを基に定めます。
教科書	特にありませんが、復習用に資料を配布する予定です。
参考書	後に提示します
履修上の注意・備考	今のところ夏季の集中の予定です。欠席により内容が抜けてしまうと後半の模擬授業に大きく影響しますので、注意してください。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09219118	担当教員	田中 昌弥		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育原理Ⅱ Educational Principles II				

授業の目的・概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>今日の教育が形成された歴史的経緯と、その背景で織りなされてきた海外と日本の教育の諸理念・思想を理解する。</li> <li>今日の教育課題を社会・制度・人間発達の相互関係の観点から捉え直す。</li> <li>代表的な教育理論・教育実践が、どのように創られ、選択されたのかを知り、教職に就く者として、これからの時代に求められる教育を具体的に構想できるようになるための基本的素養を身につける。</li> </ol>
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回:教員養成における教育原理の意味</p> <p>第2回:受講生の教育イメージ グループ討論</p> <p>第3回:公教育の目的と理念</p> <p>第4回:教育の歴史 近代教育の三重構造説</p> <p>第5回:21世紀型能力をめぐる国際的動向と文科省</p> <p>第6回:学力をめぐる学習指導要領の歴史</p> <p>第7回:学力の構造</p> <p>第8回:学習権論と人材養成論</p> <p>第9回:発達論と教育の思想</p> <p>第10回:教育問題を教育の原理から考察する</p> <p>第11回:教育実践の検討</p> <p>第12回:子ども理解とナラティブ・アプローチ</p> <p>第13回:まとめ ナラティブ・アプローチから見た教育の理念・歴史・思想</p>
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>理論と現実・実践との往還を重視して授業を進めるため、映像や資料を通して具体的な教育現実・実践のイメージをもつことを重視し、その教育学的な検討を行う。</li> <li>受講人数にもよるが、討論、発言の機会を折々に設定する。</li> </ol> <p>新型コロナウイルス感染症をめぐる状況によって対面による実施が困難になった場合には、Google Classroom を用いたオンデマンド方式で実施する。2020年度と同様、受講生の疲労度を考慮し、視聴可能期間は、正規の集中講義期間よりも長めに設定する。質問には、メールやオンラインで対応する。</p>
成績評価方法	中間レポートと最終レポートを主としつつ、授業への参加、授業の区切りごとに提出してもらうメモも合わせて評価する。
教科書	・汐見稔幸他編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堀尾輝久『教育入門』(岩波新書)</li> <li>・荒井、田中、本田、宮田、山田編『学力と学校を問い直す』かもがわ出版</li> </ul>
履修上の注意・備考	<p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)</p> <p><a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p> <p>※2018 年度以前開講「教育原理」(担当教員:田中昌弥)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照

※A 参照

時間割コード	09219119	担当教員	伊藤 貴昭		
単位数	2	学期	S1	時限	金 1, 金 2
講義題目	教育心理Ⅱ Educational Psychology II				

授業の目的・概要	<p><b>【目標】</b></p> <p>学習および発達の過程について理解を深め、発達段階に即した子どもの心理的特性を理解し、教育実践場面へつなげるための基礎となる考え方を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育心理学で扱われてきた学習の原理、発達、思考の特徴などについて理解を深める。</li> <li>2. 発達段階に即して子どもの心的メカニズムを理解し、教育実践へつなげるための能力を育む。</li> <li>3. 教員になったときに直面する問題に対して、心理学的な観点から考えることができる。</li> </ol> <p><b>【概要】</b></p> <p>教育心理学とは、心理学で明らかにされてきた知見を教育実践に活かすことを目的とした学問である。本講義では、教育心理学が対象とするテーマの中でも特に「学習の原理」「発達」を中心に子どもの発達状況に応じてどのような心理メカニズムが働いているかについて理解を深めていく。</p>
授業計画	<p>第1回:学習の原理</p> <p>第2回:記憶のメカニズム</p> <p>第3回:乳児期から児童期の発達の過程</p> <p>第4回:青年期以降の発達の過程</p> <p>第5回:ことばや概念の発達</p> <p>第6回:問題解決と推論のプロセス</p> <p>第7回:協同で取り組むことの効果</p> <p>第8回:学習方略の有効性</p> <p>第10回:動機づけのメカニズム(1)欲求に基づく動機づけ</p> <p>第11回:動機づけのメカニズム(2)認知に基づく動機づけ</p> <p>第12回:子どもの発達に応じた教育の在り方とは</p> <p>第13回:活動性を高める授業づくり</p> <p>第14回:教育実践に対する教育心理学の貢献</p> <p>第15回:まとめ</p>
授業の方法	<p>本講義はオンラインで実施します。</p> <p>基本的にはオンデマンド+リアルタイム(Zoom)によるハイブリッド授業です。</p> <p>事前に配信する動画を視聴した上で、授業日に実施するリアルタイム授業に参加してもらいます。</p> <p>リアルタイム授業では、主に受講生同士のディスカッション等を実施する予定です。</p> <p>動画配信およびリアルタイム授業の情報は LMS を通じてお知らせします。</p>
成績評価方法	<p>授業への貢献度(10%)各回の課題提出</p> <p>レポート(30%)</p> <p>学期末試験(60%)</p> <p>ただし、出席状況(各回の課題提出の状況)が悪い場合には試験の結果によらず不可とします。</p>
教科書	特に指定しない。
参考書	『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編 ミネルヴァ書房

**履修上の注意・備考**

本授業は教職課程科目のため、出席(毎回の課題提出)を重視します。また、グループ活動(Zoom)への積極的な参加も求めます。

教育実習等で欠席が多数見込まれる場合には、下記メールアドレスまで必ず事前に相談するか、授業時に必ず申し出てください。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照

※D 参照

時間割コード	09219120	担当教員	堤 英俊		
単位数	1	学期	集中	時限	集中
講義題目	特別支援教育総論 I An Introduction to Special Needs Education I				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。</li> <li>2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。</li> <li>3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。</li> </ol>
<b>授業計画</b>	<p>次のようなテーマを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育の制度と構造、特別支援教育とインクルーシブ教育</li> <li>2. 特別な教育的ニーズを示す子どもの理解と合理的配慮</li> <li>3. 障害の個人モデルと社会モデル</li> <li>4. 発達障害の理解(ASD・ADHD・LD)、神経回路の多様性</li> <li>5. さまざまな障害の理解(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害等)</li> <li>6. 人種、国籍、性、母国語、貧困等の理解</li> <li>7. インクルーシブな学校づくり:オルタナティブな学校の取り組みに学ぶ</li> <li>8. 通常学級におけるインクルーシブな学級づくり:学びとケアの共同体</li> <li>9. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり①:授業のユニバーサルデザイン、ICT等の支援技術の活用</li> <li>10. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり②:ペア学習・協同学習</li> <li>11. 特別支援教育コーディネーター・特別支援教育支援員等の役割と連携</li> <li>12. 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用、通級による指導、自立活動</li> <li>13. 交流及び共同学習、障害理解教育、多文化教育</li> <li>14. インクルーシブな地域づくり:学校という制度的枠組みをこえて</li> <li>15. これからの特別支援教育／インクルーシブ教育の課題</li> </ol>
<b>授業の方法</b>	講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。
<b>成績評価方法</b>	各回のリアクション・ペーパー(40%)、課題レポート(60%)にもとづき、総合的に評価する。
<b>教科書</b>	教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。
<b>参考書</b>	<p>堤英俊(2019)『知的障害教育の場とグレーゾーンの子どもたちーインクルーシブ社会への教育学ー』東京大学出版会。</p> <p>木村泰子・小国喜弘 編(2019)『「みんなの学校」をつくるためにー特別支援教育を問い直すー』小学館。</p> <p>湯浅恭正・新井英靖・吉田茂孝 編(2019)『よくわかるインクルーシブ教育』ミネルヴァ書房。</p> <p>この他、授業の中で関係する文献を紹介する。</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>主体的な参加を前提とする。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)</p>



<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09219121	担当教員	上野 正道		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育課程Ⅱ Curriculum Studies II				

授業の目的・概要	現代のグローバル時代において、学校教育は大きな転換点を迎えている。この科目では、教育課程の理論とその実践的課題を整理して検討し、教育課程の過去・現在・未来について吟味し探究することを目的にする。特に、民主主義と公共性を基盤にした学校改革の観点から、教育課程を構成する授業や学力、教師といった主題にアプローチするとともに、想像的なアートと学びを中心とする教育課程についても取り上げることとする。また、アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国の教育についても紹介する。それによって、教育課程とは何か、授業と学びをどのように創造するか、学校をどのように改革するか、といったテーマに迫ることとする。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 教育課程とは何か 第3回 学校と教育課程の現代史 第4回 グローバル時代の学校と教育課程 第5回 近代日本の学校と教育課程 第6回 西洋近代の学校と教育課程 第7回 新教育から現代の教育課程へ 第8回 学力とは何か―授業と教育課程 第9回 アート教育とカリキュラム 第10回 シティズンシップ教育とカリキュラム 第11回 東アジアの学校と教育課程 第12回 教職の専門性とカリキュラム 第13回 まとめ
授業の方法	講義形式
成績評価方法	平常点と試験とレポートによる
教科書	上野正道『民主主義への教育』東京大学出版会、2013年
参考書	上野正道他『東アジアの未来をひらく学校改革』北大路書房、2014年
履修上の注意・備考	【履修上の注意】 本科目は開講時期(1-3月集中講義)の都合上、2019年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。 ※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a> ※2018年度以前開講「教育課程」(担当教員:上野正道)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照 ※F 参照

時間割コード	09219122	担当教員	藤井 佳世		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	道徳教育法 Methods of Moral Education				

授業の目的・概要	<p>本授業の目的は、教職を志す学生にとって必要な道徳教育の基礎的知識・理解と道徳の指導法を養うことにある。おもに、道徳をめぐるさまざまな議論の考察を通して、道徳教育の哲学的・倫理的基盤、学校における道徳教育の目標と内容について学び、学習指導過程の構想などのこれからの道徳教育の可能性について考えることができるようになることを目的とする。</p>
授業計画	<p>道徳教育の課題や理論、授業の位置付けなどを学び、学習指導構想を作成する。</p>
授業の方法	<p>講義、授業中の課題提出、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションをおこなう。</p>
成績評価方法	<p>成績は、授業時間内に行う小テスト、小レポート・課題提出、資料作成・発表、最終レポートで判断する。授業内で実施する小テスト・課題等は、公欠のみ考慮する。</p>
教科書	<p>教科書は使用しない。</p>
参考書	<p>参考書は使用しないが、次のものを使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文部科学省『中学校学習指導要領』</li> <li>2 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則』</li> <li>3 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』</li> </ol> <p>3は、可能であれば持参すること。</p> <p>その他、関連する資料・文献等は授業中に適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP&gt;時間割&gt;学部(集中講義)</p> <p><a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</a></p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照</p> <p>※G 参照</p> <p>教科又は教職に関する科目(旧)</p> <p>大学が独自に設定する科目(新)</p>

時間割コード	09219123	担当教員	三河内 彰子		
単位数	1	学期	集中	時限	集中
講義題目	総合的な学習の時間の 指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	中等教育段階における総合的な学習の時間について、広く探求的な学習に関する国内外の現状を踏まえ、特に先駆的な事例や研究の吟味を通して、現状の問題点および改善点を考え、実際の授業を構想する。
授業計画	第1回 総合的な学習の現状 第2回 総合的な学習の具体例(国内) 第3回 総合的な学習の具体例(海外における探究学習の事例) 第4回 総合的な学習の種類と特徴 第5回 総合的な学習の将来像 第6回 授業を構成する、学習環境をデザインする 第7回 最終課題提出前の検討会と総括
授業の方法	中等教育段階における総合的な学習の時間について、現状に関する資料と受講者自身の経験を踏まえ、その特徴を吟味し、問題点および改善点を考えます。総合的な学習の将来像を描き、実際の授業を想定しつつ、より未来志向が求められる時間のため、先駆的な事例から具体的に検討する要素について吟味しながら最終課題での授業を構想してゆきます。授業資料の予習、授業、振り返り(気づきや質問)のリフレクションペーパー、その討議のサイクルを進めます。コロナの状況によってオンラインと対面を使い分けます。
成績評価方法	学期中の小課題(30%:複数有り)、学期末に最終課題(70%:学期を通しての小課題やリフレクションペーパーを反映した最終課題)を、授業での取り組み方(質問、発表やリフレクションペーパーへの)を合わせて総合的に判断します。
教科書	指定の教科書はありませんが、授業毎に事前や事後に配布・参照します。
参考書	HP「総合的な学習の時間」文部科学省: <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm</a>
履修上の注意・備考	受講生の関心事、理解度等により変更する場合があります。授業の性質上、参加型のセッションを多く含み、互いから学びあう姿勢が強く求められます。また、個々人のリフレクションペーパーへの積極的な取り組みも求められます。コロナの状況を考慮して、予定が変更になる場合があります、授業内、ポータルサイトでのお知らせに留意してください。 ※集中講義です。 ※非常勤のため授業外での質疑応答がある場合はメールにてお願いします。オフィスアワー(オンライン)もあらかじめメールにてアポイントをとって下さい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09219124	担当教員	森 俊二		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities				

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動＝生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学級びらき、学級通信</li> <li>2. 生活指導と生徒指導</li> <li>3. 子ども集団づくりへ</li> <li>4. ゼロトレと子どもの権利条約</li> <li>5. HR 実践分析①</li> <li>6. HR 実践分析②</li> <li>7. 三者協議会と生徒会実践分析</li> <li>8. 指導と管理 ケーススタディ</li> <li>9. HRの指導①班・討議・リーダーをどうつくるか ②HRにおける行事の指導</li> <li>10. 文化祭指導案討議</li> <li>11. 生徒会の指導</li> <li>12. 子どもをめぐる課題 いじめ問題の指導</li> <li>13. 実践事例分析</li> <li>14. 特別なニーズのある子どもと生活指導</li> <li>15. 実践事例分析 まとめ</li> </ol>
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。
成績評価方法	レポート55%、平常点45%(授業で指示された課題、コメントカード、授業・討論等の参加状況等)
教科書	『市民性を育てる生徒指導・進路指導』望月一枝・森俊二他 大学図書出版 2020年 ISBN 978-4-909655-43-1 ¥1980
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税          高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税          『必ず盛り上がる文化祭ガイド』森俊二編 学事出版 2014年 1800円＋税          『高校生活指導』210号 高生研編 教育実務センター 2020年 1200円＋税          『高校生活指導』208号 高生研編 教育実務センター 2018年 1200円＋税          『高校生活指導』204号 高生研編 教育実務センター 2017年 1200円＋税          『新しい時代の生活指導』山本敏郎他著、有斐閣アルマ、2014年、1800円＋税          『新・生活指導の理論』竹内常一 高文研 2016年 2500円＋税          『子ども集団づくり入門』全生研常任委員会編 明治図書 2005年 2100円＋税          『18歳を市民にする高校教育実践』白石陽一他編 大学図書出版 2400円＋税</p>

**履修上の注意・備考**

教科書を使用します。各自購入して下さい。教科書・参考書の内容を進んで読んで下さい。

受講者の上限を約 50 名とします。定員を超えた場合は、原則として上級学年の受講者を優先します。

**【履修上の注意】**

※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照

※I 参照

時間割コード	09219125	担当教員	森 俊二		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities				

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動＝生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学級びらき、学級通信</li> <li>2. 生活指導と生徒指導</li> <li>3. 子ども集団づくりへ</li> <li>4. ゼロトレと子どもの権利条約</li> <li>5. HR 実践分析①</li> <li>6. HR 実践分析②</li> <li>7. 三者協議会と生徒会実践分析</li> <li>8. 指導と管理 ケーススタディ</li> <li>9. HRの指導①班・討議・リーダーをどうつくるか ②HRにおける行事の指導</li> <li>10. 文化祭指導案討議</li> <li>11. 生徒会の指導</li> <li>12. 子どもをめぐる課題 いじめ問題の指導</li> <li>13. 実践事例分析</li> <li>14. 特別なニーズのある子どもと生活指導</li> <li>15. 実践事例分析 まとめ</li> </ol>
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。
成績評価方法	レポート55%、平常点45%(授業で指示された課題、コメントカード、授業・討論等の参加状況等)
教科書	『市民性を育てる生徒指導・進路指導』望月一枝・森俊二他編 大学図書出版 2020年 ISBN 978-4-909655-43-1 ¥1980
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税</p> <p>高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税</p> <p>『必ず盛り上がる文化祭ガイド』森俊二編 学事出版 2014年 1800円＋税</p> <p>『高校生活指導』210号 高生研編 教育実務センター 2020年 1200円＋税</p> <p>『高校生活指導』208号 高生研編 教育実務センター 2018年 1200円＋税</p> <p>『高校生活指導』204号 高生研編 教育実務センター 2017年 1200円＋税</p> <p>『新しい時代の生活指導』山本敏郎他著、有斐閣アルマ、2014年、1800円＋税</p> <p>『新・生活指導の理論』竹内常一 高文研 2016年 2500円＋税</p> <p>『子ども集団づくり入門』全生研常任委員会編 明治図書 2005年 2100円＋税</p> <p>『18歳を市民にする高校教育実践』白石陽一他編 大学図書出版 2400円＋税</p>

**履修上の注意・備考**

教科書を使用します。各自購入して下さい。教科書・参考書の内容を進んで読んで下さい。

**【履修上の注意】**

※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照

※I 参照



時間割コード	09219126	担当教員	黒田 友紀		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育の方法Ⅱ Teaching Methods II				

授業の目的・概要	<p>【概要】本授業では、教育方法の理論や、学びや授業、教育評価に関する基本的な考え方について理解し、さまざまな学習形態や ICT・教材教具を活用した授業を具体的にデザインできることをねらいとする。また、実際の授業映像の分析から平等で質の高い学びについて検討し、「学びの専門家」としての教師の技(アート)についてともに考察を行いたい。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の理論と歴史、子どもの学びや授業、教育評価などの基礎的事項について理解する。</li> <li>・授業の目的に応じ、学習形態・教材教具や ICT を活用して、具体的に授業をデザインすることができる</li> <li>・教材研究の方法や授業の構成を考え、学習指導案の作成を含む基本的な指導技術を習得する。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法とは何か、授業について振り返る</li> <li>2. 授業とは何か、教えると学ぶ、授業という場</li> <li>3. 教育方法の理論と歴史(1)一斉授業の成立</li> <li>4. 教育方法の理論と歴史(2)子ども中心主義・進歩主義の教育</li> <li>5. カリキュラムと授業デザイン</li> <li>6. 教育方法の実践例(1)多様な学習形態</li> <li>7. 教育方法の実践例(2)ICT の活用</li> <li>8. 教育方法の実践例(3)課題の設定、教材・教具</li> <li>9. 協同(働)的学び、アクティブ・ラーニングを考える</li> <li>10. 授業のデザイン(1)学習指導案の作成方法、教材研究</li> <li>11. 授業のデザイン(2)教育評価の理論と方法</li> <li>12. 授業デザインと評価:何を評価するか、どんな資質能力を測定するか</li> <li>13. 授業の省察:子どもの学びの様子から考える</li> <li>14. 授業の省察:授業研究と協議会</li> <li>15. 教師の学びと成長</li> </ol>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として、授業のテーマに沿って共有した資料に基づいて、講義+小グループによるディスカッションと質疑+補足説明によって授業をすすめる。</li> <li>・授業ビデオの視聴を行う場合、小グループおよび全体でのディスカッションを行い、その後リフレクションとして小レポートを作成してもらう。</li> </ul>
成績評価方法	事前課題・小レポート(45%)、授業・議論への貢献度(25%)、最終課題(30%)で総合的に評価する。
教科書	特に指定せず、必要な資料は適宜共有する。
参考書	<p>稲垣忠彦、佐藤学『授業研究入門』岩波書店、1996年</p> <p>佐藤学『教育の方法』左右社、2010年</p> <p>小室弘毅・齋藤智哉編著『ワークで学ぶ教育の方法と技術』ナカニシヤ出版、2019年</p> <p>その他、講義の中で、適宜資料を配付する。</p>
履修上の注意・備考	・この講義の履修にあたり必要となる予備知識や事前に履修しておくべき科目は特にないが、授業前に資料等をよく読み、「自分はどのように考えるか」を明確にして授業に臨んでほしい。

・また、シラバスは、受講生のニーズや状況等に応じて、授業途中にも変更することがある。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照

※J 参照

時間割コード	09219127	担当教員	山本 宏樹		
単位数	2	学期	A1	時限	火 2, 火 3
講義題目	生徒指導・進路指導 Student Guidance and Career Guidance				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>■授業の概要</p> <p>もし授業中に生徒が寝ていたら、教師はどう振る舞えばよいのでしょうか。「高校に進学したくない」という中学生を前に、どのような言葉かけをすればよいのでしょうか。「クラスで無視されている」という相談に対しては、具体的にどのように対応をすべきでしょうか？</p> <p>教師の日常は、悩ましく切実な判断の連続です。生徒指導と進路指導は、子どもの人格・尊厳の奥深くに立ち至る困難な教育活動であり、子どもから「生涯の恩師」として慕われる可能性がある一方、子どもを深く傷つける可能性もはらみます。</p> <p>受講生の皆さんも、これまでの学校生活において、多かれ少なかれ生徒の立場で生徒指導・進路指導を経験してきたはず。この授業では、その時の記憶や想いを足がかりにしながら、今度は教師の立場になって理解を深めていきましょう。</p> <p>■授業の目標</p> <p>本授業の目的は、生徒指導と進路指導・キャリア教育の理論と方法の理解です。生徒指導では「他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けること」を、進路指導では「進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けること」を全体の目標とします。</p> <p>■授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生徒指導の意義や原理を理解し、それらを説明できること。</li> <li>2) すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解し、それらを説明できること。</li> <li>3) 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解し、それらを説明できること。</li> <li>4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、それらを説明できること。</li> <li>5) 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、それらを説明できること。</li> <li>6) 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解し、それらを説明できること。</li> </ol>
<b>授業計画</b>	<p>第1回：生徒指導・進路指導の意義と目的</p> <p>第2回：生徒指導の現状(1)学校の抱える問題(体罰)</p> <p>第3回：生徒指導の現状(2)学校の抱える問題(行き過ぎた指導)</p> <p>第4回：生徒指導の現状(3)学校の抱える問題(校則問題)</p> <p>第5回：生徒指導の理論(1)生徒指導の原理と学校教育裁判</p> <p>第6回：生徒指導の理論(2)教師の生徒指導上の諸問題の背景要因</p> <p>第7回：生徒指導の方法(1)特別指導・懲戒処分・有形力の行使・機関連携</p> <p>第8回：生徒指導の方法(2)対話的指導・修復的実践・子ども集団づくり・SST</p> <p>第9回：生徒指導の方法(3)暴力行為・いじめ・不登校・非行逸脱等の現状と対応</p> <p>第10回：生徒指導の方法(4)インターネットや性に関する問題の現状と対応</p> <p>第11回：進路指導の理論と方法(1)進路指導・キャリア教育の原理</p>

	<p>第 12 回: 進路指導の理論と方法(2) 進路指導・キャリア教育の方法(進学指導と職業指導)</p> <p>第 13 回: 進路指導の理論と方法(3) 進路指導・キャリア教育の今日的課題</p> <p>第 14 回: 総括</p>
<b>授業の方法</b>	講義のほか、毎週グループディスカッションを実施します。
<b>成績評価方法</b>	授業への7割以上の出席を成績評価の前提条件として、授業内レポート 60%、期末レポート 40%で評価します。
<b>教科書</b>	特定の教科書は使用せず、適宜資料を配付します。
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『学習指導要領』および『学習指導要領解説 総則編』(<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</a>)</li> <li>・文部科学省『生徒指導提要』2011 年(<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm</a>)。</li> <li>・山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指導』有斐閣アルマ、2014 年。</li> <li>・教育科学研究会[編]『いじめと向きあう』旬報社、2013 年。</li> <li>・高原史朗『中学生を担任するということ―「ゆめのたね」をあなたに』高文研、2017 年。</li> <li>・山下英三郎『いじめ・損なわれた関係を築きなおす―修復的対話というアプローチ』学苑社、2010 年。</li> <li>・山本宏樹「なぜ学校で体罰や指導死が起こるのか? ―社会に蔓延する“ダークペダゴジー”」2017 年(<a href="http://synodos.jp/education/19720">http://synodos.jp/education/19720</a>)。</li> <li>・山本宏樹「『ダークペダゴジー』が、危険タックルを引き起こした。教育学者が指摘」2018 年(<a href="https://www.huffingtonpost.jp/2018/05/29/darkpedagogy_a_23446448/">https://www.huffingtonpost.jp/2018/05/29/darkpedagogy_a_23446448/</a>)。</li> </ul>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>・初回到授業の進め方について資料配付のうえ説明やグループ分けを行いますので、やむをえず初回到欠席をした場合は 2 週目の授業までに必ず申し出てください。</p> <p>学生からの質問・相談には随時お答えしていますので、お気軽にご連絡ください。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照</p> <p>※K 参照</p>

時間割コード	09219128	担当教員	綾城 初穂		
単位数	2	学期	A1A2	時限	月 1
講義題目	教育相談Ⅱ School Counseling II				

授業の目的・概要	<p>本授業では、主に学校教育領域での対立問題(生徒同士の衝突、生徒—教員間の対立、いじめ、暴力など)に対する、ナラティブセラピーによるアプローチを学ぶ。また、社会構成主義的な視点に立った支援の方法についても検討する。基本的には講義形式だが、実践の方法についての体験的な取り組みも入れる予定である。ナラティブセラピーおよび社会構成主義の観点から、理論的かつ実践的に学校で生じる諸問題について考え取り組めるようになることが到達目標となる。授業では学生からの積極的な参加が期待される。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション:学校現場の対立問題について</p> <p>第2回 ナラティブセラピーの理論</p> <p>第3回 ナラティブセラピーの技法</p> <p>第4回 修復的实践・メディエーション</p> <p>第5回 攻撃的な行動への対応</p> <p>第6回 秘密いじめ対策隊</p> <p>第7回 レポートへのフィードバックと議論①</p> <p>第8回 教員に対する支援</p> <p>第9回 保護者に対する支援</p> <p>第10回 ナラティブセラピーの体験学習</p> <p>第11回 ポジショニング理論の概説</p> <p>第12回 ポジショニング理論によるカウンセリングの理解</p> <p>第13回 レポートへのフィードバックと議論②</p>
授業の方法	主として講義によるが、適宜ワークも取り入れる
成績評価方法	毎回の小レポートと最終レポートを総合して評価する
教科書	<p>ウィンズレイド, J. ウィリアムズ, M. (著) 綾城初穂 (訳) (2016). いじめ・暴力に向き合う学校づくり—対立を修復し、学びに変えるナラティブ・アプローチ 新曜社. (Winslade, J. &amp; Williams, M. (2012). Safe and peaceful schools: Addressing conflict and eliminating violence. Thousand Oaks: Corwin press.)</p>
参考書	<p>Gergen, K. J. (1994). Realities and relationships: Soundings in social construction. Cambridge, MA: Harvard University Press. 永田素彦・深尾誠 (訳) (2004). 社会構成主義の理論と実践—関係性が現実をつくる. ナカニシヤ出版.</p>
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照 ※L 参照

時間割コード	09219129	担当教員	斎藤 兆史 浅井 幸子		
単位数	3	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育実習 I Student Teaching I				

授業の目的・概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。</li> <li>2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。</li> <li>3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。</li> <li>4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。</li> </ol>
授業計画	<p>事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。</p> <p>本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。</p> <p>事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。</p>
授業の方法	<p>事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。</p> <p>本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。</p> <p>事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。</p>
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	履修に際しては個人による UTAS からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習 (2週間)

時間割コード	09219130	担当教員	斎藤 兆史 浅井 幸子		
単位数	5	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育実習Ⅱ Student Teaching II				

授業の目的・概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。</li> <li>2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。</li> <li>3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。</li> <li>4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。</li> </ol>
授業計画	<p>事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。</p> <p>本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。</p> <p>事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。</p>
授業の方法	<p>事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。</p> <p>本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。</p> <p>事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。</p>
成績評価方法	<p>授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。</p>
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	<p>履修に際しては個人による UTAS からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 教育実習 (3週間以上)</p>

時間割コード	09219131	担当教員	斎藤 兆史 浅井 幸子		
単位数	2	学期	A2	時限	金 5, 金 6
講義題目	教職実践演習(中・高) Seminar on Professional Practice in Teaching				

授業の目的・概要	<p>教職課程における「集大成」として位置づけられる演習であり、各履修者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するために実施する。学校教育、特に中等教育のリーダーとなる教員の育成を目指し、文部科学省が含むべき事項と定める4事項(①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項)の育成を図り、複雑な問題解決に対応できる判断力を培うための演習とする。</p> <p>内容は、以下の2つに大別される。</p> <p>① 討論をベースにした教職に関する現代的課題の理解:現代的課題やその具体的事例についての講義を受講、あるいはビデオ(DVD)を視聴し、担任のコーディネートによりグループ討論及び全体討論を行う。</p> <p>② 授業の計画・実施・研究協議:グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。</p>
授業計画	-
授業の方法	教育学研究科教員と東大付属中等教育学校教員の連携協力のもとで実施される。4クラスに分けて行う。教職に関する現代的課題の理解については、担任がグループ、クラスでの討論をコーディネートして行う。授業の計画・実施・研究協議では、担任の指導のもと、グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。受講者には主体的・積極的な参加が求められる。
成績評価方法	演習に参加しての平常点(振り返りレポートの提出を含む)による。出席が重視される。
教科書	特に指定しない。
参考書	各回担当講師が紹介する情報を参考にされたい。
履修上の注意・備考	教職実践演習を履修する年度末に、教育職員免許状を取得する見込み者又は教育職員免許状の取得に必要な単位の修得をすべて終える見込みの者が対象となる。履修登録は UTAS によらず特別な方法で行うので、下記「関連ホームページ」にて各自確認のうえ遺漏のないよう注意すること。
教育職員免許法上の認定科目	



教職課程科目（Ⅱ）駒場キャンパス

時間割コード	09219201	担当教員	下地 秀樹		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	教育原理 I Educational Principles I				

授業の目的・概要	「人間は教育されねばならない存在なのか否か」というテーマをめぐる、参加者各人が自己の(被)教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を原理的に考える」第一歩である。遠回りのようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。
授業計画	<p>授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のようなテーマを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間のメルクマール</li> <li>2. 人類化と人間化</li> <li>3. 近代化の行方:イゾラド</li> <li>4. 生命倫理を考える:エンハンスメント</li> <li>5. 正常と異常を考える:野生児の事例</li> <li>6. 近代学校の胎動と近代の人間観</li> <li>7. 臨界期</li> <li>8. 現代発達環境論</li> <li>9. 発達と教育の基礎理論</li> <li>10. 明治初期の教育</li> <li>11. 戦時下の教育</li> <li>12. 教育基本法</li> <li>13. 戦後の中等教育制度</li> <li>14. 学力観:PISA 等の構想</li> <li>15. 現代の学校改革</li> </ol>
授業の方法	<p>基本的には講義形式であるが、ほぼ毎回、上記問題群に関わる小レポートまたは小テストを課す。その論述を相互に討議し、批評しあう機会をなるべく多く設けたい。講義は、その結果を反映させながら構成する。</p> <p>「教職に関する科目」(教員免許取得のための必修科目)であるが、教員免許取得にいたるプロセスのベースとなる問題群について、あまり先を焦らずに考える時間としたい。</p>
成績評価方法	<p>学期末最終授業時には、総括としてのテストを実施するか、または期末レポートを課し、いずれにしても、さらに相互批評を行う。どちらにするかは、授業中に受講者との相談により決定する。成績評価は、前記「授業の方法」欄に示した小レポートや小テストと、この総括テストまたは期末レポートを総合した平常点評価とする。敢えて配分を記すと、小レポートおよび小テスト 80%、総括テストまたは期末レポート 20%とする。</p>
教科書	堀尾輝久他編『新版 地球時代の教育原理』(三恵社)
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	<p>この科目は教職に関する科目である</p> <p>※2020 年度以前開講「教育原理」(担当教員:下地秀樹)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照</p> <p>※A 参照</p>

時間割コード	09219202	担当教員	勝野 正章		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 6
講義題目	教師論 I Teaching and Teacher Education I				

授業の目的・概要	<p>【授業の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職の意義、教員の役割並びに職務内容に関する理解を深める。</li> <li>2. 教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に、その検討のための材料を提供する。</li> <li>3. 教職に関する情熱・使命感や子どもに対する責任感、興味・関心という資質能力を育む。</li> </ol> <p>【授業の概要】授業を通じて教員の職務内容とその特徴、教員にとっての学ぶことの意味、教員の服務と身分保障、教員養成の歴史、保護者・地域住民との関係づくり等について理解する。さらに、教員のライフコースに即して新採用教員、中堅教員、管理職教員の話を聴く機会を設けることで、上記の理解を深めるとともに、教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に対して、その検討のための材料を提供する。</p>
授業計画	<p>第1回: イントロダクション 授業計画、参考書、評価方法の説明</p> <p>第2回: 教員の職務【キーワード やりがい、無境界性、不確実性、再帰性】</p> <p>第3回: 教員にとっての学ぶことの意味【キーワード 研修の権利と義務、同僚性、授業研究】</p> <p>第4回: 教員のライフコース【キーワード 初任期、中堅期、管理職期】</p> <p>第5回: ゲストティーチャー(新採用教員)</p> <p>第6回: 教科指導の基礎【キーワード 教材研究、授業のデザイン、学習評価】</p> <p>第7回: 生徒指導の基礎【キーワード 子ども理解、コミュニケーション、カウンセリング】</p> <p>第8回: 教員の服務と身分保障【キーワード 身分上の義務、職務上の義務、ILO/ユネスコ教員の地位に関する勧告】</p> <p>第9回: ゲストティーチャー(中堅教員)</p> <p>第10回: 教員養成の歴史と現代的課題【キーワード 師範学校、開放制教員養成、免許状制度】</p> <p>第11回: 保護者・地域住民との関係づくり【キーワード 開かれた学校づくり、信頼、説明責任】</p> <p>第12回: ゲストティーチャー(管理職教員)</p> <p>第13回: 授業のまとめ</p> <p>ゲストティーチャーの都合等により、授業計画には変更がありうる。</p>
授業の方法	<p>毎時、授業でとりあげたトピックに関するグループ・ディスカッションの時間を設けるとともに、リアクションペーパーを記入して、内容理解の確認、深化を図るとともに振り返りを行う。</p>
成績評価方法	<p>講義で扱った内容に関する理解の確認を中心とする試験を行う。この試験の結果に授業への参加態度等を加味し、上記の到達目標を基準として総合的に評価する。</p>
教科書	なし
参考書	<p>佐藤学・秋田喜代美編著『新しい時代の教職入門』(有斐閣アルマ)</p> <p>勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』(有斐閣)</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし</p> <p>※2018 年度以前開講「教師論」(担当教員: 勝野正章)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照</p> <p>※B 参照</p>

時間割コード	09219203	担当教員	高井良 健一		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	教師論Ⅱ Teaching and Teacher Education II				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>教師という職業は、生徒にとって身近な職業であるが、その仕事の奥行き—難しさと複雑さ—を正確に理解することはたやすいことではない。逆に、この職業は、身近であるがゆえにはじめからわかったつもりになる危険をはらんでいる。そして、現在、教師の仕事はますます重要になるとともに、困難さを増している。こうした状況の中で、教師を志す人たちが確かなヴィジョンをもち、学びの世界に踏み出せるように、この教職論の授業では、教師の世界を内側—教師による語り・教師のライフストーリー—と外側—教職の社会的位置づけ・社会的使命—から理解することをめざしている。また、授業のなかでは、受講生が主体となり、参加するセッションも取り入れる。公教育における教師の使命は、民主主義社会を担う他者への配慮に満ちた市民を育成することにある。自らもアクティブな市民であるとともに、他者への配慮に満ちた市民を育てるという使命をもった教師たちが、東京大学から巣立っていくことを期待している。</p> <p>なお、具体的な授業の到達目標及びテーマは次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職の意義、教員の役割並びに職務内容に関する理解を深める。</li> <li>2. 教職を将来の進路として真剣に検討している学生に進路選択のための材料を提供する。</li> <li>3. 教職に関する情熱・使命感や子どもに対する責任感、興味・関心という資質能力を育む</li> </ol>
<b>授業計画</b>	<p>第1回: イントロダクション—教師の仕事とは</p> <p>第2回: 教師の新任期のとまどい—リアリティ・ショックと先輩教師からの学び</p> <p>第3回: 教師の新任期の発達—イニシエーションとアイデンティティの形成</p> <p>第4回: 教師の学びと研修—校内研修と教師の成長</p> <p>第5回: 教師の学びと同僚性—授業研究と授業づくり</p> <p>第6回: 教師の学びとキャリア・ステージ—中堅期の課題</p> <p>第7回: 教師の生活時間とサービス—教師の一日、一週間、一年</p> <p>第8回: 教師の精神的な報酬—感情労働と教師のやりがい</p> <p>第9回: 世界の教師たち—イギリスの事例より</p> <p>第10回: 世界の教師と21世紀の教育改革—フィンランドの事例より</p> <p>第11回: 協働的な学習と教師の仕事の変容—学び合いを育てる教師</p> <p>第12回: 教師のライフストーリー—教師の経験世界と時代</p> <p>第13回: 教師のライフサイクル—教師の一生</p> <p>第14回: 教師のミッションと歴史</p> <p>第15回: 学びの振り返り</p> <p>最終レポート</p>
<b>授業の方法</b>	<p>講義、ビデオ視聴、グループ・ディスカッションのほか、個人発表、ワークショップなども取り入れる。</p> <p>なお、オンライン授業の場合には、原則として録画によるオンデマンド方式で配信し、授業計画の組み替えも行われる。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>授業への参加(個人発表・グループワーク・コメント・ミニレポート)70点と最終レポート30点で総合的に評価する。</p> <p>なお、オンライン授業の場合は、課題のミニレポート70点と最終レポート30点で評価する。</p>
<b>教科書</b>	<p>プリントを配布する。</p>
<b>参考書</b>	<p>秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門』(有斐閣)</p> <p>高井良健一『教師のライフストーリー—高校教師の中年期の危機と再生』(勁草書房)</p> <p>金子奨・高井良健一・木村優『「協働の学び」が変えた学校 新座高校 学校改革の10年』(大月書店)</p>

武田忠・伊藤功一『教師が変わるとき・授業が変わるとき』(評論社)

伊藤功一『校内研修』(国土社)

**履修上の注意・備考**

この授業では、受講生が教室の前に出て、話をする機会や、ワークショップ形式の授業を行うこともある。教師を志す者として当然のことであるが、他の受講生や講師といった他者を尊重し、コミュニケーションに向けてひらかれることが求められる。これができない時は、受講を見直していただく場合があるので注意されたい。

授業中の私語やスマートフォンの使用など、ほかの受講生の学びを妨げる言動は慎まされたい。

**【履修上の注意】**

※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

※2018 年度以前開講「教師論」(担当教員:高井良健一)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照

※B 参照

時間割コード	09219204	担当教員	林 明子
単位数	2	学期	S1S2
		時限	金 4
講義題目	教育と社会 Education and Society		

授業の目的・概要	<p>この授業では、教育と社会をめぐる今日的な問題を取り扱い、学校教育制度や学校が抱える課題について学びます。そのなかで学校と家庭、地域との連携や、学校安全についての基本的知識も身に付けます。</p> <p>授業は教育社会学的な観点や知見をベースに展開します。以下の2点をこの授業の目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.学校とはどういう場所なのか、そこでは何を学んだのかという経験的な事柄について教育社会学的に理解し相対的な視点をもって考えられるようになる。</li> <li>2.現代社会における教育課題について理解し、複数の観点から検討できるようになる。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンスー教育と社会について、学校経験の多様性について</li> <li>2.公教育制度の法的・制度的仕組み</li> <li>3.学校教育をめぐる課題ー階層と学力</li> <li>4.子どもの生活の変化と指導上の課題①子どもの貧困・進路</li> <li>5.第2回から第4回までの振り返り</li> <li>6.子どもの生活の変化と指導上の課題②子どもの貧困・友人関係</li> <li>7.学校・家庭・地域との連携</li> <li>8.学校教育における教育課題(いじめ・不登校)</li> <li>9.第6回から第8回までの振り返り</li> <li>10.学校教育における教育課題(外国につながる子どもたち・セクシャルマイノリティ)</li> <li>11.学校と教師</li> <li>12.学校と子どもの安全</li> <li>13.第10回から第12回までの振り返り</li> </ol>
授業の方法	<p>授業はオンデマンドとリアルタイム(zoom)を併用します。リアルタイムで実施する際には、グループディスカッションを行います。また毎回ワークやコメントの提出を求めます。詳細は初回(4/9)の授業で説明します。</p>
成績評価方法	<p>ワークやコメント(50%)、期末レポート(50%)</p> <p>以上を総合して成績評価を行います。</p>
教科書	<p>教科書は指定しません。また授業内で、授業理解の手助けとなるような参考文献を随時紹介します。</p>
参考書	<p>苅谷剛彦他 2010『新版教育の社会学 &lt;常識&gt;の問い方、見直し方』有斐閣アルマ</p> <p>酒井朗他 2012『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房</p> <p>片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編 2017『半径5メートルからの教育社会学』大月書店</p>
履修上の注意・備考	<p>この科目は、教職課程における「教育の基礎的理解に関する科目のうち「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」に該当します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照</p> <p>※C 参照</p>

時間割コード	09219205	担当教員	小野田 亮介		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	教育心理 I Educational Psychology I				

授業の目的・概要	<p>【授業の目標】「学ぶこと」や「教えること」のメカニズムについて心理学の観点から理解し、子どもの学習を支援できるようになることを目指す。また、教育心理学的な視点から社会的な問題を分析し、教育の展開可能性を考えられるようになることを目指す。</p> <p>【概要】教育心理学の中でも「発達」「教授・学習」「思考」などのテーマを中心とした講義を行う。各テーマについて心理学の知見を紹介し、それらの知見を踏まえて自他の学習場面を分析し、支援に反映する方法について考える。</p>
授業計画	<p>第 1 回: ガイダンス—教育心理学とは</p> <p>第 2 回: 認知と言語の発達</p> <p>第 3 回: 社会性の発達—障害のある子どもへの理解と支援</p> <p>第 4 回: 記憶のメカニズム</p> <p>第 5 回: 知識と理解</p> <p>第 6 回: 問題解決</p> <p>第 7 回: 学習のメカニズム</p> <p>第 8 回: 動機づけ(1) 自己決定と自己効力感</p> <p>第 9 回: 動機づけ(2) 原因帰属と達成目標</p> <p>第 10 回: 学級集団と教師の関係</p> <p>第 11 回: 集団の中での学習</p> <p>第 12 回: 授業のデザインと評価</p> <p>第 13 回: 期末テストおよび解説</p> <p>※講義内容は変更になることがある。</p>
授業の方法	<p>WEB 上でオンデマンド型の講義を行う。講義受講後にリアクションペーパーによる授業内容の理解や疑問点の記入を求める。</p> <p>また、オンラインでコースクレジット課題(心理学実験・調査への参加)を行う場合もあり、これらへの参加を通して心理学の方法論について体験的に学ぶこともある。</p> <p>講義資料は ITC-LMS の「教材」にアップするので確認して欲しい。</p>
成績評価方法	<p>リアクションペーパー(30%)</p> <p>コースクレジット課題・講義内課題(20%)</p> <p>期末テスト(50%)</p>
教科書	特に指定しない。
参考書	授業時に適宜指示する。
履修上の注意・備考	<p>授業スライドを PDF で配付することとし、授業スライドに対して説明を加えている動画をみながら学習を進めて欲しい。</p> <p>資料や動画にアクセスできるページは ITC-LMS に掲載する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照</p> <p>※D 参照</p>

時間割コード	09219206	担当教員	岩田 一正		
単位数	2	学期	S1S2	時限	水 5
講義題目	教育課程 I Curriculum Studies I				

授業の目的・概要	<p>教育課程やカリキュラムは、学習指導要領や教科書と同一視され、固定化されたものと認識される傾向があるが、本授業はこの認識の妥当性を考察していくことを課題とする。この課題に迫ることによって、カリキュラムの具体的内容の選択基準やカリキュラム編成の方法・類型を批判的に検討できる力を獲得するとともに、学校や子ども、また地域に即してカリキュラムを編成する意義を理解していくことを目指す。具体的には、カリキュラムという用語の歴史、学習指導要領の内容・歴史の変遷・役割・意義・改訂の背景、教科領域横断的総合的学習、教育内容の選択基準・カリキュラム編成の類型、ヒドゥン・カリキュラム、他国のカリキュラムなどを学ぶこととなる。なお、扱うテーマによっては、グループワークに取り組んでもらうこともある。</p>
授業計画	<p>第 1 回:オリエンテーション</p> <p>第 2 回:カリキュラムの構成要素</p> <p>第 3 回:戦前・戦時期のカリキュラム、学習指導要領の変遷 1【1947 年、1951 年、1958 年学習指導要領の内容、社会的背景】</p> <p>第 4 回:学習指導要領の変遷 2【1968 年、1977 年、1989 年学習指導要領の内容、社会的背景】</p> <p>第 5 回:学習指導要領の変遷 3【1998 年、2008 年、2017 年学習指導要領の内容、社会的背景】</p> <p>第 6 回:カリキュラム評価の方法【PDCA サイクルの確立、全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS、ランダム化比較実験】</p> <p>第 7 回:教科領域横断的総合的な学習の編成 1【総合的な学習の時間の意義、総合学習の映像資料の視聴】</p> <p>第 8 回:教科領域横断的総合的な学習の編成 2【地域、学校、子どもに即した総合学習のテーマ設定、学びの蓄積、総合学習で生じ得る困難】</p> <p>第 9 回:カリキュラム編成の背後にある教育観、カリキュラム編成の原理・方法・類型、教育内容・カリキュラムの具体的内容の選択基準、各カリキュラム編成方法の差異</p> <p>第 10 回:ヒドゥン・カリキュラム 1【ヒドゥン・カリキュラムとは、研究の展開】</p> <p>第 11 回:ヒドゥン・カリキュラム 2【ヒドゥン・カリキュラムの事例、ジェンダー】</p> <p>第 12 回:他国のカリキュラム①【各国の学力調査・統計から見える姿、映像資料の視聴】</p> <p>第 13 回:他国のカリキュラム②【アメリカと韓国のカリキュラム】</p> <p>第 14 回:他国のカリキュラム③【イギリスとフィンランドのカリキュラム】</p> <p>第 15 回:まとめ</p> <p>以上のように計画しているが、状況に応じて変更することがある。</p>
授業の方法	<p>本授業は Zoom によるライブ配信授業として実施する。また、学生の教育課程に関する具体的な理解を促進するために、映像資料の視聴も実施する(Google ドライブを使用)。なお、テーマによっては、受講生にブレイクアウト・ルームにおけるセッションに取り組んでもらい、それを踏まえてレポートを記述してもらう。</p> <p>ライブ配信授業で使用するスライドを PDF ファイルとしたものを、LMS を通じて配布するので、事前に読んでもらいたい。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加度(60%:授業の際に提示する課題についてコメントを提出してもらう。そのコメントの提出と内容を根拠とする)、レポート(40%:前記した「授業の目標」達成しているかどうかを評価する)</p>
教科書	<p>金井香里・佐藤英二・岩田一正・高井良健一『子どもと教師のためのカリキュラム論』成文堂、2019 年。</p>
参考書	<p>文部科学省(文部省)『学習指導要領』(各年度版)</p> <p>Philip Jackson, Life in Classrooms,</p>

Holt,  
Rinehart and Winston,  
1968.

国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能』1・2・3、ぎょうせい。

同前『生きるための知識と技能』4・5・6・7、明石書店。

ブルデュー、パスロン『再生産』藤原書店、1991年。

天野正子編『新編 日本のフェミニズム 8 ジェンダーと教育』岩波書店、2009年。

直井道子・村松泰子編『学校教育の中のジェンダー』日本評論社、2009年。

生田久美子編著『男女共学・別学を問いなおす』東洋館出版社、2011年。

北野秋男・吉良直・大桃敏行編『アメリカ教育改革の最前線』学術出版会、2012年。

熊倉啓之『フィンランドの算数・数学教育』明石書店、2013年。

友野清文『ジェンダーから教育を考える』丸善プラネット、2013年。

教育科学研究会編『学力と学校を問い直す』かもがわ出版、2014年。

丹羽美之・吉見俊哉編『記録映画アーカイブ 2 戦後復興から高度成長へ』東京大学出版会、2014年。

鈴木大裕『崩壊するアメリカの公教育』岩波書店、2016年。

北川達夫他編『フィンランドの教育』フォーラム・A、2016年。

エステル・デュフロ『貧困と闘う知』みすず書房、2017年。

日英教育学会編『英国の教育』東信堂、2017年。

岩田一正『教育メディア空間の言説実践』世織書房、2018年。

デイヴィッド・ラバリー『教育依存社会アメリカ』岩波書店、2018年。

樋田敦子『東大を出たあの子は幸せになったのか』大和書房、2018年。

ジャック・ジェニングズ『アメリカ教育改革のポリティクス』東京大学出版会、2018年。

OECD『図表で見る教育 OECD インディケーター』2020年版、明石書店、2020年。

文部科学省『諸外国の教育動向』2019年度版、明石書店、2020年。

その他の参考文献は、授業の際に提示する。

**履修上の注意・備考**

学部 1 年生から授業できる科目であるため、受講するために必要な予備知識というものはないが、上記した PDF ファイルは事前に読んで授業に参加してもらいたい。

※2018 年度以前開講「教育課程」(担当教員:岩田一正)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。

**教育職員免許法上の認定科目**

教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照  
※F 参照



時間割コード	09219207	担当教員	西野 真由美		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 5
講義題目	道徳教育の理論と実践 Theory and Practice of Moral Education				

授業の目的・概要	<p>学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の理論と実践についての理解を深め、道徳教育の視点で学校カリキュラムの全体を捉え、教科等横断的な視点や地域社会の資源を活用した道徳教育のカリキュラム・マネジメントを実践し、道徳授業を構想する力を育てることを目標にしています。</p>
授業計画	<p>以下のテーマに沿って、進めます。</p> <p>(1)学校における道徳教育の意義</p> <p>学校で「道徳」を「教える」なんて不可能、もしできるとしても、危険。そんな道徳教育への疑問や疑念を出し合って検討したうえで、学校における道徳教育が何を指すのかを批判的に検討しましょう。</p> <p>(2)日本における道徳教育の歴史</p> <p>明治以降の学校教育が国民意識形成に与えた影響を道徳教育の視点で見直します。</p> <p>(3)道徳教育の理論</p> <p>代表的な道徳教育理論を理解して教育実践に生かす方法を検討します。</p> <p>また、道徳の教科化に向け、「考え、議論する道徳」授業の実現に求められる指導法や評価に関する考え方を明らかにします。</p> <p>(4)現代的な諸課題と道徳教育</p> <p>キャリア教育、科学技術教育、情報教育など現代的な諸課題に道徳教育でどう取り組むかを具体的に考え、カリキュラムと授業を構想します。</p>
授業の方法	<p>授業は、リアルタイム型のオンラインで実施予定です。アクティブ・ラーニングやグループワークを対面授業のように体験するのは難しいかもしれませんが、皆さんの意見をできるだけ反映しながら、インタラクティブな授業になるように努力します。ぜひ積極的に参加してください。</p>
成績評価方法	<p>毎時間の授業で提出していただくアクションペーパーと授業で指定する参考文献へのレポートで評価します。</p>
教科書	<p>講義テーマごとにレジュメを配布します。</p>
参考書	<p>参考文献はテーマ別に指示します。授業で配布するレジュメに提示した参考文献のなかから、一冊を選んでレポートを提出して下さい。</p>
履修上の注意・備考	<p>授業では、様々なグループワークを実施します。オンラインでグループでの共同作業やディスカッションをしていただくこととなりますので、受講環境にご留意ください。授業で使用する資料や課題は、ITC-LMS で配布していきます。授業前後に確認するようにしましょう。</p> <p>4/13(火)より、オンライン授業で開講します。講義は月曜日ですが、第一回のみ、4/12(月)の振替で、火曜日の開講となります。ご注意ください。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照</p> <p>※G 参照</p> <p>教科又は教職に関する科目(旧)</p> <p>大学が独自に設定する科目(新)</p>

時間割コード	09219208	担当教員	小国 喜弘 草薨 佳奈子		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 6
講義題目	特別活動論 Extra-Curriculum Activity				

授業の目的・概要	<p>社会が変わる中、特別活動の内容や指導法も変化している。特別活動は教科外活動を通じて多岐にわたる資質・能力の育成が期待されているが、教科書がなく教員の創造性や指導力が試される領域であるともいえる。本コースでは、特別活動の目標、内容、実践、課題を学ぶとともに、人間形成、他者との共存、社会との関わり方など、将来の社会生活につながる能力・資質、学校生活のあり方についても検討していく。</p>
授業計画	<p>第1回 教科外活動としての特別活動</p> <p>第2回 特別活動の目標と意義</p> <p>第3回 学級活動・ホームルーム活動</p> <p>第4回 学校行事の意義と実践</p> <p>第5回 生徒会活動の意義と実践</p> <p>第6回 特別活動と生徒指導</p> <p>第7回 特別活動における体験活動</p> <p>第8回 特別活動における人間形成と市民性教育</p> <p>第9回 グループ発表</p> <p>第10回 グループ発表</p> <p>第11回 グループ発表</p> <p>第12回 グループ発表</p> <p>第13回 海外の特別活動とその実践</p> <p>第14回 特別活動の指導と評価</p> <p>第15回 特別活動の今日的役割、まとめ</p>
授業の方法	<p>特別活動は日々の学校生活で重要な役割を果たしているが、教科の活動と比較すると教育的意義が必ずしも理解されていないことが多い。本講義では批判的に特別活動の目的や教育活動の内容を検討し、これからの社会を担う次世代の育成に、必要な資質・能力について考えていく。また批判的思考力や協働する体験をつけるため、グループディスカッションを行う他、グループ発表、レポートにも取り組む。</p>
成績評価方法	<p>本授業の評価は、以下の規準によって行う。授業への参加度・リアクションペーパー(30%)、グループ発表(30%)、期末レポートの内容(40%)により、総合的に判断する。</p>
教科書	<p>『特別活動論 / (新・教職課程シリーズ)』犬塚文雄編著、一藝社</p> <p>国立教育政策研究所教育課程研究センター(2016)学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)</p> <p>中学校学習指導要領 解説 特別活動編(文部科学省ホームページ)</p> <p>高等学校学習指導要領 解説 特別活動編(文部科学省ホームページ)(同前)</p> <p>中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間編(文部科学省ホームページ)</p> <p>高等学校学習指導要領 解説 総合的な探究の時間編(文部科学省ホームページ)</p>
参考書	<p>日本特別活動学会(2010)『新訂 キーワードで拓く新しい特別活動』</p> <p>『特別活動』折出健二・和井田清司他、学文社</p> <p>『特別活動』(新しい教職教育講座 教職教育編)中村 豊、原 清治(編著)</p>
履修上の注意・備考	<p>初回の授業では授業方法、授業形態、履修上の諸注意について説明するため、履修希望者は必ず出席すること。</p> <p>授業で事前学習に基づきグループワークを行うため、必ず行うこと。また毎授業後にリアクションペーパーの提出があ</p>

る。積極的な発言・参加を求める。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照

※1 参照

時間割コード	09219209	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2	学期	S1	時限	月 5, 月 6
講義題目	教育の方法 I Teaching Methods I				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>[授業の目標]</p> <p>学校教育における「授業」について様々な視点から検討することを通して、学校教育や教室といった制度的な学習の場の特質、社会文化的な状況における子どもの学習のありようと支援の方法、子どもの学習・発達を支援する専門家としての教師の実践を理解することをめざす。具体的には以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育における授業の特質について理解する。</li> <li>2. 授業という営みの特徴、授業の構成要素、授業のデザイン、について理解する。</li> <li>3. 授業における子どもの学習の特徴や支援の方法について理解する。</li> <li>4. 専門家としての教師の知識の特徴、専門的発達について理解する。</li> <li>5. 学校や教室とはどのような学習環境であるのか、教師はそこで何をすべきかについて考察する。</li> </ol> <p>[授業の概要]</p> <p>学校における教師の仕事の中心は授業の構想、実践、省察を通して子どもの学習を支援することである。この授業では、学校における授業の目的、授業の歴史や形態、授業のコミュニケーション、授業のデザインと評価、教師の実践的知識と成長などについて、実践事例や研究事例を検討しながら探究していく。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子どもがどう生きているのか、教師の立場からその生をどのように看取ることができるのか、ということを追及していく。</p>
<b>授業計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ガイダンス</li> <li>②教室という時空間</li> <li>③教室における学習の特徴</li> <li>④ディスカッション1</li> <li>⑤学習者とは</li> <li>⑥学習者の声を聴く</li> <li>⑦ディスカッション2</li> <li>⑧授業の成り立ち</li> <li>⑨授業を準備する</li> <li>⑩授業をおこなう</li> <li>⑪授業を評価する</li> <li>⑫ディスカッション3</li> <li>⑬まとめ</li> </ol>
<b>授業の方法</b>	<p>以下の方法を組み合わせておこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画コンテンツ視聴</li> <li>・動画コンテンツ視聴に基づく課題への取り組み</li> <li>・動画コンテンツや課題についての解説(講義とディスカッション)</li> </ul> <p>詳細については初回の授業において説明する。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>定期試験を行わず、平常試験(課題・レポート等)で総合評価する。</p> <p>「コンテンツごとの課題」(60%)、「最終論述課題」(40%)によって総合的に評価する。ただし、コンテンツごとの課題提出が全体の3分の2に満たない場合および最終論述課題が未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。</p>

<b>教科書</b>	指定せず、授業中に資料を配付する。
<b>参考書</b>	秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』(放送大学教育振興会) 秋田喜代美・佐藤学(編著)『新しい時代の教職入門』(有斐閣) 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』(岩波書店) 佐藤学『教育方法学』(岩波書店)
<b>履修上の注意・備考</b>	とくになし ※2018 年度以前開講「教育の方法」(担当教員: 藤江康彦)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照 ※J 参照

時間割コード	09219210	担当教員	寺崎 里水		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 6
講義題目	進路指導・生徒指導 Career Guidance and Pupil Guidance				

授業の目的・概要	<p>学校教育における生徒指導、進路指導およびキャリア教育の意義と原理を理解するとともに、今日の中学生、高校生を取り巻く環境、若者のキャリア形成上の課題について学ぶ。また、個別の事情や課題を抱えた児童・生徒に対する生徒指導、進路指導およびキャリア教育の適切な指導に向けた方法原理、体制づくり、法令の内容を理解する。</p> <p>具体的には個別のトピックをとりあげながら、家庭環境の変化、多様性への対応、標準的キャリアの揺らぎ、若者文化と学校文化の衝突などの学校をとりまく状況を理解し、生徒に向き合うための教育観、発達観、指導観を確立する。また、ロールプレイングやグループワークを取り入れながら、児童生徒理解、個別の課題への対応、家庭や地域・関係機関との連携などに関して、実践に向けた基礎的な知識や指導方法を獲得する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒指導・進路指導の意義と教育課程上の位置づけ</li> <li>2 社会の変容と学校における生徒指導の変化①生徒理解、居場所づくり</li> <li>3 社会の変容と学校における生徒指導の変化②生活習慣の確立と規範意識の醸成</li> <li>4 教育問題への対応①:学校に行かない、行けない子ども</li> <li>5 教育問題への対応②:非行、逸脱行動</li> <li>6 教育問題への対応③:生徒指導の体制と方法</li> <li>7 進路指導・キャリア教育①:若年層のキャリア形成上の諸課題</li> <li>8 進路指導・キャリア教育②:キャリアプランを考える</li> <li>9 進路指導・キャリア教育③:学校の教育活動とキャリア教育</li> <li>10 進路指導・キャリア教育④:生涯にわたるキャリア形成</li> <li>11 学校と家庭・地域・関係機関との連携</li> <li>12 地域・学校の多様性と進路指導・生徒指導</li> <li>13 いじめ自殺裁判から「いじめ」と「自殺」を考える</li> <li>14 自分自身の命を守る安全教育</li> <li>15 まとめ</li> </ol>
授業の方法	<p>講義形式を主体として、課題に応じてグループワークや DVD 鑑賞、ロールプレイングを行う。その結果をコメントシートやミニレポートにまとめて提出してもらう。</p> <p>講義は、授業の内容に関するプリントを配布し、それに沿った形で進める。</p>
成績評価方法	授業中のグループワークの成果や課題をまとめたコメントシート 40%、期末試験 60%。
教科書	とくに指定しない。
参考書	文部科学省(2010)『生徒指導提要』※web でダウンロード可能 授業内で適宜指示する。
履修上の注意・備考	配布資料をしっかりと保存すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照 ※K 参照

時間割コード	09219211	担当教員	高岡 佑壮		
単位数	2	学期	A1A2	時限	月 5
講義題目	教育相談 I School Counseling I				

授業の目的・概要	<p>幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。具体的には、①学校における教育相談の意義と理論、②カウンセリングの意義及び理論や技法に関する基礎的知識、③教育相談の具体的な進め方やそのポイント・組織的な取り組みや連携の必要性を理解することを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション／教育相談とは  第2回:子どもの適応・不適応  第3回:児童・思春期の精神疾患の理解と対応  第4回:カウンセリングの基本とその考え方  第5回:カウンセリングの基本的な技法  第6回:認知行動療法  第7回:クライアント自身の気づき・成長の支援  第8回:不登校の理解と対応  第9回:いじめ・非行の理解と対応  第10回:発達障害の理解と対応① 他者との関わりを苦手とする子どもの特性理解  第11回:発達障害の理解と対応② 見えにくい発達の偏りを持つ子どもの特性理解  第12回:発達障害の理解と対応③ いじめや不登校などの背景にある発達に関する問題への対応  定期試験</p>
授業の方法	<p>基本的に講義形式を取り、近年の学校現場における教育相談の重要性、教育現場において幼児・児童・生徒が直面しやすい様々なメンタルヘルス上の問題、代表的な心理的介入の理論や技法等について概説する。また相談を受ける上で必要な基本的姿勢の涵養を目指し、講義内で教員が提示する教育相談上の諸問題について考察の上リアクション・ペーパーにまとめる課題を講義内で実施する。</p>
成績評価方法	<p>定期試験(70%)  授業参加及びリアクション・ペーパー等(30%)</p>
教科書	<p>持参しなければいけない教科書等は特になし</p>
参考書	<p>「よくわかる臨床心理学」下山晴彦(編) ミネルヴァ書房  ※その他、授業の中で適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>事前に履修しておくべき科目等はないが、子どもの発達に関する講義内容が多く含まれるため、発達心理学・教育心理学・臨床心理学等への関心があると望ましい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照  ※L 参照</p>

特設科目

時間割コード	09219901	担当教員	栗田 佳代子		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 4
講義題目	「学びの場」づくり How Learning Works				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>授業の概要</p> <p>『大学における「学びの場づくり」ーよりよいティーチングのための7つの原理』において紹介されているよりよいティーチングのために役に立つ7つの原理を丁寧に理解していきます。「ティーチングのため」に紹介されている原理ですが、社会において人に何かを伝え理解してもらうという機会は誰もが持ちうるものです。また、これは学習者側にとっても役に立つ原理です。各原理について、紹介事例について考え、研究知見を理解し、自分なりの行動指針として昇華していくという方法で学びます。</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7つの原理を他者に説明できる。</li> <li>・ティーチングの失敗事例について、その解決案を7つの原理をもとに示すことができる</li> <li>・7つの原理を自分の教える機会あるいは学ぶ機会においてその設計に応用できる</li> </ul>
<b>授業計画</b>	<p>授業は原則下記にしたがって進みます。</p> <p>4/6 (1) イントロダクション この講義の目的・目標、進め方などのガイダンス 学びの場をうまくつくることの重要性</p> <p>4/13 (2) モチベーション 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>4/20 (3) モチベーション(オンデマンド回) ARCS モデルを学びます。動画を視聴し課題に取り組みます</p> <p>4/27 (4) 先行知識の影響 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>5/11 (5) 知識の体系化 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>5/18 (6) 知識の体系化の続き 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>5/25 (7) 学生の熟達 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>6/8 (8) 練習とフィードバック 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>6/15 (9) 練習とフィードバック(2) 中間レポート発表 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>6/22 (10) 学生の発達と授業の雰囲気 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>6/29 (11) 学生の発達と授業の雰囲気の続き 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>7/6 (12) 自律的学習者 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>7/13 (13) まとめ</p>



<b>授業の方法</b>	<p>本授業では、講義スタイルの他に、アクティブラーニングの実際の方法を体験的に学ぶことを目的として、グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れますので、積極的な授業参加を求めます。</p>
<b>成績評価方法</b>	<p>成績評価方法</p> <p>授業への参加状況 50%</p> <p>レポート課題 50%</p> <p>(内訳)100 点満点とした場合の各配点</p> <p>授業の参加状況 50</p> <p>個人ワークへの取り組み 20</p> <p>グループワーク・全体ディスカッションへの貢献 20</p> <p>レポート課題の相互評価への取り組み 10</p> <p>レポート課題 50</p> <p>相互評価 25</p> <p>教員による評価 25</p> <p>* 授業の参加状況については、基本的な受講態度を考慮します。授業に集中し、真面目に取り組むグループワークや全体に貢献する姿勢を高く評価します。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とします。</p>
<b>教科書</b>	<p>教科書</p> <p>スーザン A アンブローズ、マイケル W ブリッジズ、ミケーレ ディピエトロ、マリーシャ C ラベット、マリーK ノーマン (著) 栗田佳代子 (訳) (2014)「大学における「学びの場づくり」よりよいティーチングのための 7 つの原理」玉川大学出版部</p>
<b>参考書</b>	<p>参考書・リーディングリストについては授業中に適宜指示します。</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>前提知識は特に必要としません。</p> <p>書籍講読を含んだ授業ですので、教科書は受講を決定したらご用意ください。</p> <p>・ディスカッションを多く行う授業です。</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09219902	担当教員	小国 喜弘 星加 良司		
単位数	1	学期	A1	時限	金 5
講義題目	特別支援教育総論Ⅱ An Introduction to Special Needs Education Ⅱ				

授業の目的・概要	<p>本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。</li> <li>2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。</li> <li>3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育の制度と構造、特別支援教育とインクルーシブ教育</li> <li>2. 特別な教育的ニーズを示す子どもの理解と合理的配慮</li> <li>3. 障害の個人モデルと社会モデル</li> <li>4. 発達障害やささまざまな障害の理解</li> <li>5. 人種、国籍、性、母国語、貧困等の理解</li> <li>6. インクルーシブな学校づくり:オルタナティブな学校の取り組みに学ぶ</li> <li>7. 通常学級におけるインクルーシブな学級づくり</li> <li>8. 特別支援教育コーディネーター、関係機関などの役割と連携</li> <li>9. 多様な差異を包摂するインクルーシブな学校づくり、地域づくり</li> <li>10. これからの特別支援教育／インクルーシブ教育の課題</li> <li>11.その他</li> </ol>
授業の方法	<p>オンラインで行う。</p> <p>講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。</p>
成績評価方法	各回のリアクション・ペーパーにもとづき、総合的に評価する。
教科書	小国喜弘編『社会モデルに基づくインクルーシブ教育』ミネルヴァ書房.2021年予定
参考書	<p>木村泰子・小国喜弘(2019)『「みんなの学校」をつくるためにー特別支援教育を問い直すー』小学館。</p> <p>この他、各回の授業の中で関係する文献を紹介する。</p>
履修上の注意・備考	主体的な参加を前提とする。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※E

時間割コード	09219903	担当教員	星加 良司		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	デイリアビリティ・ スタディーズ Disability Studies				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09219904	担当教員	星加 良司		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	ダイバーシティと社会 Diversity and Society				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09219905	担当教員	星加 良司、二羽 泰子		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	マイノリティの排除と包摂 Exclusion and Inclusion of the Marginalised				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>&lt;目的・目標&gt;</p> <p>本授業の目的は、社会における排除・包摂の過程や現象を通じて生み出された様々なマイノリティの位置と、それらの人々をめぐる関係性を分析するための理論や視点を獲得することにある。それにより、社会における異なる立場の人々の関係性について、意図的・無意図的に構築される社会の常識にとらわれることなく、多くの理論や視点を検討し、自らの研究課題に応じた解釈枠組みを選び取る力が得られるはずである。具体的には以下の3点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各社会的マイノリティの社会的位置に関し、どのような理論や視点があるのかについて概観できる。</li> <li>2) マイノリティに関わる葛藤やジレンマについて異なる視点から分析できる。</li> <li>3) 理論を身近な実践や経験と結びつけて検討できる。</li> </ol> <p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>本授業では、障害、人種、民族、貧困、性・ジェンダーなど、マイノリティに関わる問題について、特に社会との関係性の中で創り出されるマイノリティ共通の課題や接点に焦点を当てる。それらの人々の不平等や差別の分析に関わる理論文献の講読を行うとともに、受講者の経験や関心のあるマイノリティの実践と結びつけたディスカッションをすることで、マイノリティをめぐる様々な葛藤やジレンマがいかにして現れているのか、またマイノリティ化された人々はそれらとどのように向き合ってきたのかなどについて議論を深める。このようなプロセスを通じて、例えば批判的人種理論、ポストコロニアリズム、カルチュラル・スタディーズ、障害学、フェミニズム、クイアスタディーズ、スティグマ、ラベリング、インターセクショナルリティなどといった、関連する多様な理論・視点とその位置関係を把握するとともに、異なる視点から批判的検討を加えていく。</p> <p>※なお、本授業における講義は、教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターの二羽泰子が担当する。</p>
<b>授業計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・受講生の関心分野についての聴取</li> <li>2. 社会的マイノリティをめぐる議論の概要と主要な論点</li> <li>3. 文献講読演習 I</li> <li>4. 発展演習 I</li> <li>5. 文献講読演習 II</li> <li>6. 発展演習 II</li> <li>7. 文献講読演習 III</li> <li>8. 発展演習 III</li> <li>9. 文献講読演習 IV</li> <li>10. 発展演習 IV</li> <li>11. 文献講読演習 V</li> <li>12. 発展演習 V</li> <li>13. まとめ</li> </ol>
<b>授業の方法</b>	<p>教育学部の方針により、オンラインでの開講とする。Zoom を用いた講義やディスカッションを実施しながら、課題提出やオンデマンドのディスカッションのために Google Classroom を併用する予定である。</p> <p>本授業では教員の講義は補足的なものとし、受講生による課題報告及び教員や受講生同士のディスカッションにより探求的に授業を進める。</p>

<b>成績評価方法</b>	<p>文献課題 5 回(事前提出)60%、オンラインあるいはオンデマンドのディスカッション 40%の比率で評価を行う。事前課題については、文献読み取りの的確性と質問・コメントの論理性について、ディスカッションでは解釈の的確性と応用の論理性について評価を行う。</p>
<b>教科書</b>	<p>授業内で適宜指示する。</p>
<b>参考書</b>	<p>Identity/Difference Politics: How Difference Is Produced, and Why It Matters, Rita Dhamoon published in 2009 by UBC Press. (多文化主義におけるマイノリティは、支配的な文化に基づいて恣意的に解釈されてきた。一方本書では、マイノリティの実践を、自らの差異に異なる意味を与える戦略的な実践として解釈することで、異なるマイノリティ像を描き出すことを目指している。)</p> <p>The Power of Labelling: How People Are Categorized and Why it Matters, edited by Joy Moncrieffe and Rosalind Eyben. published in 2007 by Earthscan in the UK and USA. (カテゴリー化に伴っていかにマイノリティが作られるのかという根本的な問いから出発し、国際援助などの実践現場において、それらがどのように機能し、影響を与えているのかについて、ラベリング・スティグマ・ハビトゥスなどの中範囲の理論を用いて分析している読み応えのある書)</p> <p>Routledge Handbook of Postcolonial Politics, Edited by Olivia U. Rutazibwa and Robbie Shilliam published in 2018 by Routledge (人種・民族研究、国際開発学、ジェンダー研究、政治哲学等で繰り広げられてきた西洋的な議論が見過ごしてきた、あるいは生み出してきたマイノリティについて、異なる国・地域の異なるマイノリティの視点から議論している。)</p> <p>履修上の注意</p>
<b>履修上の注意・備考</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的マイノリティ・排除・包摂等に関する予備知識は特に必要としない。</li> <li>・マイノリティ個人の行動や成長よりも、マイノリティと社会との関係性や不平等の問題に関心を持つ者の受講を歓迎する。</li> <li>・本授業では日本語の文献が限られることから、英語で文献を読むことが求められる。課題文献を熟読し、授業内のディスカッションに積極的に参加することが期待される。</li> <li>・本授業では、医療・福祉・環境・政治・経済・国際等に関わる社会学の他、文化人類学、社会心理学などにも関わる学際的な課題を扱う予定であり、学部・研究科領域を超えた履修を</li> </ul>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09219906	担当教員	遠藤 利彦 多賀 厳太郎 浅井 幸子 野澤 祥子		
単位数	2	学期	A2	時限	集中
講義題目	<b>発達保育実践政策学概論</b> Introduction to early childhood development, education, and policy research				

授業の目的・概要	<p>発達保育実践政策学は、子どもの育ちを中心に置き、子育て・保育の実践や政策のあり方について、学術的に解明検討を行う学際的学問領域である。本授業では、発達保育実践政策学に関わる多様なトピック、すなわち、乳幼児の発達、保育の理論・歴史・実践・制度・政策についての基礎的事項ならびに国内外の最新研究動向を学ぶ。さらに、学んだことや自身の経験に基づき、これからの子育て・保育の実践や政策、それを支える研究のあり方について他者と議論し、考える。</p>
授業計画	<p>下記の内容について講義とグループワークによって学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①発達保育実践政策学の考え方</li> <li>②胎児・新生児・乳児の発達</li> <li>③乳幼児の認知的発達</li> <li>④乳幼児の社会情動的発達</li> <li>⑤乳幼児期の発達と子育て</li> <li>⑥保育の理論と基本的な考え方</li> <li>⑦保育の制度・政策</li> <li>⑧保育の思想と歴史</li> <li>⑨保育の質と保育者の専門性</li> <li>⑩海外の保育の動向</li> <li>⑪特別なニーズをもつ子どもの発達と保育</li> <li>⑫保育の多様な実践のあり方</li> <li>⑬発達保育実践政策学の課題について考える</li> </ol>
授業の方法	<p>講義とグループワークを適宜交えながら授業を進める。</p>
成績評価方法	<p>レポート</p>
教科書	<p>『あらゆる学問は保育につながる 発達保育実践政策学の挑戦』          秋田喜代美(監修) 山邊昭則・多賀厳太郎(編) 東京大学出版会</p>
参考書	<p>『乳幼児の発達と保育 食べる・眠る・遊ぶ・繋がる』          秋田喜代美(監修) 遠藤利彦・渡辺はま・多賀厳太郎(編著) 朝倉書店          『園庭を豊かな育ちの場に: 実践につながる質の向上のヒントと事例』          秋田喜代美・石田佳織・辻谷真知子・宮田まり子・宮本雄太(著) ひかりのくに          『園づくりのことは 保育をつなぐミドルリーダーの秘訣』          井庭崇・秋田喜代美(編著) 野澤祥子・天野美和子・宮田まり子(著) 丸善出版          『保育学用語辞典』</p>

秋田喜代美(監修) 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(編著) 中央法規出版

履修上の注意・備考

特になし

教育職員免許法上の認定科目



時間割コード	09219907	担当教員	尾竹 永子		
単位数	2	学期	S2	時限	土 3, 土 4
講義題目	デリシャスムーブメント: (Time is not Even Space is not Empty) Delicious Movement: Time is not Even Space is not Empty				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>この授業は、ニューヨーク在住のコンテンポラリーアーティストによる歴史、身体、時間、空間の認知とあらたな表現の可能性を多角的に探る授業である。探求、</p> <p>認識、発見のプロセスとして身体を動かし、時間と空間が不均衡でありながら連続していることを触知、経験する。他者の身体と感性を学び、自らの認識力、想像力、感受性、美意識を育てる。言葉の咀嚼、また言葉を使わずにも何をどのように認知し、あるいはコミュニケーションするか？ そのようにして学んだことをどのように再び言葉で表現するか？世界的なコロナ禍、いのちと歴史の流れを直視し 現在を生きることの意志、社会、他者への物言いについて対話する。アートをプライマリドキュメントとして参加者それぞれがあらたに経験し、表現の可能性を探る。ムーブメントを通して詩、死、暴力、共生、デモクラシー、核、歴史、意思表示などについて 新たな視点を得る、または模索する。ともに学ぶ( collective learning)、個人の選択( self-curation)を探索。</p>
<b>授業計画</b>	<p>講義期間中は 授業時間外に 毎週約4時間強のテキストの読書、ビデオの視聴、ムーブメントの自習が必要。あなたの時間と集中によってより学びが深まります。</p> <p>1945 年、2001 年、2011 年、現在他を共通なまたは 個人のメルクマールとして学ぶ</p> <p>スタジオで集えない、ズーム、コンピューなどのデフォルトと制約、身体がお互いによく見えない、正面や顔が過重に優先されるなどの制約を意識しつつ、何が出来るか、何ができないかを確かめながら授業を進めます。ズームを離れる時間もつくります。実験に加わる意気込みで参加してください。</p> <p>コースの最後はシラバスを補足、深化させるつもりでそれぞれのプロジェクトを計画、実践、シェアしてください。ジャーナルもファイナルプロジェクトもクラスで、またはそれ以外にもシェアするので見られることを意識してとりかかってください。</p>
<b>授業の方法</b>	<p>ムーブメントの実習：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.まず床に寝て身体をゆっくり動かす事で自分の身体への自覚をたかめる。</li> <li>2. 自己表現にとらわれず 課題にそって 身体をうごかす。</li> <li>3. 動物、植物、鉱物、もの、環境を身体を通して探る。他者にむかう経験を通じて他者と自分との共通点と違いの発見。境界を経験することによって本質を認識する。</li> <li>4. 空間と時間を感知し過去と未来を抱えた現在を大きな時間の流れのなかで認識する。</li> <li>5. 他の参加者と一緒に動き、見合う。</li> <li>6. ムーブメントをとおして芸術性と美の可能性を試行、発見する。</li> </ol> <p>読む、書く、話す、聞く、発表する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読書とビデオ視聴、ジャーナル他の宿題を個人の経験としてとらえる。何をどのように記憶にとどめるか？ 学びの中の連関を意識する。音読、暗記 描写、詩作など</li> <li>2. 上記を小グループでシェア、話し合う、また全員に伝える 個人として考えるをくりかえすことで 聞くこと、自分を知識経験、意見の導管にすること、集団として学ぶことを試行しながら、個人の考えを築く。</li> <li>3. 論考を書く、書き直す。どのように有効に正確に意見を発表するか？</li> <li>4. 期末プロジェクトとレポートはクラスの内部及びその他でも公開する。</li> </ol> <p>アートについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1,</li> </ol>

	<p>舞台芸術、ビジュアルアーツの現役アーティストである私の作品と歴史をあなた達が関われる身近な例として見てもらいます。人の作品を見ることで自分の美意識を育てることもできます。</p> <p>2.</p> <p>過去の自分の感動と疑問の記憶を再訪、またはそういう機会を自分から新たにつくり( self curation)、それらの経験と気づきを蓄え、批判的にまたは共鳴してアートをみることを重ねます。</p>
<p><b>成績評価方法</b></p>	<p>課題の読み込みとビデオなどを注意深く見ること、締切を守った良質な宿題の提出、出席、授業での積極的参加、他の参加者への協力、Op Ed(論評)を書くこと、さらにと期末プロジェクトとそのプレゼンテーション、及びレポートが重要。</p>
<p><b>教科書</b></p>	<p>林京子 祭りの場</p> <p>林京子 トリニティからトリニティへ (<a href="https://www.amazon.co.jp/">https://www.amazon.co.jp/</a>長い時間をかけた人間の経験-講談社文芸文庫-林京子/dp/4061984071 に併録)</p> <p>大江健三郎 ヒロシマ ノート</p> <p>上記を注文してください</p> <p><a href="https://www.eikootake.org/virtual-studio">https://www.eikootake.org/virtual-studio</a></p> <p>ほか PDF 映画など多数</p>
<p><b>参考書</b></p>	<p>グーグルフォルダーをみてください。</p> <p><a href="https://drive.google.com/drive/folders/1jcSvv0IUkAId5RH9g_wVI_qTQThjLA01?usp=sharing">https://drive.google.com/drive/folders/1jcSvv0IUkAId5RH9g_wVI_qTQThjLA01?usp=sharing</a></p> <p>Eiko &amp; Koma、Time is not Even,</p> <p>Space is not Empty PDF</p> <p>Eiko Otake,</p> <p>A Body in Places PDF ほか</p> <p><a href="https://www.eikootake.org/media-work">https://www.eikootake.org/media-work</a></p> <p><a href="https://www.eikootake.org/the-duet-project">https://www.eikootake.org/the-duet-project</a></p> <p><a href="http://eikoandkoma.org/videos">http://eikoandkoma.org/videos</a></p>
<p><b>履修上の注意・備考</b></p>	<p>S2 タームにオンラインで授業します。授業が始まる前にも必ずアップデートをチェックしてください。</p> <p>林京子と大江健三郎の上記の本を注文してください。</p> <p>ズーム参加ですので 集中できる少しは動けるスペースの確保と電話でなくコンピューターでの参加が望まれます。</p> <p>できれば動くことが可能なラップトップ型の PC を使用してください。</p> <p>時には全身がズームのフレームにはいります。あなたの場所の背景もコンピューターを動かしてもらうので 他の参加者に見えることを承知してください。</p> <p>動きやすい、無地かそれに近い服装で参加し</p> <p>ズームのクラスでお互いを知っていくことは なかなか難しいので <a href="https://www.eikootake.org/media-work">https://www.eikootake.org/media-work</a> のなかから 2-3作ビデオを選んで見てそれについて 感想を書き 上記のメールアドレスに 6 月 4 日までにおくってください。そのさい 私に知ってほしいあなたのことも紹介がわりに少し書いてください。写真も送ってもらえると嬉しいです。履修するか決まっていない人は 今書かなくても良いですが 少しビデオを見てもらえると クラスをとるかを決めるのに参考になると思います。今週感想が出せない人</p>
<p><b>教育職員免許法上の認定科目</b></p>	

時間割コード	09219908	担当教員	中西 正康 岡田 猛		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	演技実践 Acting Lesson				

授業の目的・概要	俳優が行う演技練習を通し感性を磨き、共感力、コミュニケーション能力を高め豊かな人間なる。 解放を学ぶ、感じる  観点と水準： 生涯をかけて学ぶ力 相手の立場で感じられる力 コミュニケーション能力
授業計画	俳優が行うワークを通して自分自身と向き合い、リアリズム演技の根幹である自分と役を繋げることを学んでいきます。 相手の言葉を聞いてそれを繰り返すレペテション練習を中心に学びます。ただ言葉を繰り返すだけではなく、相手の様子、心の態度から気持ちや感情を受け取り、それを自分がどう感じているのかを相手に伝えます。この練習を行うことにより楽器(自分自身)が繊細になり、相手と共鳴し、交流ができ、思考を使わずに衝動に従い自由になれ、想像の世界で真に生きることができるようになります。
授業の方法	対面 または オンライン 少しでも多く実際に体験をして欲しいので実技が中心になります。
成績評価方法	演技的に上手い下手ではなく相手とコミュニケーションがとれているかをポイントに評価をします。
教科書	「リアリズム演技」 而立書房 著・ボビー中西
参考書	サンフォード・マイズナー オン アクティング
履修上の注意・備考	時間厳守 動きやすい服装
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09219909	担当教員	近藤 良平 岡田 猛		
単位数	2	学期	S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	身体表現の実践 Practice of Physical Expression				

授業の目的・概要	<p>本授業は、第一線で活躍する振付家・ダンサーの近藤良平による身体表現の授業である。</p> <p>本授業では、実際の身体表現を通して、身体で創造するとはどういうことかを体感することを大きな目的としている。</p>
授業計画	<p>オンラインで行うことを前提とする。授業進行の詳細については、受講者とのやり取りの上で随時変更していくが、今のところ、以下のような大枠で行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 身体表現のワーク①、映像鑑賞①、ディスカッション①</li> <li>3. 身体表現のワーク②、映像鑑賞②、ディスカッション②</li> <li>4. 身体表現のワーク③、映像鑑賞③、ディスカッション③</li> <li>5. 身体表現のワーク④、映像鑑賞④、ディスカッション④</li> <li>6. 散歩、創作</li> <li>7. 発表、ディスカッション</li> </ol>
授業の方法	<p>オンラインによる身体表現・映像鑑賞、ディスカッションなどの方法をとる。</p> <p>感染状況など諸条件により、内容や開講形式は変動する可能性がある。</p>
成績評価方法	<p>○以下の4点を踏まえて総合的に判断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やコメントシートの提出状況、4. 最終レポート</li> </ol>
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	<p>実技の授業なので毎回参加することは大切である。</p> <p>また、講師の指示があるときや、やむをえない状況を除いて、ビデオをオフにしての参加は不可である。</p> <p>実技授業と、オンラインの性質上、受講希望者が多い場合は、人数制限を設ける場合がある。</p> <p>準備しておくといもの：動きやすい服装、少しは動けるスペース、飲み物、タオルなど。</p> <p>ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う身体表現も専門的な技術は必要としません。初めて表現やダンスを行う方も歓迎します。また、どの学部の学生も歓迎します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09219910	担当教員	尾上 明代		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	ドラマセラピーを通じた 表現実践 Practice for Expression through Drama Therapy				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>授業の目標</p> <p>ドラマや劇を通して、「演じる」という芸術表現形態の楽しさを体験することで、創造性や自己表現力、自発性などを高めることを目標とする。</p> <p>グループダイナミクスやリフレクションを使うドラマセラピーのワークを媒体とすることにより、上記と同時に、コミュニケーション技術、自分自身とさまざまな他者への理解力、受容力を高めることができる。</p> <p>ドラマセラピーの理論的背景についての基本的理解が得られる。</p> <p>「演じること」は身体、感情、知性を統合しての活動であり、さらにドラマセラピストである講師が自由に楽しい感覚を提供しながら授業を進めることにより、上記のような能力が同時に高まることが可能となる。</p> <p>授業の概要</p> <p>ドラマや劇を演じることを通じて表現力や創造性を高めることを目指すコースである。</p> <p>「創造的教養人(岡田・縣、2013)*」を育成する一環として、表現を創造的かつ主体的に楽しむ体験を提供し、受講後の研究や職業生活、また人生を豊かにすることの一助になるようなアクティビティーで構成している。</p> <p>グループワークの中では自分を客観視できるだけでなく、自分の人生だけでは体験できない、他者の人生・状況・考え方などについても、より深い新しい理解が可能になる。さらに対人援助者(教師やセラピストなど)としての在り方、対象者への有効な働きかけを学べるという点も特徴であると言える。「ドラマ」で「役」を演じるということが、実はいかに「現実生活」を豊かにし、また問題解決のツールとして使えるかを、知的学習からだけでなく、身体・感情・感覚でホリスティックに理解し、かつ体得できるところがポイントである。</p> <p>ドラマセラピーはクリエイティブアーツセラピー、またグループセラピーの一つで、ドラマ・演劇のプロセスを系統的かつ意図的に用いる体験的アプローチである。ドラマセラピーそのものを学ぶ授業ではないが、この手法を使うことで、自己の意識と無意識を含む様々な心的要素がとり扱われ、また、他者や環境との関係、および他者の多様な側面の探索も可能になる。そのため、自己覚知と他者理解を深め、視点や行動、社会関係の変化を促すので、「セラピー」という狭い枠を超えて、人の創造性・自発性が必要となる多くの分野に汎用できる。特に教育分野では有用性が高い。</p> <p>* 岡田猛・縣拓 (2013),          芸術の認知科学 展望論文 創造の主体者としての市民を育む:「創造的教養」を育成する意義とその方法,          認知科学,          20(1),          pp27-45.</p>
<b>授業計画</b>	<p>第1回 このクラスの実施方法のオリエンテーションと初回 interaction のためのゲーム</p> <p>第2回 身体と心の解放</p> <p>第3回 想像力・創造力・即興力を豊かに</p> <p>第4回 フィクション(架空)とリアリティー(現実)の間を行き来する</p> <p>第5回 おとぎ話—象徴・架空の力</p> <p>第6回 ドラマセラピーの基本的な理論と事例(講義)</p> <p>第7回 心の障害物を乗り越えるドラマ</p> <p>第8回 人間関係、及び社会問題の探索1(ソシオドラマ)</p> <p>第9回 人間関係、及び社会問題の探索2(ソシオドラマ)</p>

	<p>第10回 人間関係、及び社会問題の探索3(ソシオドラマ)</p> <p>第11回 自分の「role」認識</p> <p>第12回 「ドラマ」から「現実」の変容へ</p> <p>第13回 グループプロセスの終結・まとめ</p>
<p><b>授業の方法</b></p>	<p>授業ではほぼ毎回、表現実践としてドラマ的ゲームや演技を行い、個人とグループの変容や発展を体験的に理解してもらう。「演じる」ことへの不安をとりのぞき、楽しく取り組めるように漸進的に丁寧に進めていく。このこと自体が、ドラマセラピーを媒体に使う利点の一つであるので、アクティビティーに不安がある人がいたとしても、心配せずに受講してほしい。</p> <p>毎回、必ずプロセスの振り返りを行い、クラス全体で自由なコメントを交換する。この振り返りや気づきを、2回程度のジャーナル(日誌)という形で提出してもらうこともある。</p>
<p><b>成績評価方法</b></p>	<p>表現力や創造性、自他の理解力などの発展・深化を、授業参加の様子やディスカッションの内容(50%)、2回程度のジャーナル(日誌)と期末レポート(50%)から総合して評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p>	<p>教科書は生協で手に入れて、2回目までに1章の事例を読んでおいてください。</p> <p>心ひらくドラマセラピー:自分を表現すればコミュニケーションはもっとうまくいく!</p> <p>尾上明代著(河出書房新社)</p>
<p><b>参考書</b></p>	<p>ドラマセラピーのプロセス・技法・上演—演じることから現実へ</p> <p>ルネ・エムナー 著(北大路書房)</p>
<p><b>履修上の注意・備考</b></p>	<p>体験型の学習なので、基本的に全回出席することがまず大切ですが、特に初回はオリエンテーションを兼ねているので、必ず出席して下さい。</p> <p>授業内での積極的な参加態度はもちろん良い評価の対象にはなりますが、「授業」だからといって、すべてのワークに無理に参加をしなければならない、というプレッシャーを感じる必要はありません。</p> <p>その時どきの自分の心身の状態に合わせて参加して下さい。</p> <p>「演技が得意な人、人前で発表することが好きな人」にのみ適しているアプローチではないかという勘違いもあるかもしれませんが、そうではなくてア</p> <p>受講の定員は23名です。</p> <p>授業初回の出席者と調整して決定します。</p> <p>状況により、2回目以降からの参加ができなくなることもありますので、ご了承ください。</p> <p>初回授業後、ここに状況を更新します。</p>
<p><b>教育職員免許法上の認定科目</b></p>	

時間割コード	09219911	担当教員	O JUN		
単位数	2	学期	S1	時限	月 3, 月 4
講義題目	超ドローイング演習 Drawing exercise				

授業の目的・概要	ドローイング制作を通して、素材、道具の扱い、身体感覚、記憶、伝え合いについて体験的に考察し個々の視覚世界を広げ深めることを目的とする。
授業計画	前期に集中講義で行う。zoom によるオンライン授業です。 zoom の URL は以下。 <a href="https://u-tokyo-ac-jp.zoom.com.cn/j/97196355396?pwd=VkdDZ2VRSE9DcnZiMFhJTUZnR2dsdz09">https://u-tokyo-ac-jp.zoom.com.cn/j/97196355396?pwd=VkdDZ2VRSE9DcnZiMFhJTUZnR2dsdz09</a>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ドローイング実技。画材、素材や道具の扱い方を学び実際にドローイングを描いてみる。</li> <li>■ドローイングの歴史や美術史の中でのドローイングの意味について講義。</li> <li>■ドローイング制作を通して自身の身体性や感覚について考察する。</li> <li>■ドローイングに関するワークショップを学生や美術家と共同で行う。</li> <li>■画廊、美術館、博物館、街中で作品鑑賞を行う。</li> <li>■zoom によるオンライン授業。URL は以下。 <a href="https://u-tokyo-ac-jp.zoom.com.cn/j/97196355396?pwd=VkdDZ2VRSE9DcnZiMFhJTUZnR2dsdz09">https://u-tokyo-ac-jp.zoom.com.cn/j/97196355396?pwd=VkdDZ2VRSE9DcnZiMFhJTUZnR2dsdz09</a></li> </ul>
成績評価方法	授業で制作されたドローイングの方法や考え方を評価する。実技の授業なので特に出席を重視する。
教科書	特になし。 授業に必要な資料や画像などはその都度こちらで用意する。
参考書	特になし。 授業に必要な資料、画像などはその都度こちらで用意する。
履修上の注意・備考	複数時限を連続して受講する集中講義なので他の教科とよく調整して取ること。 また、身体を使い、画材など道具を使う実技の授業なので各自健康管理に気をつけて受講すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09219912	担当教員	篠田 太郎
単位数	2	学期	A1A2
		時限	金 2
講義題目	この世界を抽象的視点で 遊ぶ Playing in this world with an abstract perspective		

授業の目的・概要	<p>とにかく広い視点を持ってもらうことかなあ？</p> <p>この2年間やって来て、もっと自由に世界を見てもいいんじゃないか？って思えたので、まあやる内容は多分そんなに変わらないのだろうけど、、、</p>
授業計画	<p>そもそも計画なんてないです。</p> <p>まあそれでも全力で過去2年はやりました。まるで長距離を短距離のスピードで走るように脳が疲労します。</p> <p>それは計画がないからでもあるし、その場や、その前の授業の雰囲気、今週は何をやるか？何をやったら面白い？必死で考えてリアルタイムで授業を作るからです。</p> <p>まあ大体例年と同じ内容だろうと思いますが、まずは自分の作品、そしてなぜそれを作ったか、それにどんな意味を持たせたか、、、全部の作品をとて説明できませんが、最初の2回、3回はそんな授業です。その後は対談をやったり、、、できれば3人以上のゲストを招きたいです。それからワークショップ。これは対面かオンラインかでも変わりますが、出来れば対面でみなさんとお会いできれば全ての授業はやりやすいですね。2020年度はただ画面のグリッドの名前に向かって一人で喋ってる感じでしたから、なので本当はディスカッションが重要だと思っていますし、オンラインでもディスカッションを促しましたが、なかなか発言は少なかったようで、でもこれは日本の学校の特徴だろうと思います。人と違う意見を言うのが怖い。本当はそんなことはないんですよ。多様性こそ全て。生物の進化もそれが重要だったのですからね。</p> <p>まあ話が逸れそうなので、授業計画ですが、つまりはいきあたりばったりです。笑</p> <p>でもだからと言って手抜きではないです。</p>
授業の方法	<p>これもどうしましょう。まあオンラインだったら、オンラインでしょうね。</p> <p>対面だったら皆さんと考えてもいいでしょう。天気がよかったらピクニックなんてのもいいかもしれませんが、思ったよりも人数が多いので、ピクニックには向かないかもしれません。今年少人数なら是非したい。</p>
成績評価方法	<p>これね、、、まあ考えときますが、とりあえずは出席日数で評価します。結局話がメインなので、遅刻して途中から話を聞いても面白くないでしょうから、遅刻も対象としておきますか。</p>
教科書	無
参考書	無もしくはその都度 web リンク先とかを掲示板に貼り付けます。
履修上の注意・備考	無
教育職員免許法上の認定科目	



時間割コード	09219913	担当教員	布山 毅		
単位数	2	学期	A1	時限	火 3, 火 4
講義題目	アートとしてのアニメーション表現行為 Animation as Art: Focus on Process				

授業の目的・概要	<p>本授業は、アニメーションを学ぶ授業というよりはアニメーションで学ぶ授業であり、アニメーションの表現行為に含まれる創造性やアート性について、実際につくる経験を通じて学ぶことが主目的になる。アニメーションは物理的には存在せず経験の中にしか存在しえないエフェメラルな表現であるが、その表現行為には独特の実感がある。その根底には常に遊びの感覚があり、単純にその行為は楽しいものでもある。本授業では試行錯誤の容易なプリミティブなアニメーションをつくる経験と省察を繰り返すことを通じ、その表現行為に含まれる魅力を共に探究していきたい。</p>
授業計画	<p>授業計画は受講者の変化に応じて随時更新されるが、基本的には毎回のワークショップ(WS)とディスカッションからなる以下の構成を目安とする。対面開催の場合は 20 名程度、オンライン開催の場合は 10 名程度の定員を設け、もし希望者が多い場合には初回のオリエンテーション時に抽選を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. WS1～遊び・共同・即興</li> <li>3. WS2～物語・制約・飛躍</li> <li>4. アニメーターの表現行為(ゲスト)</li> <li>5. アニメーション作家の表現行為(ゲスト)</li> <li>6. ワークショップデザインの実践</li> <li>7. レポートによる総括</li> </ol>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン開催の場合は、ZOOM と discord を使用予定。音声のみの参加は不可。カメラ付の PC 等で参加すること。</li> <li>・オンライン開催の場合は、アニメーション制作用機材として、各自タブレット端末かスマートフォンが必要(ソフトウェアは講師が開発したアプリケーション等を授業内で適宜紹介する)。</li> <li>・対面開催の場合には、必要な機材は特にならない。</li> <li>・アニメーション分野の実践者のゲストを招いた講義を設ける予定。</li> </ul>
成績評価方法	授業への参加(40%)、事後的に記述してもらった経験のリフレクションシート(30%)、レポート(30%)
教科書	各回の授業内容に応じて適宜紹介する。
参考書	授業進行に応じて適宜紹介する。
履修上の注意・備考	履修の条件となる専門性や経験は特にならないが、希望者が多い場合は抽選による人数制限を行う(対面開催時 20 名程度、オンライン開催時 10 名程度)。抽選は初回授業時に行うので、受講希望者は必ず参加すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09219914	担当教員	西岡 龍彦		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 5
講義題目	映像のための音楽・音響 制作 Music Composition and Sound Design for Motion Picture				

授業の目的・概要	<p>映像と音楽や音響の関係を分析し、音楽やサウンドデザインの制作者の意図と制作方法を理解する。短い映像(実写、アニメーションなど)のための音楽とサウンドデザインの制作を経験する。</p> <p>The course aims to learn to analyze visual and auditory aspects in the motion picture and to understand the creative processes and the intention of the music and sound design. The students will experience creating music and sound design for short films of live-action and animation.</p>
授業計画	<p>映像のジャンル、時代やスタイルによって異なる音楽とサウンドデザインの制作方法を分析によって理解する。</p> <p>The students will analyze and understand the different creative methods exercised in the music and sound design for a different genre,</p> <p>era,</p> <p>and style of the pictures.</p>
授業の方法	<p>受講生は、自分で選んだ映像作品の音楽とサウンドデザインを分析し発表する。また、グループによる短い映像作品の音楽とサウンドデザインを完成して講評会を行う。</p> <p>Each student will present the analysis of the music and sound design in a film of one's choice. Also, the students are to submit their group works and receive feedback in the review sessions.</p>
成績評価方法	<p>映像作品の分析と発表、講評会での発言を評価する。</p> <p>Evaluation will be done based on the student's analysis, presentation,</p> <p>and the comments and remarks in the review session.</p>
教科書	<p>使用しない。/ No textbooks are specified.</p>
参考書	<p>使用しない。/ No textbooks are specified.</p>
履修上の注意・備考	<p>受講生に課す「音楽とサウンドデザインの分析と発表」を意識して映像作品を鑑賞しておくこと。</p> <p>When watching cinematic works,</p> <p>reflect on the course assignment of analyses and presentations on the music and sound design.</p> <p>受講生は 20 名以内に制限する。</p> <p>The number of students is limited to 20.</p> <p>映画、アニメーション、テレビ番組などの音楽やサウンドデザインに集中して聴取する経験をしておく。</p> <p>制作者の意図を理解するために、可能ならできるだけ高性能な音響再生装置を使うこと。</p> <p>Please focus on the music and sound design when watching movies,</p> <p>animations,</p> <p>or TV programs in daily life. If possible,</p> <p>do use high-quality audio equipment in orde</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09219915	担当教員	Steven Fischer		
単位数	2	学期	S1	時限	水 1, 金 1
講義題目	Cartoon Storytelling Cartoon Storytelling				

<b>授業の目的・概要</b>	<p>Each participant will produce at least two completed cartoon stories that demonstrates the student's ability to understand character development, narrative structure, and storytelling.</p> <p>Your final project is to create two stories – one fiction, one non-fiction – 3-5 pages each, minimum – based on your observation drawings and personal history.</p> <p>Finished cartoons are due on or before the final session. Your cartoons will need to be scanned so that the instructor has a hard copy version and a digital version of your cartoon story. NOTE: The in-class exercises are used to generate ideas for your final project, you cannot turn in class exercises as your final project.</p> <p>We will also explore non-fiction storytelling in cartoons and the power of personal storytelling. The central focus is on participants becoming a great observer of life and the characters that inhabit our daily lives. Participants can expect to be introduced to the possibilities cartooning offers as a vehicle to effectively tell a personal story. Participants should realize that while commercial cartooning may require certain skills and abilities, the only limitation in the art of cartoon storytelling are those self-imposed. Anyone willing to express him or herself honestly can create a legitimate comic.</p> <p>Our objective is to create and complete an original story with original characters. The participant's finished cartoons will be collected in PDF form as a keepsake.</p>
<b>授業計画</b>	<p>SESSION 1, INTRODUCTION</p> <p>SESSIONS 2 and 3, WRITING</p> <p>SESSIONS 4 and 5, CHARACTER DEVELOPMENT</p> <p>SESSIONS 6 and 7, NON-FICTION CARTOONS and NON-FICTION WRITING</p> <p>SESSIONS 8 and 9, PAGE LAYOUT</p> <p>SESSIONS 10 and 11, COMIC STRIPS and SINGLE PANEL GAGS</p> <p>SESSIONS 12 and 13, STORYBOARDS</p>
<b>授業の方法</b>	<p>Lecture, reading and discussion, drawing and writing exercises.</p>

<b>成績評価方法</b>	Grading will be based on attendance, in-class participation, class projects (homework), and the final project.
<b>教科書</b>	There is no required textbook, but we will have in-class handouts.
<b>参考書</b>	There is no reference book required, but some reference books will be recommended for student's personal interests.
<b>履修上の注意・備考</b>	Participants must attend each session. This is a practical course; there will be many in-class exercises that relate to your final project. The course will be presented in English.  n/a
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09219916	担当教員	Michael Spencer		
単位数	2	学期	S1	時限	金 5, 金 6
講義題目	Sound Sense: Reevaluating our relationship with music Sound Sense: Reevaluating our relationship with music				

授業の目的・概要	<p>The objectives for this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>· to expand your knowledge of musical practice</li> <li>· to be able to apply analytically the concepts introduced within the course, across a wide range of musical genres, but without the need for any formal training in musical theory.</li> <li>· To understand the value of music and its deeper role in society</li> </ul>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>· Thinking differently: music, memory, patterns and the management of expectation, educational practice in schools, societal change and the influence of the record industry on listening habits.</li> <li>· The building blocks of music, an introduction: rhythm, melody, harmony, texture, dynamic, silence</li> <li>· Rhythm: physiology and movement</li> <li>· Melody: prosody and respiration</li> <li>· Harmony: Pythagorus, the harmonic series, horizontal motion and vertical structures, Rameau (the Isaac Newton of music), the invention of music notation, and the problem with keyboards</li> <li>· Texture: aural colours and the blending of sounds</li> <li>· Dynamics: instrument design, noise, technological enhancement</li> <li>· Silence: the forgotten element</li> <li>· Architecture: the transition from simple to complex musical structures</li> <li>· Active listening: refining one's listening practice</li> <li>· Review</li> </ul>
授業の方法	<p>The course will be comprised of information giving, interactive challenges, and facilitated exchanges between participants</p>

<b>成績評価方法</b>	Class participation (presentations and in-class discussions)
<b>教科書</b>	Not applicable
<b>参考書</b>	A wide variety of music examples will be referred to throughout the course. In addition, recommended lists for further listening will be provided at the end of each session
<b>履修上の注意・備考</b>	<p>Before the course you will be required to prepare a short presentation (2-3 minutes) about a specific piece of music with which you feel a particular connection. There are no prerequisites for how you might do this. N.B. please inform the lecturer by email</p> <p>Not applicable</p>
<b>教育職員免許法上の認定科目</b>	

時間割コード	09219917	担当教員	
単位数	2	学期	A1A2
		時限	水 4
講義題目	バリアフリー総論 Introduction to Barrier-free Studies		

授業の目的・概要	<p>歩道にひいてある黄色い点字ブロックのデコボコが不便だと感じたことはありませんか？満員の通勤電車で電動車いす利用者が乗って来たら少し迷惑だと感じますか？</p> <p>近年、わたしたちの周りでは、「バリアフリー化」と呼ばれる環境整備が様々な場面で進められており、多くの場合、それは障害者にとって「やさしい」ことだと肯定的に受け止められています。ところが、ある障害者にとって「やさしい」環境を整備しようとしたところ、それが別の障害者や障害をもたない人たちにとって「やさしくない」環境を生み出してしまう、という事態も起きています。このように考えると、バリアフリーとは、一方で問題を解決しつつも、他方で別の問題を新たに生み出してしまうという二重性を内在した営みだと言うことができます。</p> <p>本講義では、バリアフリー化によって生み出される新たな問題と、その問題をめぐって人びとの間に引き起こされる衝突・対立を「バリアフリー・コンフリクト」というキーワードで捉えます。本講義を通じて、多様化、複雑化が進む現代社会において生じている様々なコンフリクトと向き合い、解決していくための技法について一緒に考えていきましょう。</p>
授業計画	<p>以下に示したテーマでの講義を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーコンフリクトとは何か</li> <li>・「回復」と「代償」のあいだ</li> <li>・読み書きできない子どもの難関大学進学は可能か？</li> <li>・障害者への割引サービスをずるいと感じるあなたへ</li> <li>・裁かれない人がいるのはなぜか？</li> <li>・全体の振り返りとまとめ</li> </ul>
授業の方法	<p>本授業は、東京大学先端科学技術研究センターに所属する教員(中邑賢龍、福島智、近藤武夫、熊谷晋一郎、高橋麻衣子)および東京大学学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター(星加良司)に所属する教員がオムニバス形式で行う講義です。</p>
成績評価方法	<p>期間終了後に提出を求めるレポートによって評価を行います。</p>
教科書	<p>なし</p>
参考書	<p>『バリアフリー・コンフリクト 争われる身体と共生のゆくえ』中邑賢龍、福島 智(編)、東京大学出版会、2012年9月</p>
履修上の注意・備考	<p>授業内容の問い合わせについては、直接担当教員までご連絡下さい。</p> <p>講義はオンラインで開講します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	